

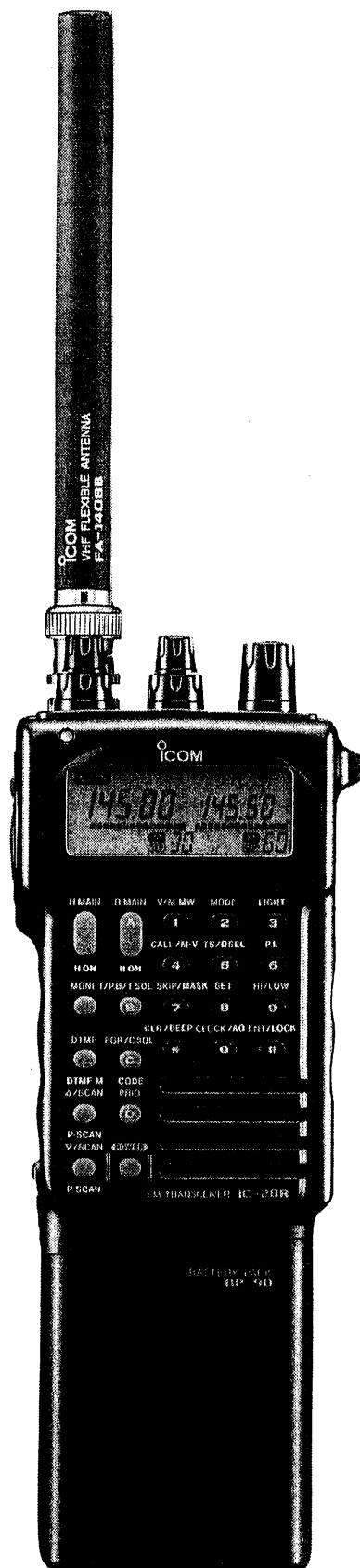
ICOM

取扱説明書

HANDHELD
FM TRANSCEIVER

IC-2SR IC-3SR

この無線機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。



Icom Inc.

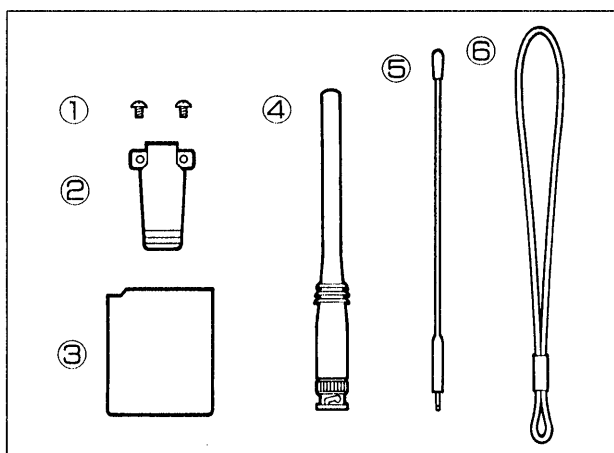
はじめに

このたびは、IC-2SR/3SRをお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。

本機は、ハムバンドのFM送受信機に、他のアマチュアバンドや、テレビ、FM放送などのレシーバーが付加された超多機能な無線機です。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

付属品



- ①ネジ(M3×3)2
- ②ベルトクリップ1
- ③バッテリーケース(BP-90).....1
- ④ハムバンド用アンテナ1
- ⑤受信専用アンテナ1
- ⑥ハンドストラップ1
- 取扱説明書
- 保証書
- 受用者カード

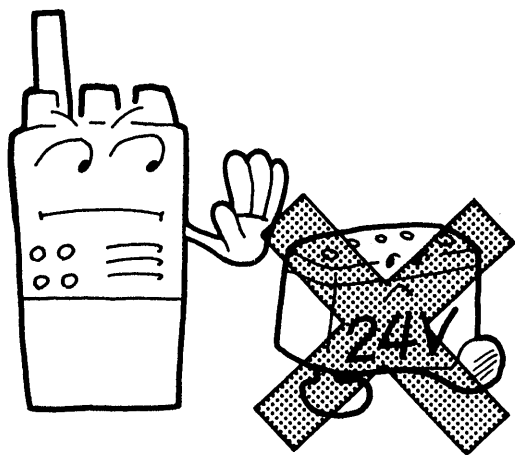
目次

| | |
|------------------------|--------------------------|
| 1. ご使用の前に..... 1 | 6. 受信バンドの基本操作について.....17 |
| バッテリーケースとアンテナ..... 3 | 7. シングルバンド運用.....18 |
| 2. 各部の名称と機能..... 4 | シングルバンド運用の操作.....18 |
| 2-1 上面操作部..... 4 | 8. コールチャンネルの使いかた.....19 |
| 2-2 前面/側面操作部..... 5 | コールチャンネルの呼び出しかた.....19 |
| 2-3 ディスプレイ..... 6 | 周波数の書き替えかた.....20 |
| 2-4 キーボード..... 7 | 9. メモリーチャンネルの使いかた.....21 |
| 3. 基本操作のしかた..... 9 | メモリーチャンネルの |
| 4. 周波数の設定のしかた.....12 | 呼び出しかた.....22 |
| 周波数の設定.....12 | メモリーチャンネルへの |
| チューニングステップを変更する.....13 | 書き込みかた.....23 |
| ダイヤルセレクト機能の操作.....14 | マスクチャンネルにする.....24 |
| 5. 送信出力の切り替えかた.....16 | 10. レピータ運用.....25 |

| | | | |
|---------------------|----|------------------|----|
| レピータ運用の手順 | 25 | コードの書き込みかた | 64 |
| DUPモニター機能について | 27 | 待ち受け動作の選択 | 66 |
| 11. スキャン機能とその操作 | 28 | ページャーまたはコードスケルチ | |
| スキャン機能を操作する前に | 28 | 機能による送信 | 67 |
| フルスキャン | 29 | ページャー機能による | |
| プログラムスキャン | 30 | 待ち受け受信 | 68 |
| 周波数スキップスキャン | 32 | コードスケルチ機能による | |
| メモリスキャン | 35 | 待ち受け受信 | 69 |
| メモリスキップスキャン | 37 | 17. その他の機能について | 70 |
| モードセレクトスキャン | 40 | PTTロック機能 | 70 |
| プライオリティスキャン | 42 | 周波数ロック機能 | 70 |
| ●VFO周波数を運用しながら | | ビープ音について | 71 |
| コールチャンネルを受信する | 42 | 照明の切り替えかた | 72 |
| ●VFO周波数を運用しながら指定の | | M▶VFO転送機能 | 73 |
| メモリーチャンネルを受信する | 43 | 受信モニター機能 | 73 |
| ●VFO周波数を運用しながら | | 18. オプション機能について | 74 |
| 全チャンネルを受信する | 45 | トーンスケルチユニットについて | 74 |
| 12. DTMF機能 | 46 | ユニットの取り付けかた | 74 |
| DTMFメモリーのしかた | 46 | トーンスケルチ機能の動作 | 75 |
| DTMFコードの送付 | 49 | ポケットビープ機能の動作 | 75 |
| 13. SETモードについて | 50 | トーンスケルチおよび | |
| SETモードの流れ | 50 | ポケットビープ機能の操作 | 75 |
| 操作のしかた(共通操作) | 51 | 19. 電池と外部電源 | 77 |
| 項目別セット方法 | 53 | 電池の入れ替え時期 | 77 |
| トーン周波数 | 53 | 運用できる時間の目安 | 77 |
| オフセット周波数 | 53 | 乾電池取り扱い上のご注意 | 77 |
| スキャンコントロール | 54 | ニッカド電池取り扱い上のご注意 | 78 |
| 周波数スキップスキャン | 54 | 外部電源と充電器について | 78 |
| パワーセーブ | 55 | 20. 付属品の取り扱いについて | 79 |
| 14. 時計モードについて | 56 | ベルトクリップの取り付けかた | 79 |
| 時計モードの流れ | 56 | ハンドストラップの取り付けかた | 79 |
| 操作のしかた(共通操作) | 57 | 21. 保守と運用上のご注意 | 80 |
| 項目別セット方法 | 58 | 表示がおかしくなったら | 80 |
| 時計の合わせかた | 58 | CPUのバックアップ電池 | 81 |
| タイマーオン/オフ機能 | 60 | 電波を発射する前に | 81 |
| 15. オートパワーオフ機能 | 62 | JARL制定の使用区分 | 81 |
| 操作のしかた | 62 | 22. トラブルシューティング | 82 |
| 16. ページャーとコードスケルチ機能 | 63 | 23. 免許の申請について | 83 |
| コードメモリーについて | 63 | 24. 定 格 | 84 |

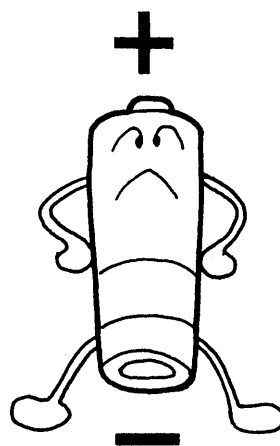
ご使用前に

A DC6~16V以外の電圧は使用できません。



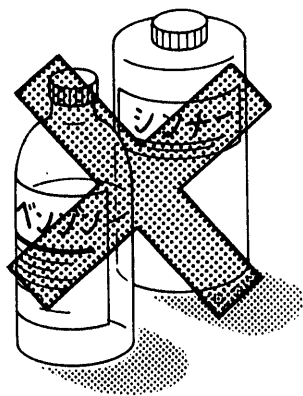
弊社指定のバッテリーパック、またはオプションケーブルをご使用ください。

B 乾電池の極性(+)と(-)をまちがえないでください。



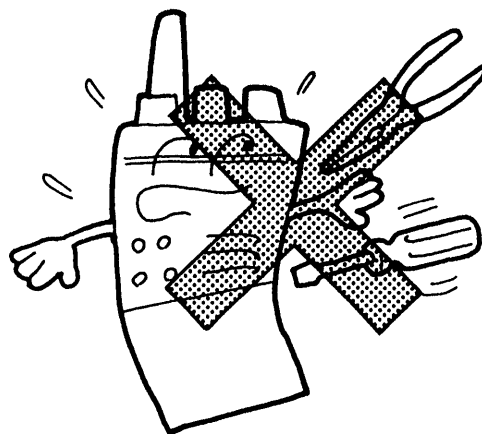
まちがった使いかたをすると、液もれや破れつすることがあり、故障の原因になります。

C シンナーやベンジンは絶対に使わないでください。



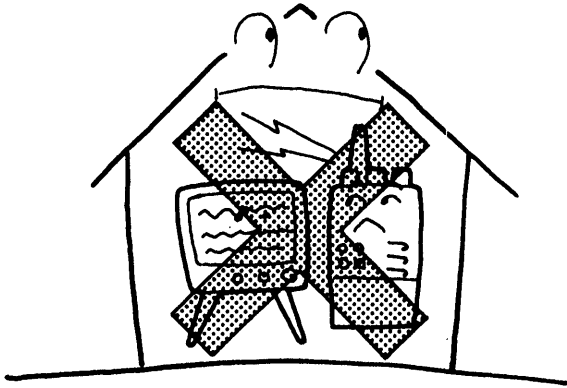
通常は乾いた布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤をひたして拭いてください。

D 内部のコアやトリマーをさわらないでください。



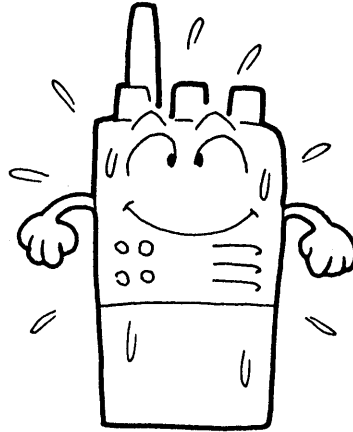
完全調整していますので、取扱説明書で指定していないところをさわると故障の原因になります。

E 室内で送信すると電波障害を
起こすことがあります。



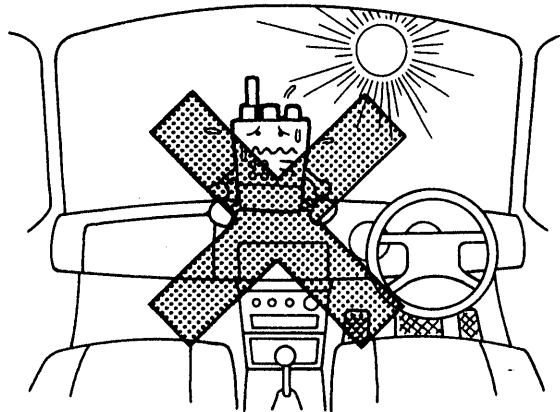
室内で送信するときは、外部アンテナをご使用
ください。

F 長時間送信すると熱くなりま
すが、異常ではありません。



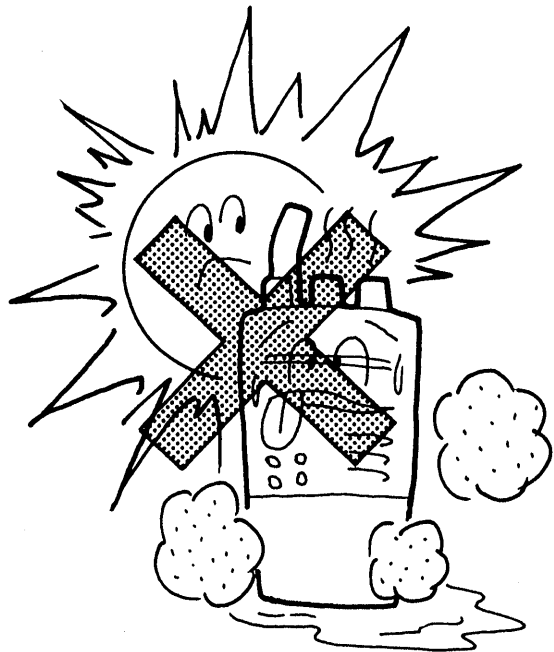
本機の背面が放熱板になっていますので、温度
は上昇しますが故障ではありません。

G 直射日光のあたるところに長
時間放置しないでください。



車のダッシュボード上に放置すると、温度が上
昇して本機に悪影響を与えます。

H 高温、多湿やホコリの多いと
ころでの使用はさけてください。

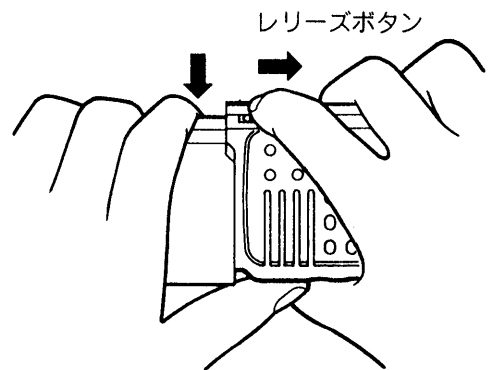


バッテリーケースとアンテナ

次図にしたがって、バッテリーケースと付属品のアンテナを取り付けてください。

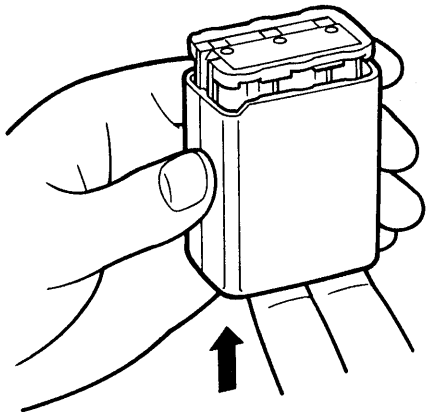
付属品のベルトクリップおよびハンドストラップの取り付けかたは、79ページをご覧ください。

① 本体からバッテリーケースを外す



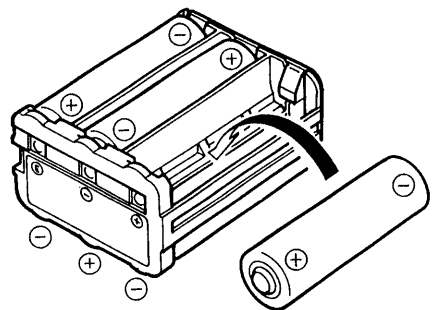
リリースボタンを上押ししながら、バッテリーケースを矢印の方向にスライドします。

② バッテリーケースから電池ホルダーを取り出す



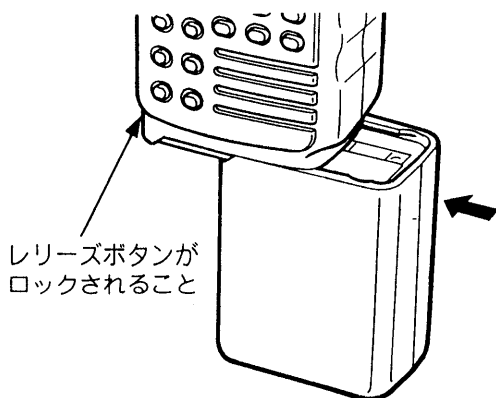
バッテリーケースの底を矢印の方向に押し上げて、電池ホルダーを取り出します。

③ 市販の単三乾電池を6本購入し、電池ホルダーに入れる



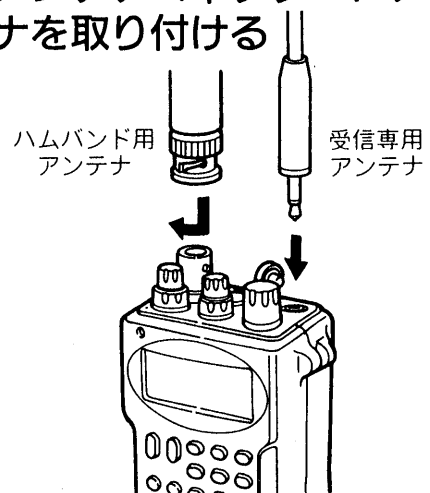
電池の極性(+)と(-)をまちがえないようにご注意ください。

④ 電池ホルダーを元に戻し、本体に装着する



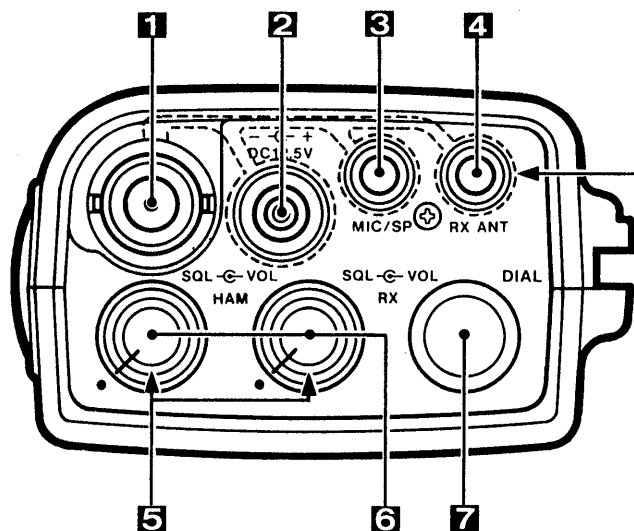
外部電源および車のバッテリーを使用するときは(P78)をご覧ください。

⑤ アンテナコネクタにアンテナを取り付ける



ハムバンドの外部アンテナを使用するときは、BNCコネクタをご使用ください。

2-1 上面操作部



本機を使用しないときは、水しぶきやホコリから守るために、必ず防水キャップを各ジャックに取り付けておいてください。

1 アンテナコネクター

付属のアンテナを接続するコネクターです。
 付属のアンテナを接続する際は(P3)をご覧ください。
 BNCコネクターを使用すれば、外部アンテナも接続できます。

2 DC12.5V(外部電源) ジャック

外部電源を接続するジャックです。
 外部電源は、安定化されたDC6~16V(標準電圧:DC12.5V)をご使用ください。
 外部電源および車のバッテリーに接続する際は(P78)をご覧ください。

3 MIC/SPジャック (外部マイク/スピーカー)

オプションのスピーカーマイクロホンHM-65を接続するジャックです。
 外部スピーカーを接続しますと、内蔵スピーカーは動作しません。

4 RX ANTジャック (受信アンテナ)

受信バンド専用のアンテナジャックです。
 付属の受信専用アンテナを差し込んでください。

5 SQL(スケルチ)ツマミ

無信号時の“ザー”という雑音を消去するツマミで、ハムバンド用と受信バンド用があります。
 スキャン機能を動作させるときにも、必ず雑音の消える位置(P10)にセットしておいてください。

6 VOL(音量)ツマミ

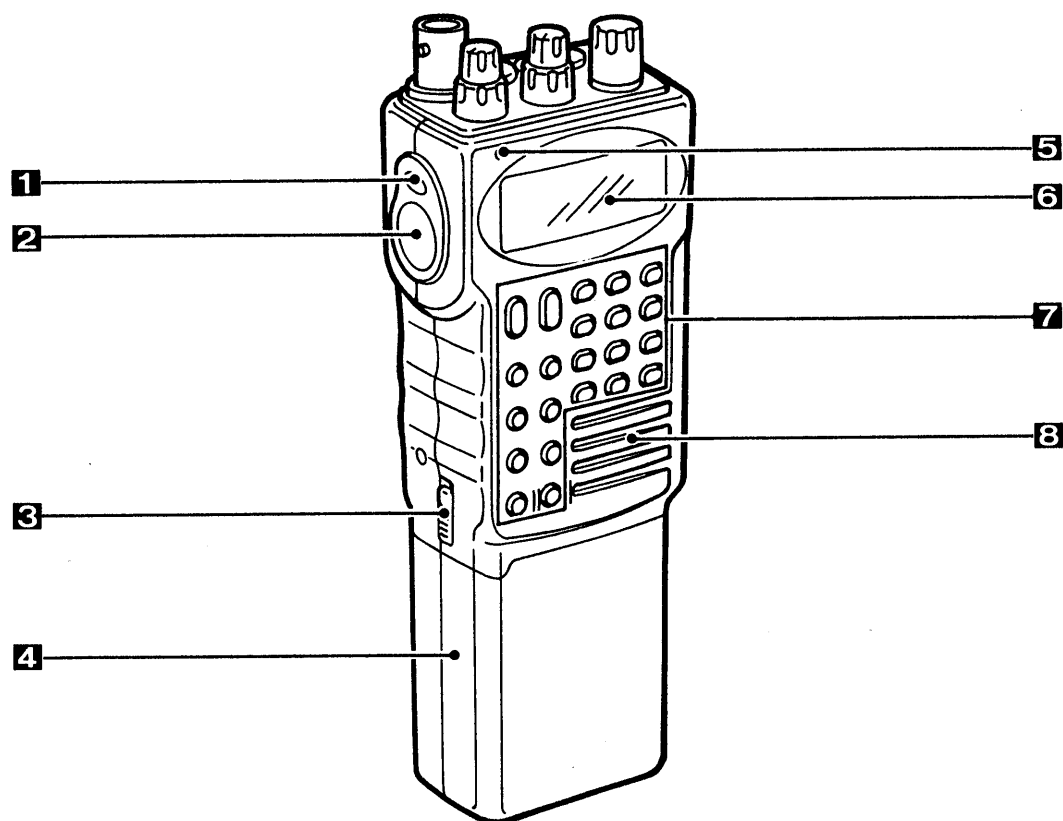
受信音の音量を調節するツマミで、ハムバンド用と受信バンド用があります。
 時計方向に回すと受信音が大きくなります(P10)ます。

7 DIAL(ダイヤル)

運用周波数の設定やメモリーチャンネルを切り替えるダイヤルです。

2 各部の名称と機能

2-2 前面/側面操作部



1F(ファンクション)スイッチ

前面操作部の各キーに青色で表示されている機能を動作させるときのスイッチです。

Fスイッチを押しながらキーボードの各キーを押すと、青色表記の機能が動作(※P7)します。

2PTT(送信)スイッチ

送信と受信を切り替えるスイッチです。[ハムバンド側]スイッチを押している間は送信状態になります。また、特殊な操作をするときも使用します。

3リリースボタン

バッテリーケースやオプションのバッテリーパックなどを固定するボタンです。

4バッテリーケース

市販の単三形乾電池を6本収納(※P3)するケースです。

5送信/受信表示LED

送受信の状態を表示するLEDです。

送信時は赤色、受信時(スケルチが開いているとき)は緑色に点灯します。

6ディスプレイ

3-3項「ディスプレイ」(※P6)をご覧ください。

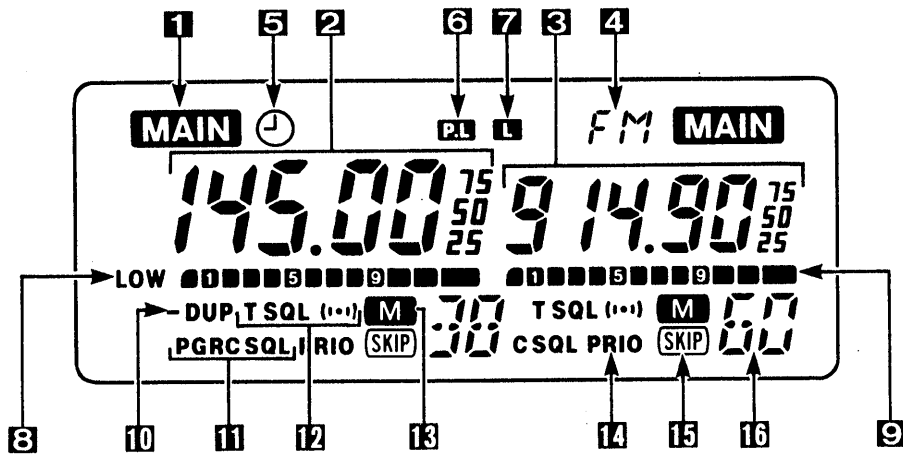
7キーボード

3-4項「キーボード」(※P7)をご覧ください。

8スピーカー/マイクロホン

超薄型のスピーカーやマイクロホンが内蔵されています。外部にスピーカーやマイクロホンを接続したとき、内蔵のスピーカーやマイクロホンは動作しません。

2-3 ディスプレイ

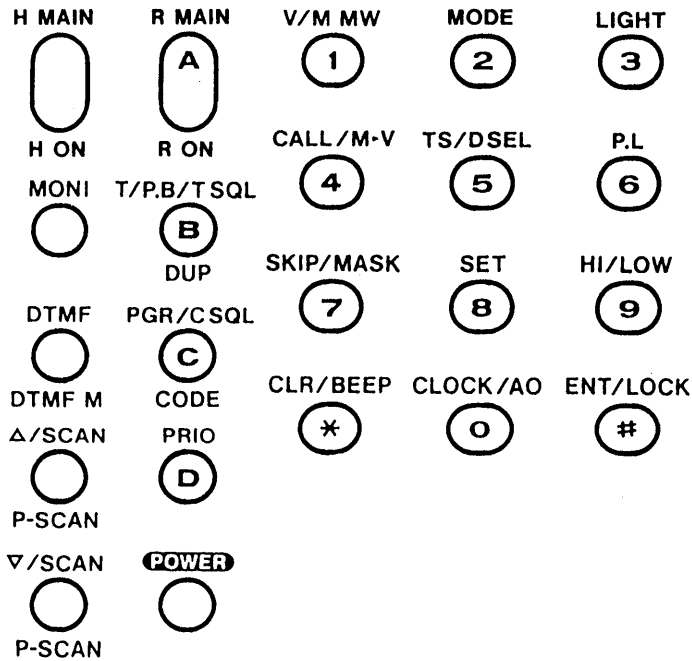


■ディスプレイの左側にハムバンドの状態を表示し、右側に受信バンドの状態を表示します。

| | | |
|-----------|---|--|
| 1 | MAIN | ハムバンド側と受信バンド側のどちら側をメインバンドにしているかを表示する。 |
| 2 | 145.00 ⁷⁵ ₅₀ ₂₅ | ハムバンド側の周波数を表示する。 IC-2SRは144MHz帯、IC-3SRは430MHz帯のみ。 TSを12.5kHzにすると、100Hz桁まで表示する。 |
| 3 | 9 14.90 ⁷⁵ ₅₀ ₂₅ | 受信バンド側の周波数を表示する。 |
| 4 | WFM FM FM | 受信バンド側のみ、電波型式を表示する。 |
| 5 | 🕒 | タイマーオフ機能が動作中を表示する。(P56) |
| 6 | PL | PTTロック状態を表示する。(P70) |
| 7 | L | 周波数ロック状態を表示する。(P70) |
| 8 | LOW ■■■■■■■■■■ | ハムバンド側のSメーターおよび送信出力の設定状態を表示する。(P16) |
| 9 | ■■■■■■■■■■■ | 受信バンド側のSメーター表示。 |
| 10 | -DUP T | レピータ運用中を表示する。[IC-3SRのみ](P25) |
| 11 | PGRCSQL | ページャーおよびコードスケルチ運用を表示する。(P63) ページャー表示は、ハムバンド側のみ。 |
| 12 | TSQL (...) | トーンスケルチおよびポケットビープ運用中を表示する。 ※UT-63オプションユニット装着時(P74) |
| 13 | M | メモリーチャンネルを呼び出して運用するメモリーモードを表示する。 |
| 14 | PRIO | プライオリティスキンの動作中を表示する。(P42) |
| 15 | SKIP | スキップ周波数またはスキップチャンネルとして登録されていることを表示する。 |
| 16 | 60 | メモリーチャンネルの番号を表示する。 ハムバンドは1~30、受信バンドは1~60とそれぞれにPA,Pbチャンネルがある。 |

2 各部の名称と機能

2-4 キーボード













■キーボードの取り扱いかた

- (1) キーを単独で押したときは、白く印刷された機能になります。
- (2) Fスイッチを押しながら、該当キーを押したときは、青色で印刷された機能になります。
- (3) 1~0の数字キーは、周波数の設定キーで、ENTキーを押してから入力してください。
- (4) A~D, *, #キーは、DTMFコード用です。数字キーと同等です。
- (5) 各キーの機能は、VFOモードとメモリーモードで違う働きをすることがあります。

※IC-2SRには、DUPキーはありません。

| キーの名称 | キーを単独で入力したとき | | Fスイッチを押しながら入力したとき | |
|------------------------|---|---------|---|---------|
| | VFOモード | メモリーモード | VFOモード | メモリーモード |
| H MAIN H ON | ハムバンド側に MAIN 表示が点灯し、ハムバンド側の操作ができる。 どちらかのディスプレイが消灯しているときはこれを復旧させる。 | | ハムバンド側をメインバンドにすると共に、受信バンド側のディスプレイを消灯する。 ハムバンド側のディスプレイが消灯しているときは、これを逆にする。 | |
| R MAIN R ON | 受信バンド側に MAIN 表示が点灯し、受信バンド側の操作ができる。 どちらかのディスプレイが消灯しているときはこれを復旧させる。 | | 受信バンド側をメインバンドにすると共に、ハムバンド側のディスプレイが消灯する。 受信バンド側のディスプレイが消灯しているときは、これを逆にする。 | |
| MONI | SQLツマミの位置に関係なく、メインバンド側の受信音をモニターする。 レピータ運用時は、相手局の送信周波数をモニターする。〔IC-3SRのみ〕(P27) | | SQLツマミの位置に関係なく、メインバンド側の受信音をモニターする。 | |
| T/P.B./TSQL DUP | トーンエンコーダー、ポケットビープ、トーンスケルチ機能のON/OFFができる。 (オプションのUT-63装着時) | | レピータ運用をON/OFFする。 〔IC-3SRのみ〕(P25) | |
| DTMF DTMF M | DTMFメモリーの内容を確認する。(P46) メモリーしていないときは無効。 | | DTMFメモリーの呼び出し。(P46) 〔ハムバンド側のみ〕 | |
| PGR/CSQL CODE | ページャーまたはコードスケルチ機能をON/OFFする。(P63) ページャー機能はハムバンドのみ。 | | コードメモリーを呼び出し、コードメモリーセット状態にする。(P64) | |

| キーの名称 | キーを単独で入力したとき | | Fスイッチを押しながら入力したとき | |
|---|---|---|---|--------------------------|
| | VFOモード時 | メモリーモード時 | VFOモード時 | メモリーモード時 |
| ▲/SCAN  P-SCAN | 周波数のアップ。 0.5秒以上押すとアップ 方向にスキャン。 | メモリーCHのアップ。 0.5秒以上押すとアップ 方向にスキャン。 | プログラムスキャンが アップ方向にスタート。 | メモリースキャンがア ップ方向にスタート。 |
| PRIO  | プライオリティスキャンのスタートおよびスト ップ。 | | / | |
| ▼/SCAN  P-SCAN | 周波数のダウン。 0.5秒以上押すとダウン 方向にスキャン。 | メモリーCHのダウン。 0.5秒以上押すとダウン 方向にスキャン。 | プログラムスキャンが ダウン方向にスタート。 | メモリースキャンがダ ウン方向にスタート。 |
| POWER  | 電源スイッチ。 約1秒押すことで、電源のON/OFF。 | | / | |
| V/M MW  | メモリーモードにする。 | VFOモードにする。 | メモリーに書き込む。 | / |
| MODE  | 受信バンド側の電波型式を設定する。 FM, W FM, AMを切替える。 | | / | |
| LIGHT  | ディスプレイの照明をON/OFFする。 約5秒以上で自動的に消灯。 | | ディスプレイの照明をON/OFFする。 自動消灯機能は働かない。 | |
| CALL/M-V  | 押すごとにコールCH とVFOを切替える。 | 押すごとにコールCHと メモリーを切替える。 | / | メモリーCHの内容を VFOに転送する。 |
| TS/DSEL  | チューニングステップ の選択。(P13) | / | ダイヤルセレクト機能 の選択。(P14) | / |
| P.L  | / | | 送信(PTT)スイッチの機能を無効にする。 [ハムバンド側のみ](P70) | |
| SKIP/MASK  | / | スキップCHの指定と 解除。(P38) | / | マスクCHの指定と解 除。(P24) |
| SET  | / | | SETモードにする。 (P50) | / |
| HI/LOW  | 送信パワーの切替えを行う。(P16) [ハムバンド側のみ] | | 送信パワーの設定と状態表示。(P16) [ハムバンド側のみ] | |
| CLR/BEEP  | 置数のクリアおよびSETモード、時計モードを 元のモードに戻す。 | | ビーブ音をON/OFFする。(P71) | |
| CLOCK/AO  | 時計モードにする。(P56) | | オートパワーオフ機能を設定する。(P62) [ハムバンド側でのみ設定可] | |
| ENT/LOCK  | 周波数をキーボードで 設定するための開始操 作。 | / | 周波数およびメモリーCHを固定するロック機 能をON/OFFする。(P70) | |

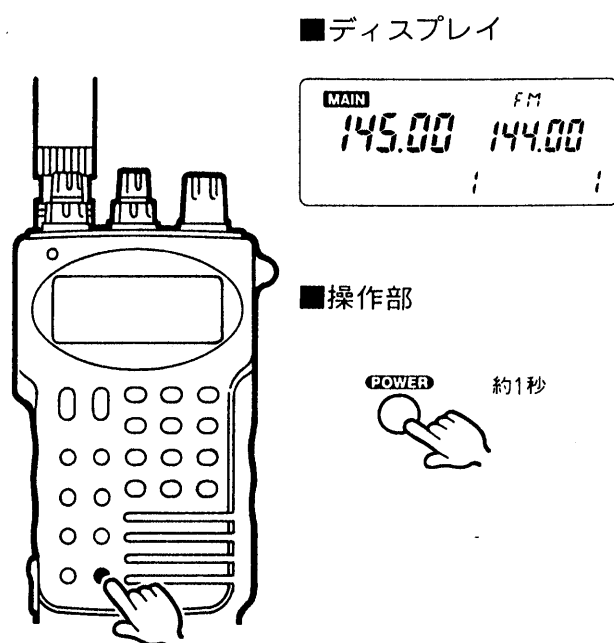
ここでは基本的な操作のしかたを説明しています。

本機は、トランシーバー機能とレシーバー機能をワンパックにした無線機です。

- ディスプレイの左側にハムバンド、右側に受信バンドを配置し、**MAIN** が点灯している方をメインバンドと呼び、各種の操作ができます。
- ハムバンドは、IC-2SRは144MHz帯、IC-3SRは430MHz帯で、送受信ができます。送信は、ハムバンド側のみですが、両バンドの同時受信ができます。
なお、ハムバンド送信時は、受信バンドは“OFF”が表示され受信できません。
- 受信バンド側に、ハムバンド側の周波数を設定すると、同一バンド同時受信ができます。
- ディスプレイのイラストは操作例で、ハムバンド側はIC-2SRで説明しています。
- 本体イラスト中で黒く塗りつぶしたつまみやキーは、操作するつまみやキーを表わしています。
- VOL(音量)つまみとSQL(スケルチ)つまみは、ハムバンド用と受信バンド用がありますので、両方とも調整してください。
- SQLつまみを調整するときは、運用していない(信号の出していない)周波数で行ってください。
- SQLつまみを時計方向に回しすぎると、弱い電波が受信できなくなりますのでご注意ください。

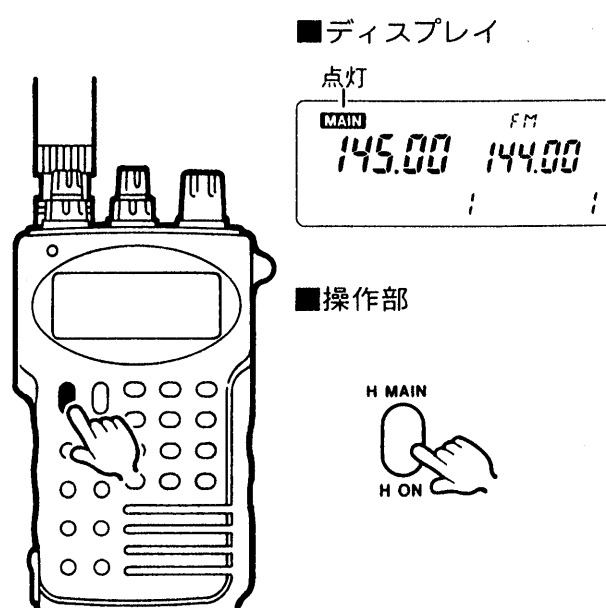
※受信バンドは広帯域ですが、受信できる周波数は17ページをご覧ください。

① 電源を入れる



POWER(電源)キーを約1秒押してください。
電源を切るときも同じです。

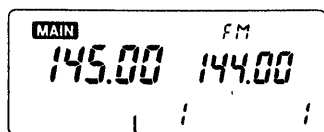
② 運用したいバンドを選ぶ (ハムバンドを選ぶ)



ハムバンド側を運用するときはH MAINキーを押します。受信バンドの操作はP11⑧へ。

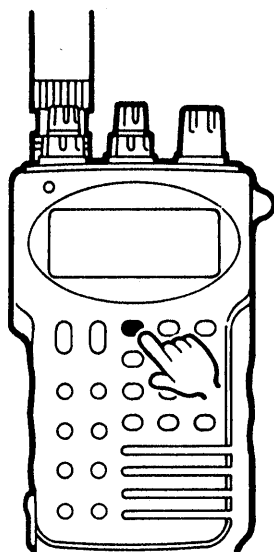
③ VFOモードにする (周波数設定のためのモード)

■ディスプレイ



Mが消灯していること

■操作部



V/M MW

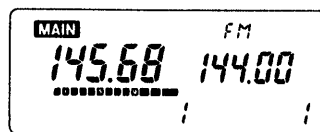


押すごとにVFOとメモリーモードが切替わる。

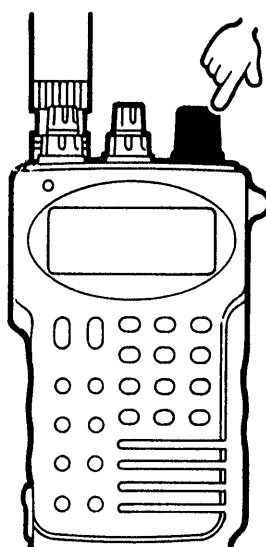
周波数を設定するときは、VFOモードにします。

④ 周波数を選ぶ(応用 P12)

■ディスプレイ



■操作部



DIAL

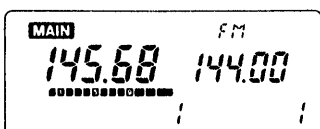
周波数が
ダウンする

周波数が
アップする

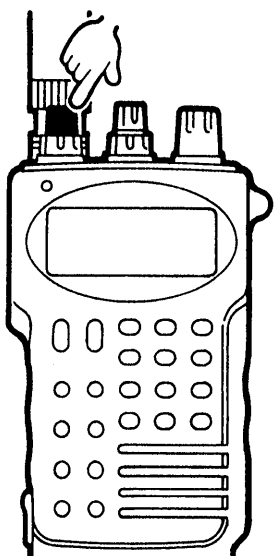
DIAL(ダイヤル)を時計方向に回すと周波数が高くなり、反時計方向に回すと低くなります。

⑤ 聞きやすい音量にする

■ディスプレイ



■操作部



SQL VOL
HAM

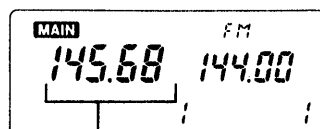
音量が
少くなる

音量が
多くなる

VOL(音量)ツマミを時計方向に回します。

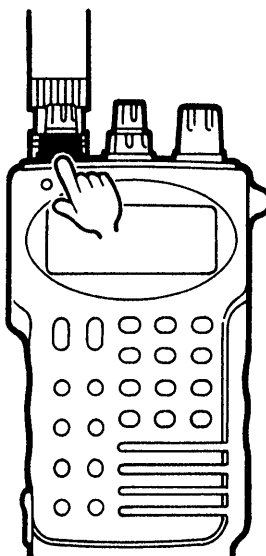
⑥ “ザー”という雑音を消す

■ディスプレイ



消える

■操作部



SQL VOL
HAM

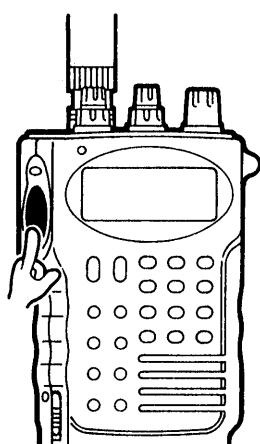
雑音が出る

雑音が消える

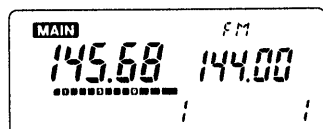
SQL(スケルチ)ツマミを時計方向に回し、Sメーターが消えるところに調整します。

3 基本操作のしかた

⑦ 運用する



■ディスプレイ

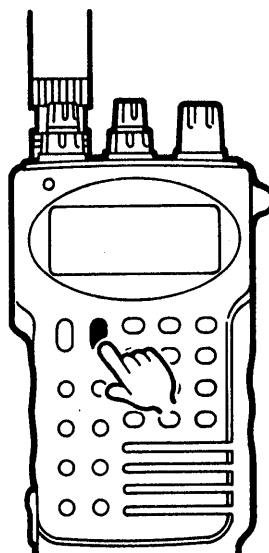


■操作部

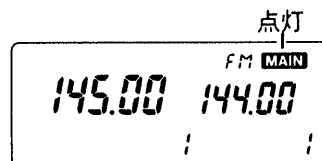


PTT(送信)スイッチを押すと送信、離すと受信状態になります。〔ハムバンド側のみ〕

⑧ 受信バンドを選ぶ



■ディスプレイ



■操作部

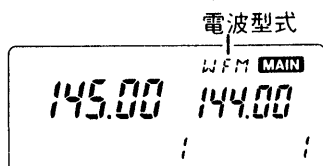


※音量、スケルチの調整は、P10の⑤⑥をご覧ください。(受信バンド側で行う)

⑨ MODE(電波型式)を選ぶ



■ディスプレイ



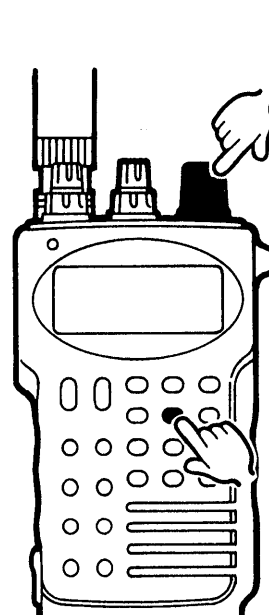
■操作部



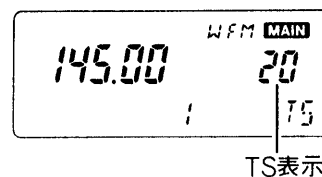
押すごとにFM, WFM, AMが表示される

この操作は、受信バンド側のみです。
※受信できる周波数およびMODE, TSの一覧表は(※P17)をご覧ください。

⑩ TSを変更したのち、受信周波数を設定する。



■ディスプレイ



■操作部



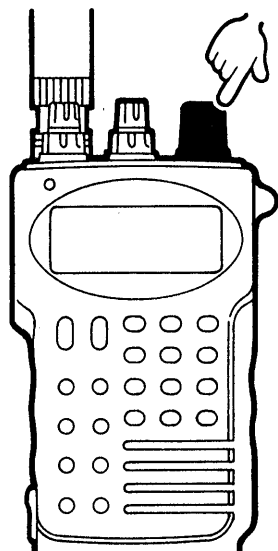
大きいステップになる
小さいステップになる

TSについては、13ページをご覧ください。
※TSおよび周波数の設定時は、VFOモードになっていることを確認してください。(※P10③)

周波数の設定(マニュアルチューニング)

① 周波数を設定する

■操作部



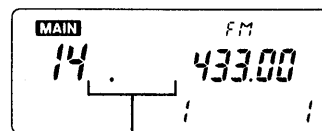
※VFOモードになって
いることを確認して
ください。

DIALを時計方向に回すと周波数がアップし、反時計方向に回すとダウンします。
(応用P13,14)

周波数の設定(ダイレクトチューニング)

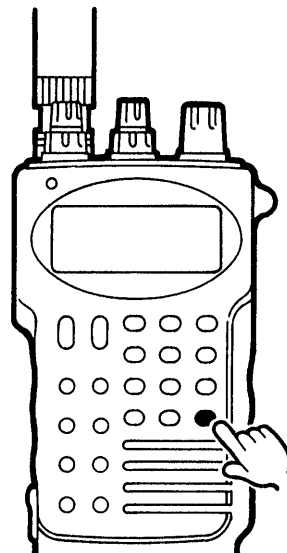
① 置数入力受け付け状態にする

■ディスプレイ



MHz以下の桁が消える

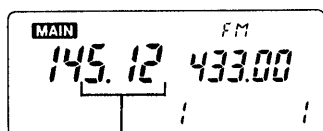
■操作部



ENTキーを押します。

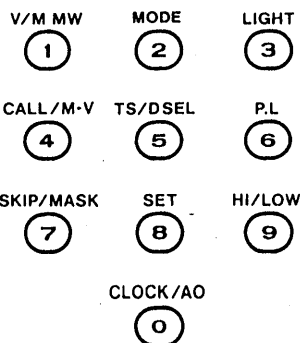
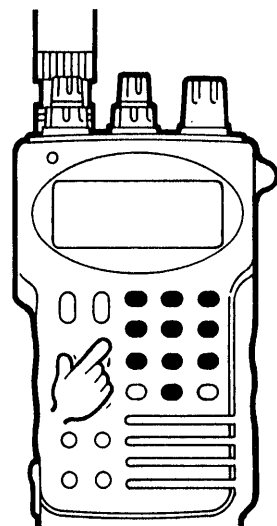
② 置数を入力する

■ディスプレイ



“5”“1”“2”と押したとき

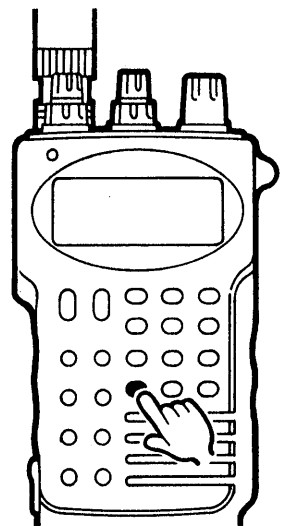
■操作部



MHz桁の数字から順番に、置数キーを押します。
3桁押し終わると(ビープ音が“ピー”と鳴り)入力完了です。

③ 置数入力をまちがえたとき

■操作部

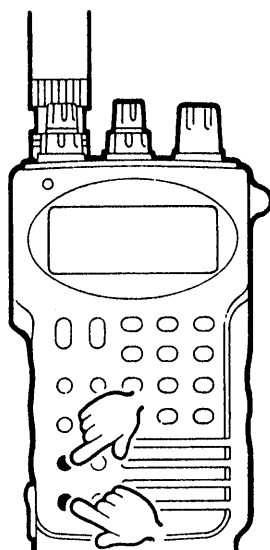


入力中に気が付いたときはCLRキーを押して①～②、送受信ができない周波数を入力し終わったとき(ビープ音が“ブー”と鳴る)は直接①～②の操作を繰り返してください。

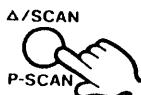
4 周波数の設定のしかた

周波数の設定(アップ/ダウンチューニング)

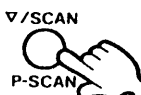
① 周波数を設定する



■操作部



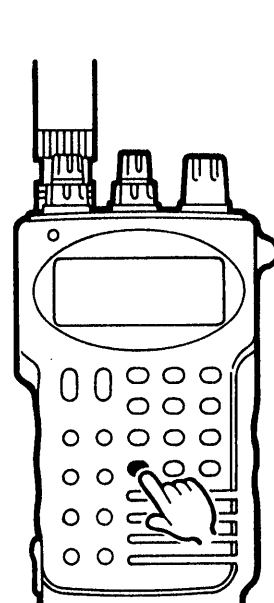
または



△キーを押すと周波数がアップし、▽キーを押すとダウンします。

各キーを押すすぎる(約0.5秒以上)とスキャン動作になります。

② まちがえてスキャン動作になったとき



■操作部



CLRキーを押して、もう一度①の操作を繰り返してください。

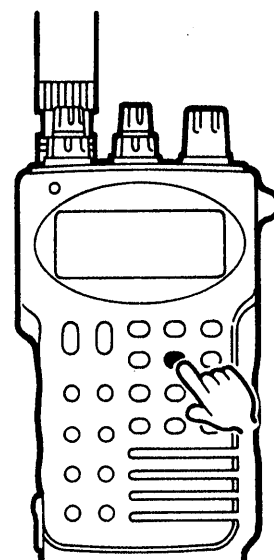
チューニングステップを変更する

チューニングステップとは、DIALや△/▽キーで周波数を設定するとき、またはスキャン機能进行操作するときに変化する周波数の幅をいい、各バンドに異なるチューニングステップを設定できます。

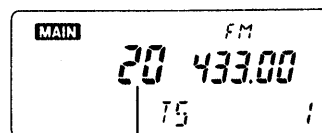
チューニングステップは20kHz(初期設定値)の他に、5/10/12.5/15/25/30/50kHzがあります。VHF帯およびUHF帯のアマチュアバンドは、通常20kHzステップで使用されています。

※受信バンド側のチューニングステップは、ハムバンドと同様ですが、267.8MHz以上の周波数帯では、5kHz、15kHzステップは設定できません。

① 現在のチューニングステップを表示する



■ディスプレイ



チューニングステップを表示する

■操作部



TSキーを押します。

チューニングステップを変更する

② 希望するチューニングステップを選ぶ

■ディスプレイ



"25kHz"を選んだとき

■操作部



ステップ幅が小さくなる
ステップ幅が大きくなる

DIALを回します。

③ 周波数表示に戻す

■ディスプレイ



周波数表示に戻る

■操作部



CLR/BEEP
または
PTT

CLRキーを押すか、PTTスイッチを押します。

ダイヤルセレクト機能の操作

周波数を大幅に動かすときや、次に移りたいメモリーチャンネルをあらかじめ選択するときには便利な機能です。

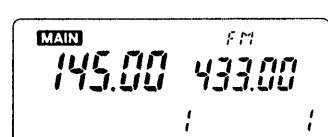
チューニングステップとは別に、100kHz桁または1MHz桁を動かすことができます。また、周波数を表示したままの状態でもメモリーチャンネルを動かすこともできます。以上のように、動かしたい周波数の桁やメモリーチャンネルを実行桁といい、各バンドに異なる実行桁を設定できます。

すでに設定している実行桁で動かすときは、③の操作を行ってください。


受信バンド側では、10MHz桁も選択できますから、大きく周波数を変えるときに便利です。

① VFOモードにする

■ディスプレイ



■操作部



V/M MW

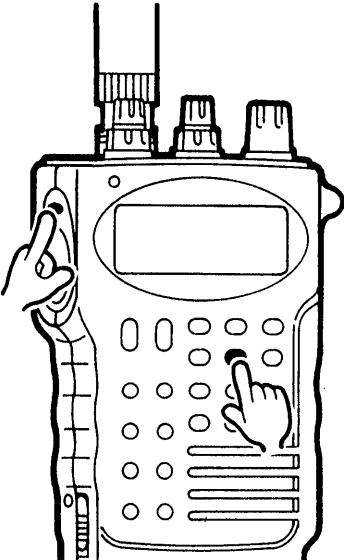
V/Mキーを押します。

4 周波数の設定のしかた

ダイヤルセレクト機能の操作

② 実行桁を選ぶ

■操作部



押しながら①～③
まで操作する

① TS/DSEL

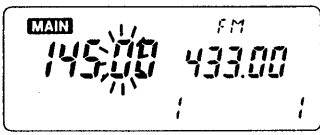
② TS/DSEL

③ TS/DSEL

■ディスプレイ

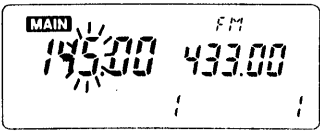
100kHz桁が点滅する

①



MHz桁が点滅する


②



受信バンド側は
10MHz桁まで
選択できる

メモリーチャンネル
が点滅する

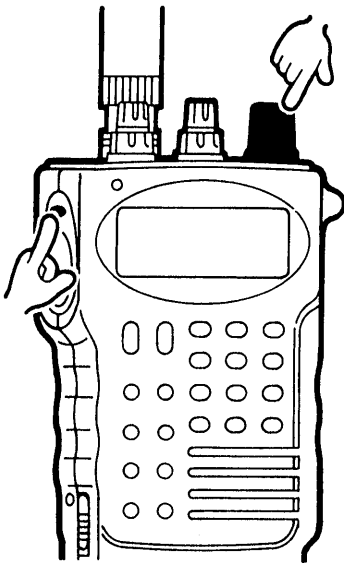
③



Fスイッチを押しながら(①～③)の操作までFスイッチは押し続ける)D SELキーを押すごとに実行桁(点滅している桁)が移動しますので、実行したい桁を選択してください。Fスイッチから指を離すと、実行桁だけを選択したことになります。

③ 実行桁の周波数またはメモリーチャンネルを動かす

■操作部



押しながら

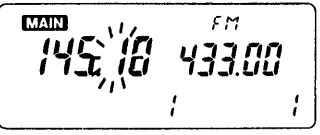
DIAL

周波数または
チャンネルが
ダウンする

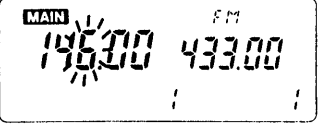
周波数または
チャンネルが
アップする

■ディスプレイ

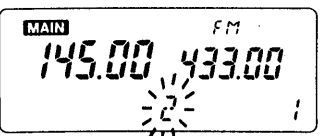
100kHz桁点滅時はその桁が動く



MHz桁点滅時は、その桁が動く



メモリーチャンネル点滅時は、
チャンネルが動く

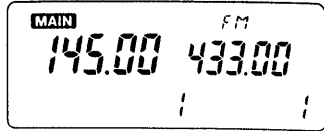


Fスイッチを押しながらDIALを回すと、あらかじめ設定しておいた実行桁が動きます。③だけを操作すると、以前に設定しておいた実行桁が動きます。このとき、実行桁は点滅しません。

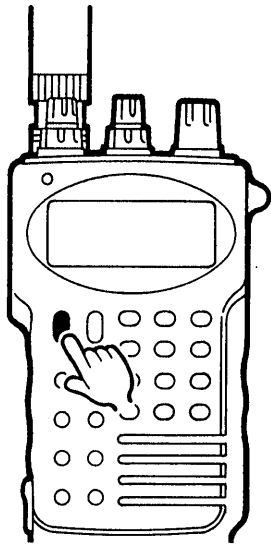
送信出力の切り替えかた

① ハムバンドを選ぶ

■ディスプレイ



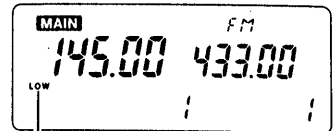
■操作部



H MAINキーを押します。

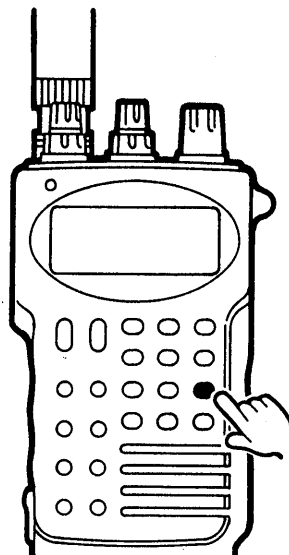
② 送信出力を切り替える

■ディスプレイ



LOWパワー設定時に点灯する

■操作部



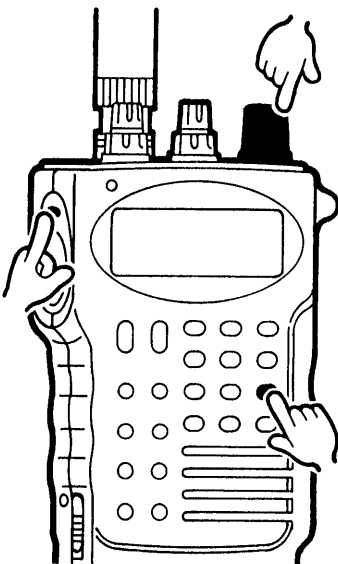
HI/LOWキーを押すごとに、HIGHパワーとあらかじめ設定しているLOWパワーが切り替わります。

LOWパワーを設定する

●3種類の中からLOWパワーをあらかじめ設定できます。

■操作部

■ディスプレイ



押しながら

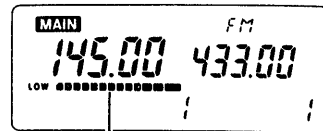


Fスイッチを押し続けた状態で

送信出力が小さくなる



送信出力が大きくなる



送信出力の設定値が表示される

■送信出力と表示の関係(13.5V時)

| | 表 示 | 送信出力 |
|------|-----------------|-------|
| LOW1 | LOW ■■ | 約0.5W |
| LOW2 | LOW ■■■■■■ | 約1.5W |
| LOW3 | LOW ■■■■■■■■■■ | 約3.5W |
| HIGH | ■■■■■■■■■■■■■■■ | 5W以上 |

Fスイッチを押しながらHI/LOWキーを押して、Fスイッチを押し続けたままDIALを回します。設定したい送信出力を選択し、Fスイッチから指を離すと設定完了です。

受信周波数範囲について

受信バンド側で受信できる周波数はIC-2SR/IC-3SR共、次の表のとおりです。この範囲以外の周波数は、設定することも、スキャンすることもできません。

| | |
|---|-------------------|
| 1 | 25.0MHz~252.9MHz |
| 2 | 255.1MHz~261.9MHz |
| 3 | 266.1MHz~270.9MHz |
| 4 | 275.1MHz~379.9MHz |
| 5 | 382.1MHz~411.9MHz |
| 6 | 415.1MHz~809.9MHz |
| 7 | 834.1MHz~859.9MHz |
| 8 | 889.1MHz~914.9MHz |

※周波数帯域による通信用途、電波型式などの詳細は、87ページをご覧ください。

テンキーの便利な使いかた

受信バンド側は、周波数範囲が広いので、周波数設定が便利にできるように、テンキーを次のように操作することができます。

■**[ENT]+テンキー+[ENT]**を押すことで、下位桁の“0”置数を省略できます。

●例1. 430.00MHzを設定する場合
[ENT][4][3][ENT]と押す。

●例2. 29.00MHzを設定する場合
[ENT][0][2][9][ENT]と押す。

■置数の上位桁指定について

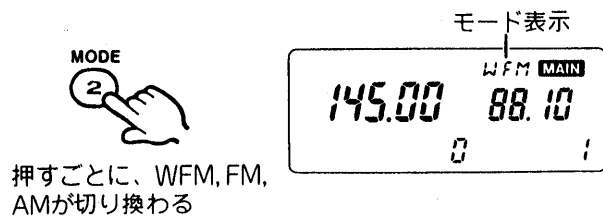
テンキーで入力する最初の桁を、100MHz、10MHz、1MHzの中から選んでセットしておくことができます。

SETモードの項目“PL”(P55)をご覧ください。

MODE(モード)について

MODE(モード)とは、電波のかたち(電波型式)のことをいいます。本機の受信バンド側は、WFM, FM, AMの3種類のモードに対応しています。

■モードの設定のしかた

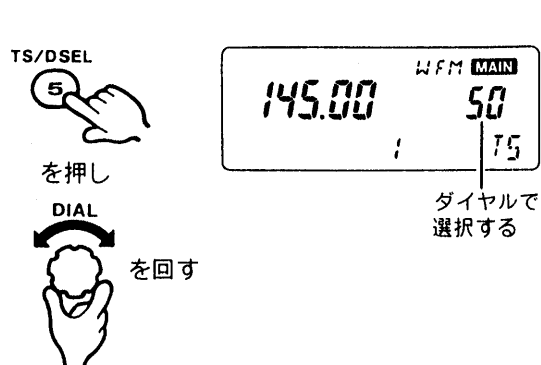


※モードは、スキャン動作中でも切り換えができます。

TSについて

放送や通信は、ある一定の周波数間隔で電波を発射しています。TS(チューニングステップ)は、選局操作の際、目的の放送や通信に合わせて選びます。(P13)

■TSの選択のしかた



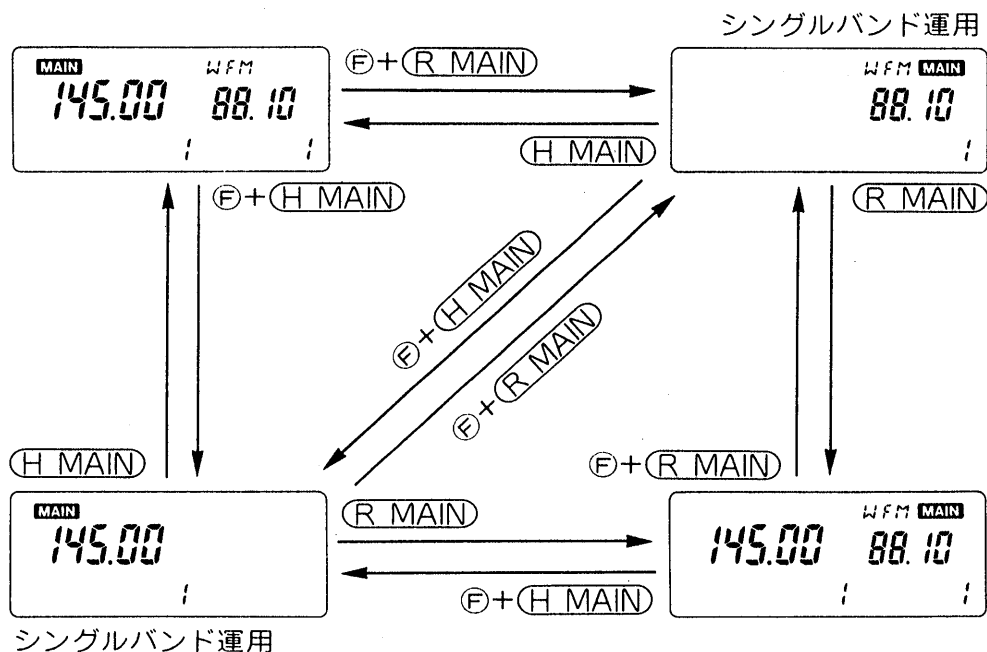
■ダイヤルセレクト機能(P14)

1MHz以上のステップで、大きく周波数を変える場合は、ダイヤルセレクト機能を使うと便利です。

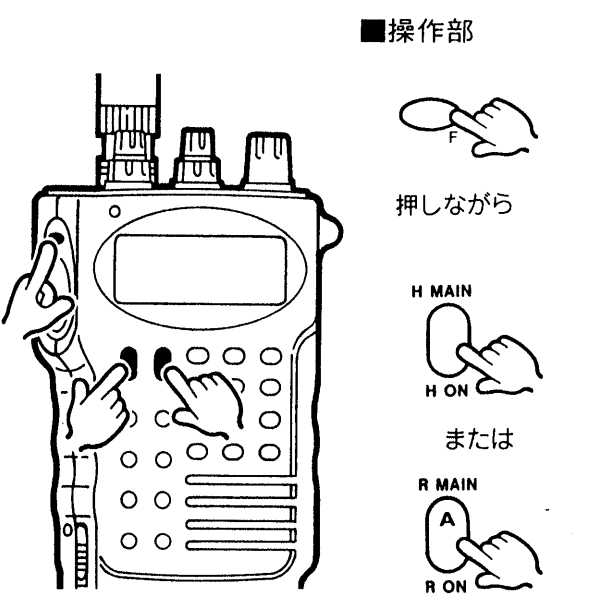
シングルバンド運用の操作

ハムバンドまたは受信バンドのどちらか一方のバンドだけしか使用しないとき、使わないバンド側の表示を、すべて消しておくことができます。

[バンド設定操作の相互関係]

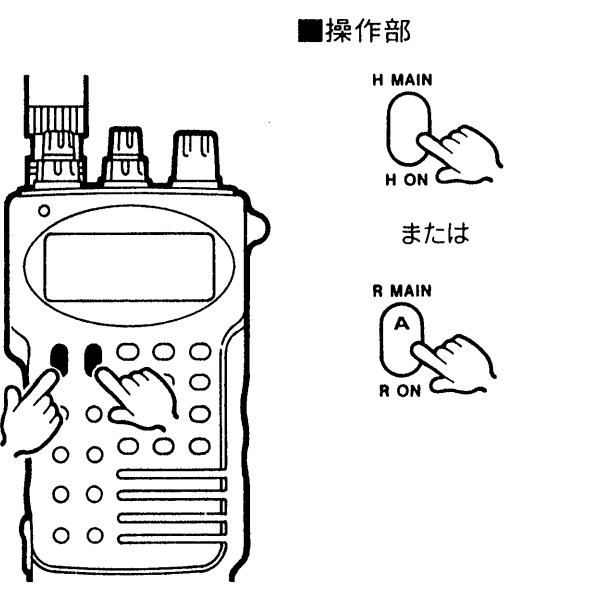


① シングルバンド運用を設定する



Fスイッチを押しながらH ONまたはR ONキーを押します。
シングルバンド運用中に、運用バンドを切り替えたいときも同じです。

② 運用中のバンドでシングルバンド運用を解除する



シングルバンド運用および両バンド運用についての各種の操作は、上記の相互関係をご覧ください。

コールチャンネルとは

JARL(日本アマチュア無線連盟)で制定されているバンド使用区分(呼称P81)にそって、各バンドの呼び出し周波数(非常通信周波数)が書き込まれています。

初期時のコールチャンネル周波数は、次のようにセットされています。

| | | |
|--------|-------|-----------|
| IC-2SR | ハムバンド | 145.00MHz |
| | 受信バンド | 144.00MHz |
| IC-3SR | ハムバンド | 433.00MHz |
| | 受信バンド | 144.00MHz |

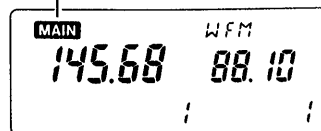
なお、コールチャンネルは、通常のメモリーチャンネルと同様に、自由に書き替えができます。

コールチャンネルの呼び出しかた

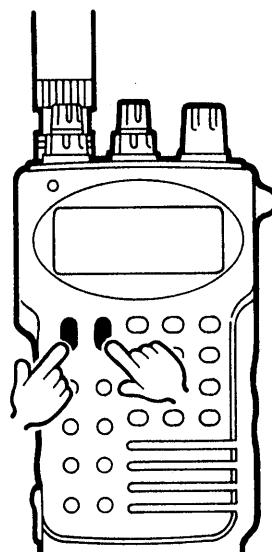
① 呼び出したいバンドを選ぶ

■ディスプレイ

選んだバンド側に点灯する



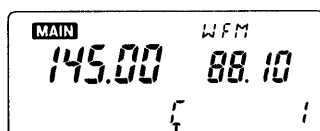
■操作部



H MAINまたはR MAINキーを押します。

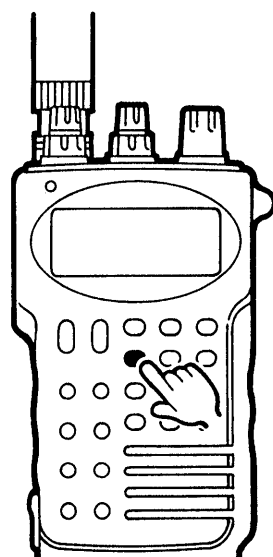
② コールチャンネルを呼び出す

■ディスプレイ



"C"が点灯

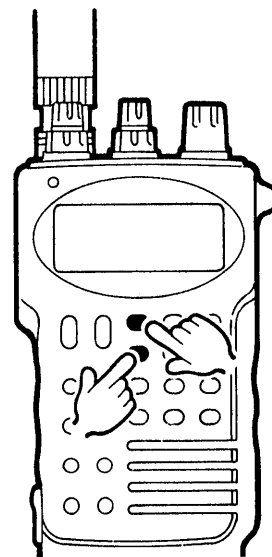
■操作部



CALLキーを押します。

③ VFOモードに戻るとき

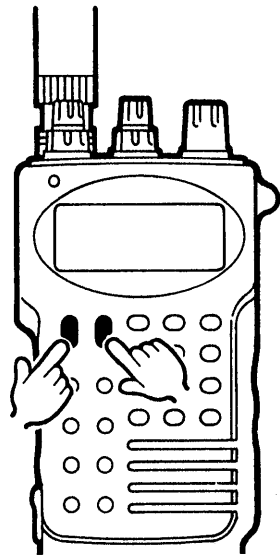
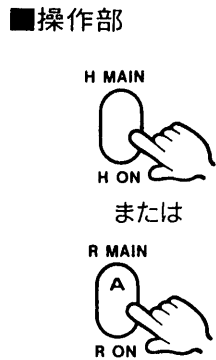
■操作部



コールチャンネルにする前の状態が、メモリーモードのときは、上記の操作でメモリーモードに戻ります。

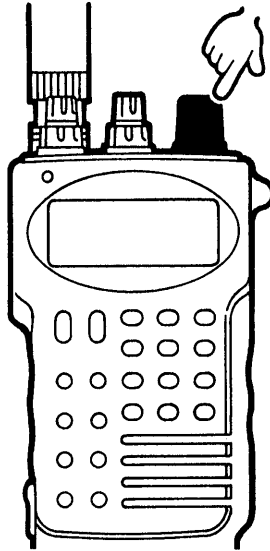
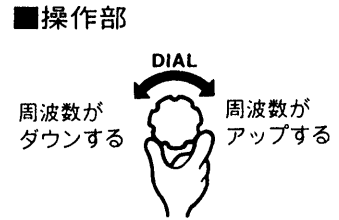
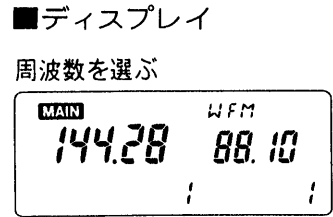
周波数の書き替えかた

① 書き替えたいバンドを選ぶ



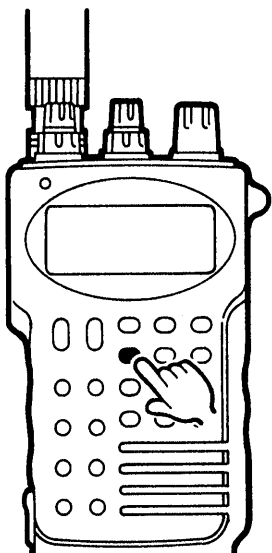
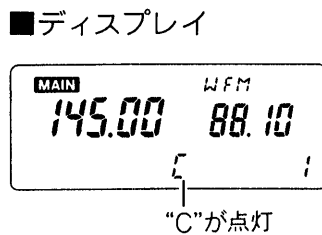
H MAINまたはR MAINキーを押します。

② 書き替えたい周波数を設定する



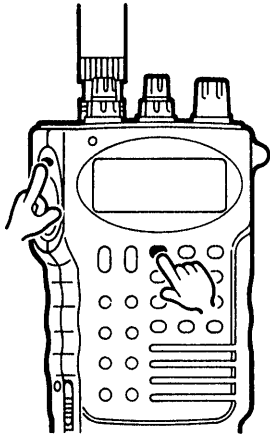
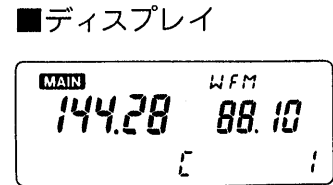
「周波数の設定」(P12)をご参照ください。

③ コールチャンネルを呼び出す



CALLキーを押します。

④ 書き込む



ピープ音が“ピッピピ”と鳴るまで、Fスイッチを押しながらMWキーを押します。

メモリーチャンネルとは

よく使用する周波数やその他の情報を、あらかじめ書き込んでおくチャンネルのことをいいます。

メモリーチャンネルは、ハムバンド側に1~30までの30チャンネル、受信バンド側に1~60の60チャンネルがあり、各バンドともプログラムスキャン用チャンネルが2チャンネルあります。

また、コールチャンネルもそれぞれ1チャンネルあり、通常のメモリーとしても使えます。

メモリーチャンネルの内容

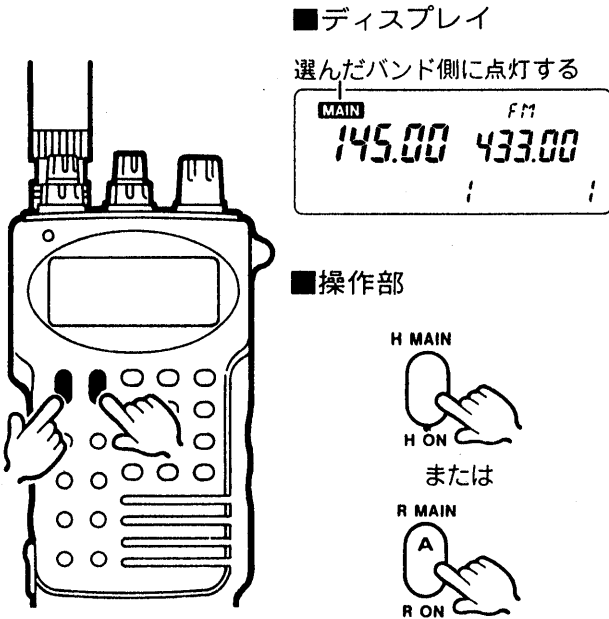
| チャンネル | 初期設定値 | 使いかた |
|----------------------------|--|--|
| 1~10CH | IC-2SR 145.00MHz* IC-3SR 433.00MHz* | ●送受信周波数設定用。 ※受信バンド側の初期値は144.00MHz |
| 11~30CH (受信バンド側11~60CH) | IC-2SR マスクCH IC-3SR マスクCH | ●送受信周波数設定用。 ●周波数スキップスキャンのスキップ周波数の書き込みエリア。(※P32~P35) ●通常(初期時)は、マスクCHになっている。(※P24) |
| PA-CH | IC-2SR 144.00MHz IC-3SR 430.00MHz | ●プログラムスキャンのエッジ周波数設定用。 |
| PB-CH | IC-2SR 146.00MHz IC-3SR 440.00MHz | ●プログラムスキャンのエッジ周波数設定用。 |
| コールCH | IC-2SR 145.00MHz* IC-3SR 433.00MHz* | ●通常のメモリーチャンネルとして使用可。 ※受信バンド側の初期値は144.00MHz |

書き込みができる情報

| IC-2SR | IC-3SR | 受信バンド側 |
|---|--|--|
| ①送受信周波数 ②トーン周波数 ③トーンエンコーダーのON/OFF ④トーンスケルチのON/OFF ※②③④はオプションのトーンスケルチユニットUT-63を装着したとき。 | ①送受信周波数 ②トーン周波数 ③トーンエンコーダーのON/OFF ④オフセット周波数 ⑤デュプレックスのシフト方向とON/OFF ⑥トーンスケルチのON/OFF ※②⑥は、オプションのUT-63を装着したとき。 ただし、標準レピータ情報は、書き込み可。 | ①受信周波数 ②モード(電波型式) ③トーン周波数 ④トーンエンコーダーのON/OFF ⑤トーンスケルチのON/OFF ※③④⑥は、オプションのUT-63を装着したとき。 |

メモリーチャンネルの呼び出しかた

① 呼び出したいバンドを選ぶ



H MAINまたはR MAINキーを押します。

② メモリーモードにする



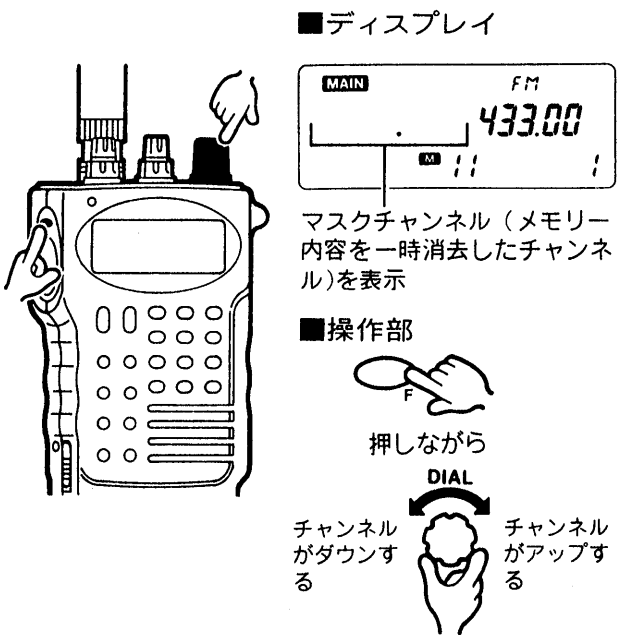
V/Mキーを押します。

③ メモリーされているチャンネルを選ぶとき



△または▽キーを押すか、DIALを回します。

④ マスクチャンネル(☒P24)を選ぶとき



Fスイッチを押しながらDIALを回します。

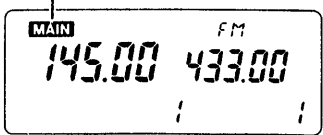
※出荷時、11~30(受信側60)CHは、マスクされています。

9 メモリーチャンネルの使いかた


メモリーチャンネルへの書き込みかた

① 書き込みたいバンドを選ぶ

■ディスプレイ
選んだバンド側に点灯する



■操作部



H MAIN
H ON
または
R MAIN
A
R ON

H MAINまたはR MAINキーを押します。

② 書き込みたい周波数を選ぶ

マニュアルチューニング
のとき

■ディスプレイ



周波数を選ぶ

■操作部



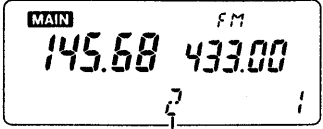
周波数が
ダウンする
周波数が
アップする

「周波数の設定」(P12)をご参照ください。

③ 書き込みたいメモリーチャンネルを選ぶ

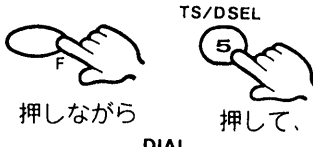
ダイヤルセレクト機能の
とき

■ディスプレイ




メモリーチャンネルを選ぶ
※メモリーモードで選んだときは「M」が点灯する

■操作部



TS/DSEL
F 5
押しながら 押して、

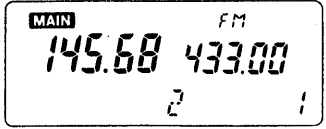


チャンネル
がダウンする
チャンネル
がアップする

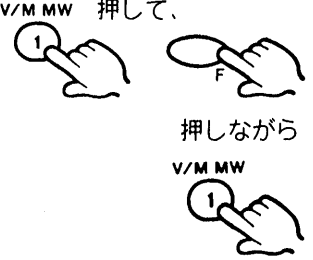
ダイヤルセレクト機能(P14)または「メモリーチャンネルの呼び出しかた」(P22)をご参照ください。

④ VFOモードに戻して、書き込む

■ディスプレイ



■操作部



V/M MW 押して、
F 押しながら
V/M MW

V/Mキーを押してVFOモードに戻し、ピーブ音が“ピッピピ”と鳴るまで、Fスイッチを押しながらMWキーを押します。

マスク機能とは

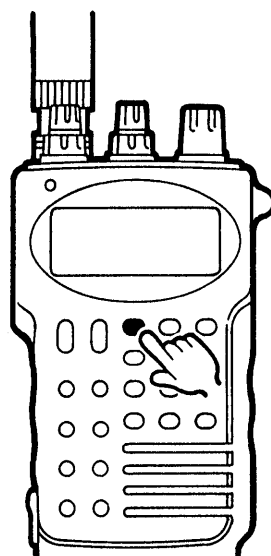
必要ないメモリーチャンネルの内容を一時消去する機能です。

マスク機能で一時消去したメモリーチャンネルをマスクチャンネルと呼び、1ch以外のメモリーチャンネルで行なえます。

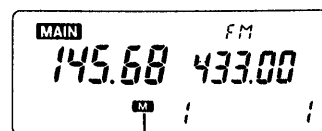
マスクチャンネルにしたメモリーチャンネルの内容は、新たな情報を書き込まないかぎり、一時消去するときと同じ操作で簡単に復元できます。

マスクチャンネルにするには

① メモリーモードにする



■ディスプレイ



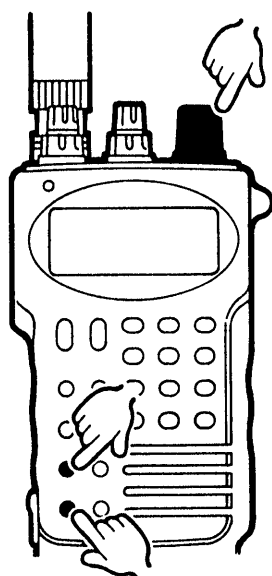
点灯

■操作部

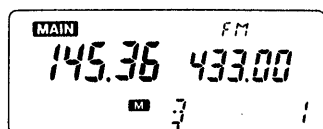


V/Mキーを押します。

② マスクチャンネルにしたいメモリーチャンネルを選ぶ

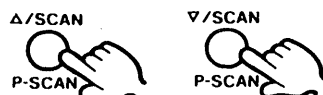


■ディスプレイ



一時消去したいチャンネルを選ぶ

■操作部



または

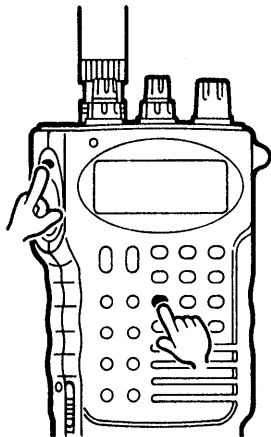
DIAL

チャンネルがダウンする

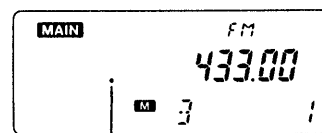
チャンネルがアップする

△または▽キーを押すか、DIALを回します。

③ マスクチャンネルにする

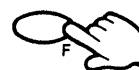


■ディスプレイ



メモリー内容が一時消去される

■操作部



押しながら

SKIP/MASK



もう一度同じ操作で、マスク直前の周波数に復元されます。

レピータとは

山や建物などの障害物で、直接交信できない局との交信を可能にする自動無線中継局です。

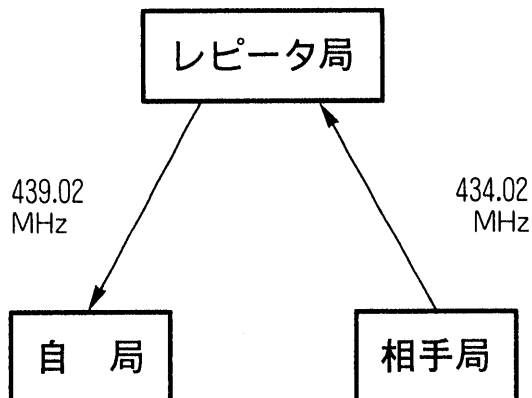
本機ではレピータをアクセス(機動)するために必要なトーン周波数(88.5Hz)と、オフセット周波数(5MHz)、シフト方向(マイナス)を標準設定していますので、簡単にレピータを運用できます。なお、オフセット周波数はSETモード(※P50)で変更することもできます。

レピータの入出力周波数は地域によって異なりますので、JARL NEWSや専門誌などでお調べください。

また、調べたレピータ情報をメモリーチャンネルに書き込んでおくと便利です。

レピータは、多くの局が使用しますので、できるだけ小電力で手短かに交信してください。

※IC-2SRでは、レピータの運用はできません。



レピータ運用の手順

① ハムバンドを選ぶ



H MAINキーを押します。

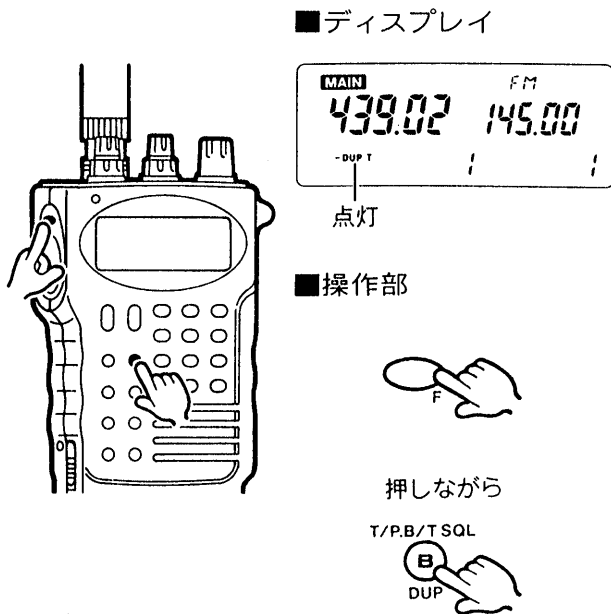
② レピータ局の送信周波数を設定する



「周波数の設定」(※P12)をご参照ください。

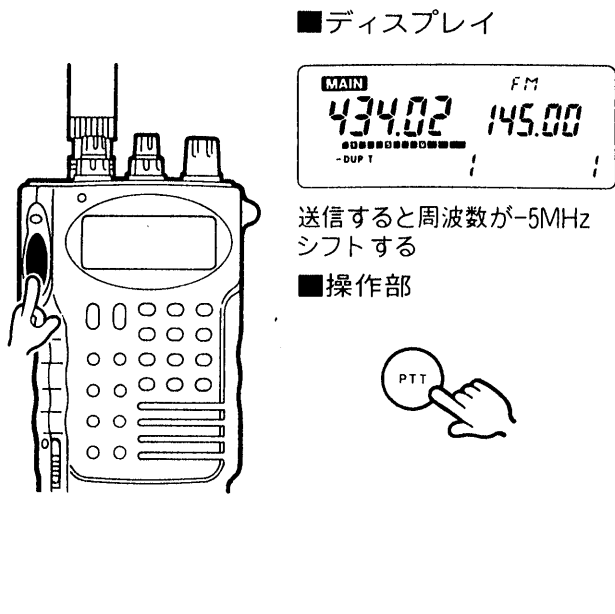
レピータ運用の手順

③ レピータ運用を設定する



Fスイッチを押しながらDUPキーを押します。

④ 送信する

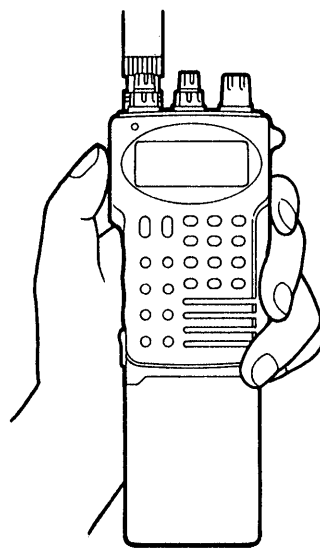


他局がレピータを使用していないことを確認して、約2秒間PTTスイッチを押します。

⑤ レピータ局のコールサインを示すID信号を確認する

発射した電波がレピータに届いていれば、ID信号(モールス符号または音声)が聞えます。タイミングによっては聞えない場合もあります。

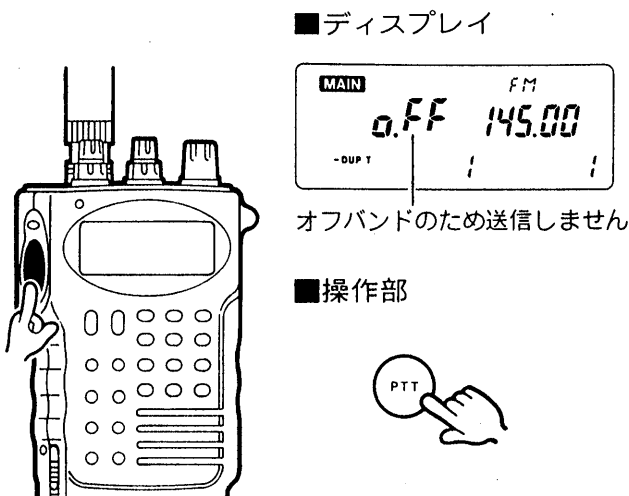
⑥ 交信する



自局の電波でレピータが作動していることを確認し、通常の交信と同様に交信してください。

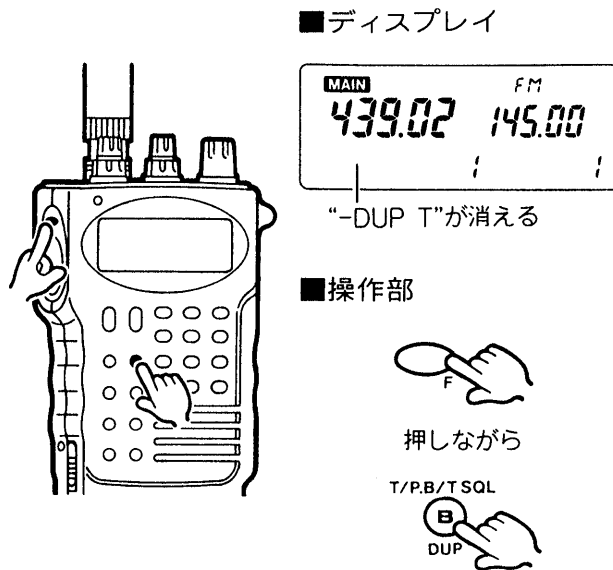
レピータ運用の手順

⑦ 送信周波数がオフバンドすると



送信するとディスプレイに“OFF”と表示されます。送信周波数を設定しなおしてください。

⑧ レピータ運用を終了する

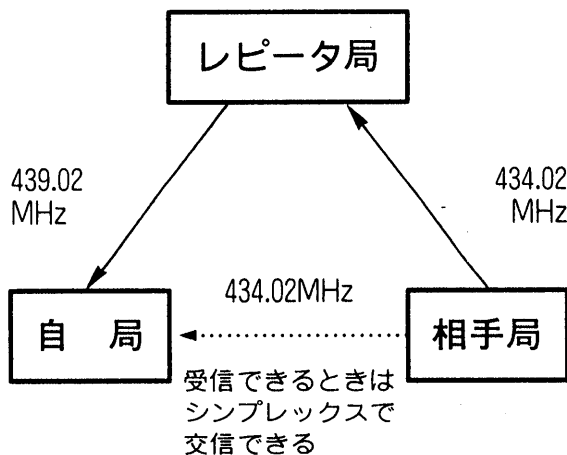


Fスイッチを押しながらDUPキーを2回押して(“-DUP T”の表示が消える)ください。

DUPモニター機能について

レピータ運用時、レピータ局を通さずに通常の交信(シンプレックス)ができないか、確認する機能です。

レピータを通さなくても交信できるときは、レピータ運用を終了して、通常の交信をしてください。



① シンプレックスでの交信範囲を確認する



MONIキーを押して、相手局の音声が見えるときは、シンプレックスで交信できます。

スキャン機能とは

周波数やメモリーチャンネルを自動的にアップまたはダウンし、選局する機能です。

スキャン機能を大きく分けると7種類あります。

- ①フルスキャン……………指定バンドの周波数をすべてスキャンします。
(P29)
- ②プログラムスキャン……………設定範囲の周波数をすべてスキャンします。
(P30)
- ③周波数スキップスキャン……………フルスキャンとプログラムスキャン操作時に、あらかじめ登録したスキップ周波数を飛び越えてスキャンします。
(P32)
- ④メモリースキャン……………メモリーしているチャンネルをすべてスキャンします。
(P35)
- ⑤メモリースキップスキャン……………あらかじめ登録したスキップチャンネルを飛び越えて、メモリーしているチャンネルをスキャンします。
(P37)
- ⑥モードセレクトスキャン……………受信バンド側のみ有効で、指定したモード〔電波型式〕が書き込まれているメモリーチャンネルだけをスキャンします。
(P40)
- ⑦プライオリティスキャン……………VFO周波数を受信しながら一定間隔で他の周波数(メモリーチャンネルやコールチャンネル)を受信します。
(P42)

スキャン機能进行操作する前に

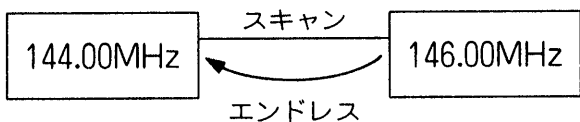
スキャン機能进行操作するときは、次のことにご注意ください。

- 信号を受信してオートストップしますので、SQLツマミは必ず雑音の消える位置にセットしてください。
- オートストップ後、再スタートする条件は2種類あり、信号が途切れるまで一時停止するか、5秒間受信して再スタート(出荷状態)するかをSETモード(P50)にて設定できます。
- 周波数をスキャンするときは、あらかじめ設定しているチューニングステップ(P13)の幅で、アップまたはダウンします。
- スキャン中にFスイッチを押すと、押している間だけスキャンは一時停止します。Fスイッチから指を離すと、スキャンは再スタートします。
- ハムバンド、受信バンドの両バンドで、異なるスキャン(同一スキャンでもよい)を同時に動作させることができます。
- 受信バンド側では25~914MHzまで動作しますが、規定周波数以外の周波数は、スキャンできません。スキャン範囲に規定外の周波数帯が含まれている場合は、その周波数帯をスキップします。

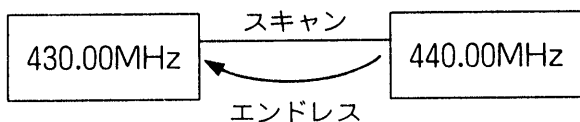
フルスキャンの機能と操作

指定バンドの端から端までの周波数をすべてスキャンします。

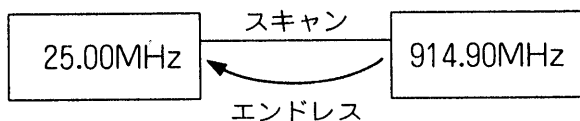
IC-2SRハムバンド側



IC-3SRハムバンド側



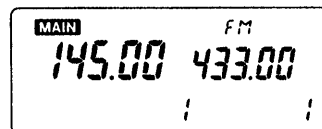
受信バンド(共通)



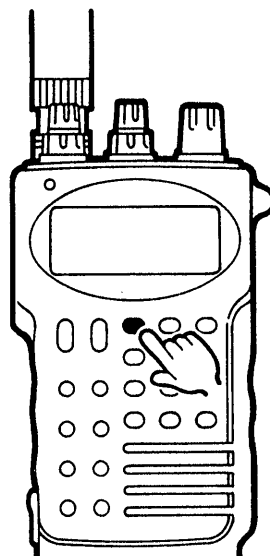
※受信バンド側は、規定された周波数帯以外の周波数は、スキャンしません。

① VFOモードにする

■ディスプレイ



■操作部



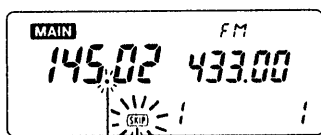
V/M MW



V/Mキーを押します。

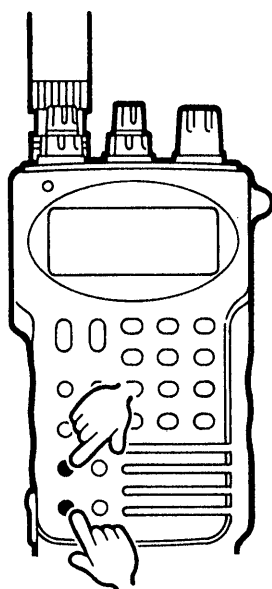
② スキャンをスタートする

■ディスプレイ



スキャン中、点滅する

■操作部



△/SCAN

P-SCAN

または

▽/SCAN

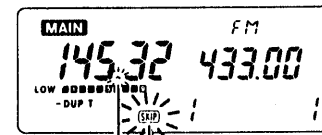
P-SCAN

△または▽キーを約0.5秒以上押します。

③ 信号を受信すると一時停止する

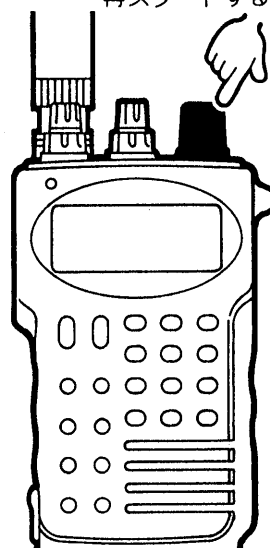
強制的に再スタートする

■ディスプレイ



点滅

■操作部



DIAL

ダウン方向にスキャンが再スタートする

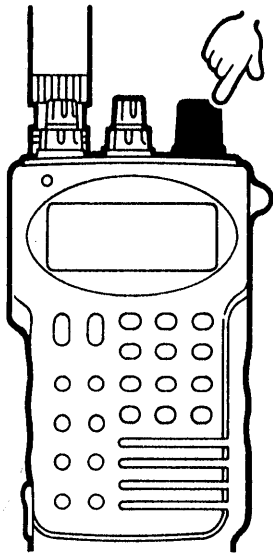
アップ方向にスキャンが再スタートする

信号が途切れると約2秒後、信号が続いているときは約5秒後に再スタート(※P50,54)します。また、DIALを回すと強制的に再スタートします。

フルスキャンの機能と操作

④ スキャンの方向を変更する

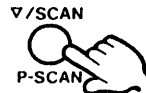
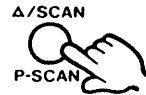
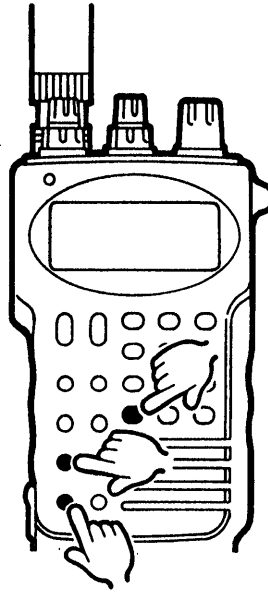
■操作部



DIALを時計方向に回すとアップし、逆に回すとダウンします。

⑤ スキャンをストップする

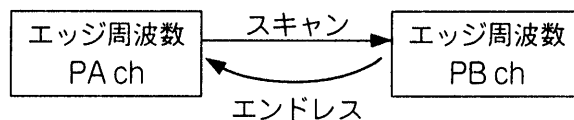
■操作部



△または▽キーを押すか、CLRキーを押します。

プログラムスキャンの機能と操作

あらかじめ設定したプログラムスキャン用エッジ周波数(メモリーチャンネルのPAchとPBch間)のプログラム範囲をすべてスキャンします。

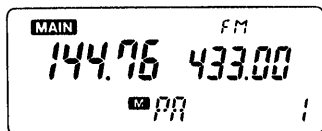


PAchとPBchに同一のエッジ周波数をメモリーしていると、プログラムスキャンは動作しません。なお、スキャンスタート時にプログラム範囲外の周波数を表示しているときは、スキャン方向によりエッジ周波数までいったんスキャンまたはジャンプします。

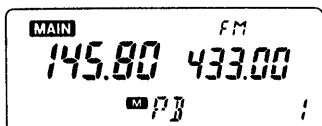
プログラムのスキャンの機能と操作

① あらかじめ“PAch”と“PBch”にエッジ周波数をメモリーする

“PAch”にメモリーしたエッジ周波数



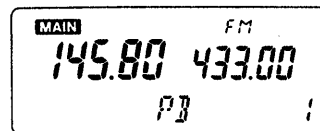
“PBch”にメモリーしたエッジ周波数



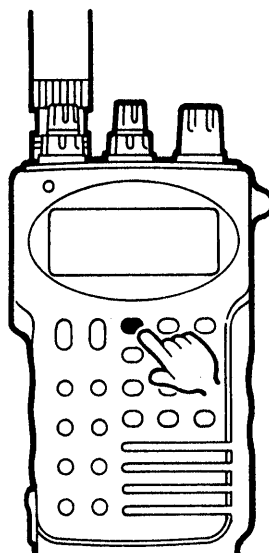
「メモリーチャンネルへの書き込みかた」(※P23)をご参照ください。
メモリーしているときは②の操作から進んでください。

② VFOモードにする

■ディスプレイ



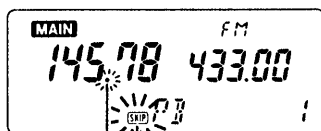
■操作部



V/Mキーを押します。

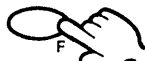
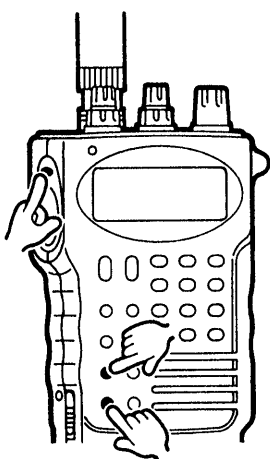
③ スキャンをスタートする

■ディスプレイ



スキャン中、点滅する

■操作部



押しながら

△/SCAN または ▽/SCAN

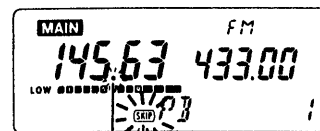


Fスイッチを押しながら△または▽キーを押します。

④ 信号を受信すると一時停止する

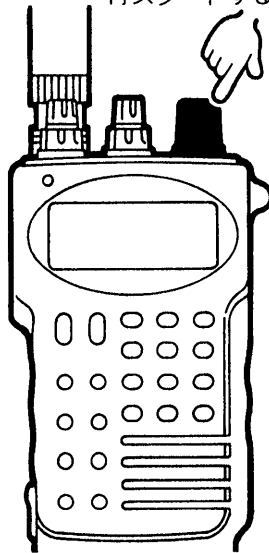
強制的に再スタートする

■ディスプレイ



点滅

■操作部



DIAL

ダウン方向にスキャンが再スタートする



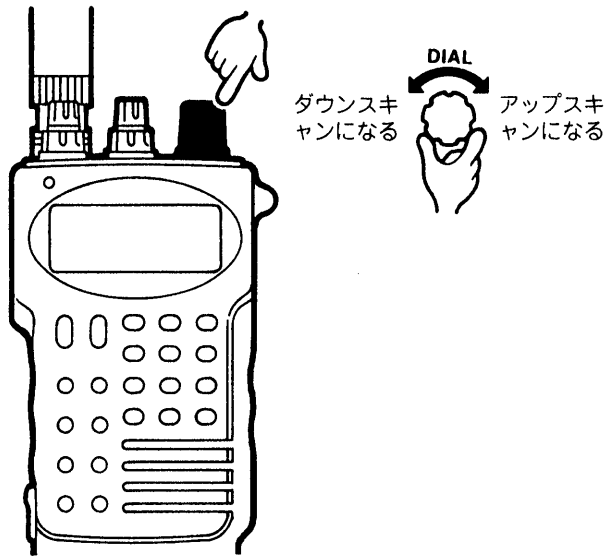
アップ方向にスキャンが再スタートする

信号が途切れると約2秒後、信号が続いているときは約5秒後に再スタート(※P50,54)します。また、DIALを回すと強制的に再スタートします。

プログラムスキャンの機能と操作

⑤ スキャンの方向を変更する

■操作部



DIALを時計方向に回すとアップし、逆に回すとダウンします。

⑥ スキャンをストップする

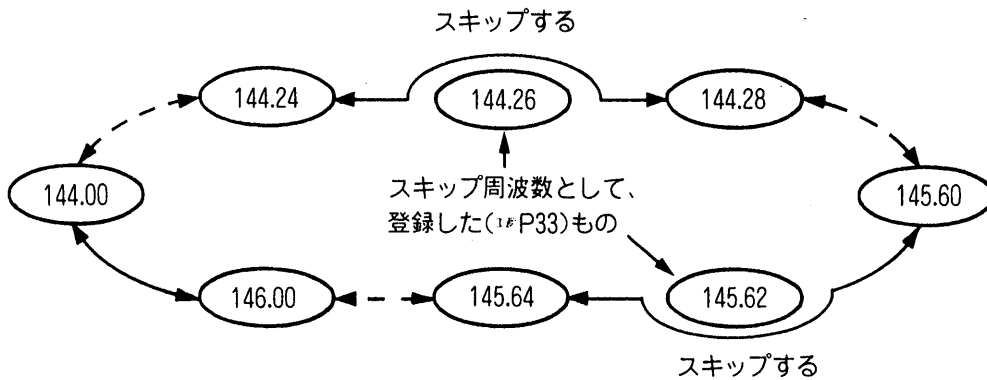
■操作部



△または▽キーを押すか、CLRキーを押します。

周波数スキップスキャンの機能と操作

あらかじめ登録したスキップ周波数を飛び越えてスキャンします。



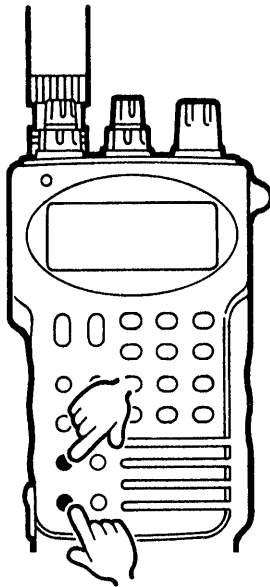
目的外の信号や雑音の入る周波数を登録(☞P33)しておけば、スキャン中にその周波数で一時停止することがありませんので、スキャンの効率をアップできます。

操作方法は、フルスキャン(☞P29)またはプログラムスキャン(☞P30)と同様です。また、この機能を“OFF”にすること(☞P50,54)もできます。

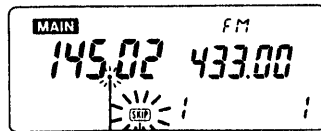
スキップ周波数の登録

① VFOモードにして、スキャンをスタートする

フルスキャンのとき

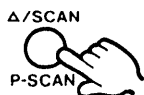


■ディスプレイ

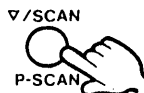


スキャン中点減する

■操作部



または



フルスキャン(※P29)またはプログラムスキャン(※P30)をスタートします。

② 登録する周波数を選ぶ

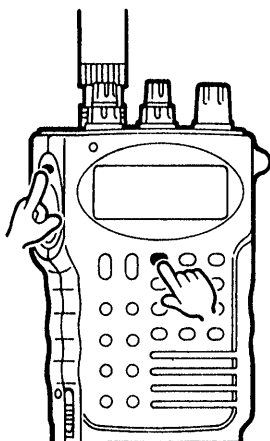
■ディスプレイ



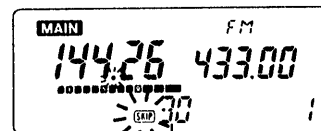
受信すると一時停止する

信号または雑音を受信すると、スキャンは一時停止します。

③ 登録する



■ディスプレイ



“30ch”から順番にメモリーする

■操作部



押しながら



一時停止中にピープ音が“ピッピ”と鳴るまで、Fスイッチを押しながらMWキーを押します。

ご注意

登録時、チャンネル番号の大きいメモリーチャンネルから順番に(30ch→11ch)マスクチャンネルを自動選択し、その周波数と“(SKIP)”表示を登録するとともに、チャンネル番号を表示します。

なお、メモリーチャンネルの“30ch～11ch”がすでに満杯のときは、ピープ音が“ブー”と鳴ります。

受信バンド側のスキップ登録するメモリーのエリアは、60～11CHです。

スキップ周波数の登録

④ 続けて、他の周波数を登録するとき

■ディスプレイ

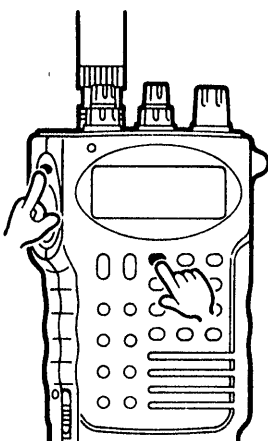


メモリーチャンネルを
繰り下げる

■操作部



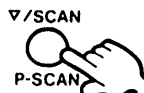
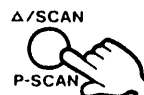
押しながら



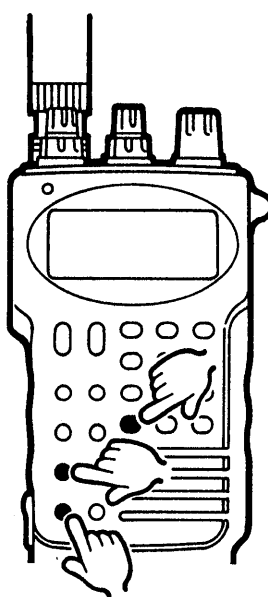
他の周波数で一時停止したときに、③の操作を繰り返してください。

⑤ スキャンをストップする

■操作部



または



△または▽キーを押すか、CLRキーを押します。

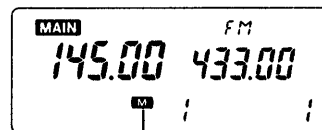
登録の取り消しかた

スキップ周波数の登録を取り消すには2通りあります。

「マスク機能について」(P24)にしたがってマスクチャンネルにすると、スキップ周波数の登録を取り消し、マスクチャンネルになります。また、次のように操作すると、周波数表示はそのまま「SKIP」表示だけが取り消されます。

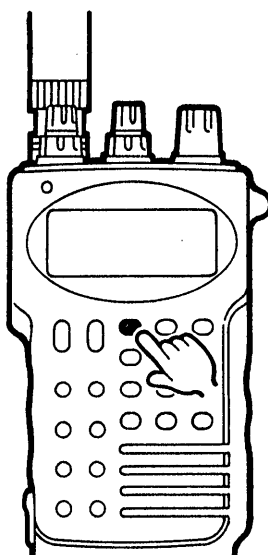
① メモリーモードにする

■ディスプレイ



点灯

■操作部



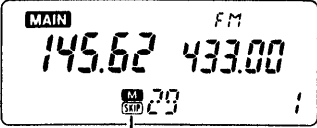
V/Mキーを押します。

11 スキャン機能とその操作

登録の取り消しかた

② 取り消したいチャンネルを呼び出す

■ディスプレイ



スキップ周波数を登録した、チャンネルは“SKIP”が点灯する

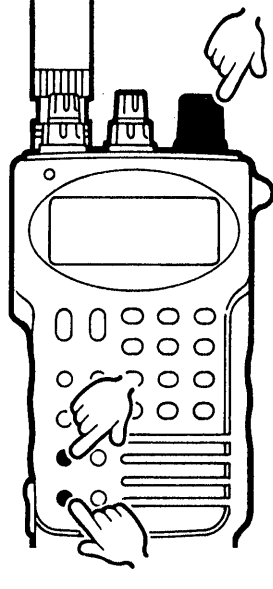
■操作部

△/SCAN P-SCAN ▽/SCAN P-SCAN

または

DIAL

チャンネルがダウンする チャンネルがアップする



△または▽キーを押すか、DIALを回します。

③ “SKIP”表示を取り消す

■ディスプレイ



“SKIP”が消える

■操作部

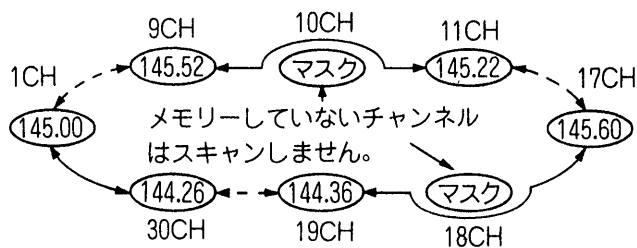
SKIP/MASK 7



SKIPキーを押します。

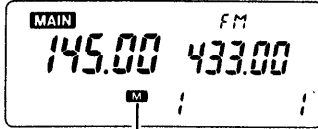
メモリスキャンの機能と操作

メモリーしているすべてのメモリーチャンネルをスキャンします。



① メモリーモードにする

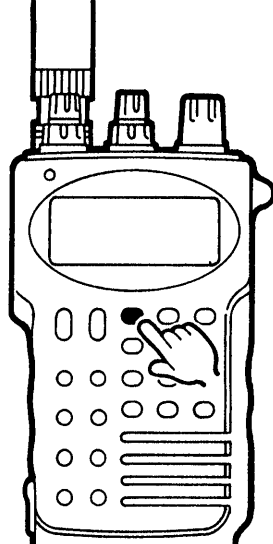
■ディスプレイ



点灯

■操作部

V/M MW 1

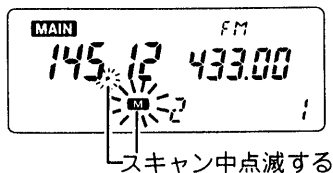


V/Mキーを押します。

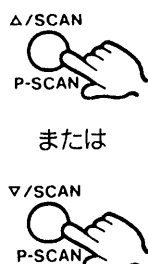
メモリスキャンの機能と操作

② スキャンをスタートする

■ディスプレイ



■操作部

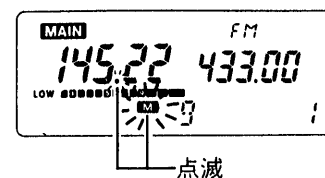


△または▽キーを約0.5秒以上押します。

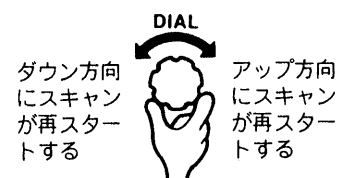
③ 信号を受信すると一時停止する

強制的に再スタートする

■ディスプレイ



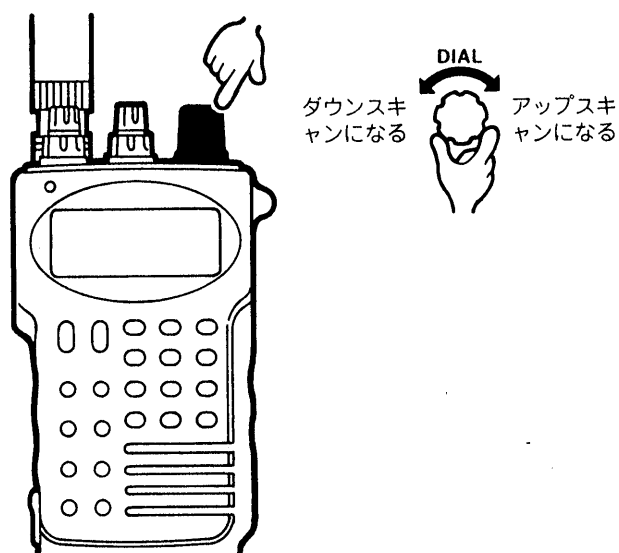
■操作部



信号が途切れると約2秒後、信号が続いているときは約5秒後に再スタート(※P50,54)します。また、DIALを回すと強制的に再スタートします。

④ スキャンの方向を変更する

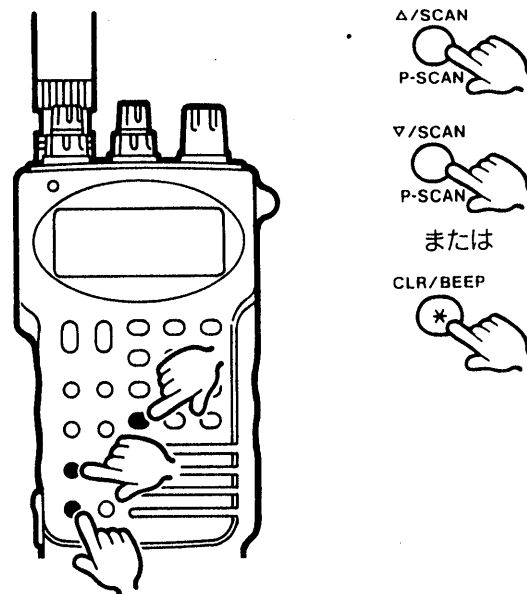
■操作部



DIALを時計方向に回すとアップし、逆に回すとダウンします。

⑤ スキャンをストップする

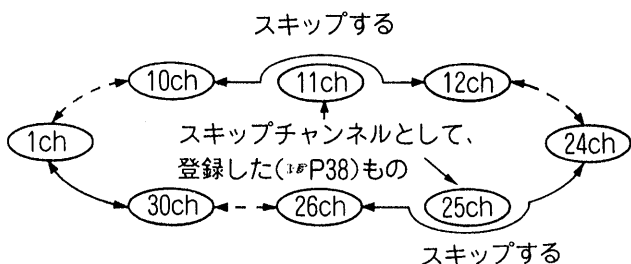
■操作部



△または▽キーを押すか、CLRキーを押します。

メモリースキップスキャンの機能と操作

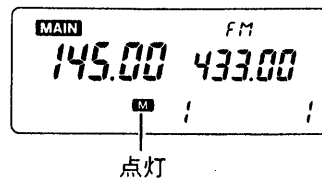
あらかじめ登録したスキップチャンネルを飛び越えてスキャンします。



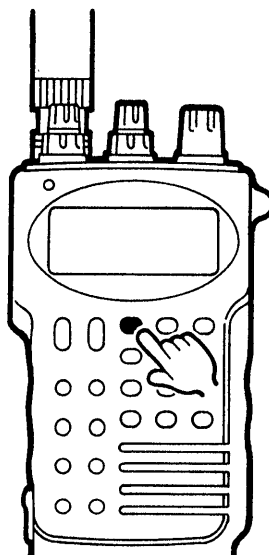
スキャンしなくてもよいメモリーチャンネル(スキップチャンネル)を登録しておけば、スキャン中にその周波数で一時停止することはありませんので、スキャンの効率をアップできます。

①メモリーモードにする

■ディスプレイ



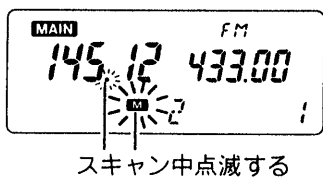
■操作部



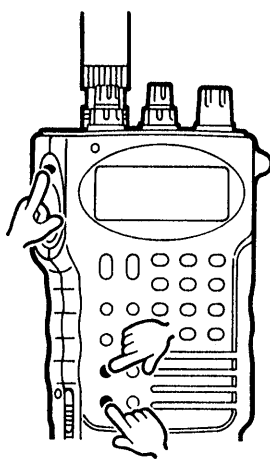
V/Mキーを押します。

②スキャンをスタートする

■ディスプレイ



■操作部



押しながら
△/SCAN



または
▽/SCAN

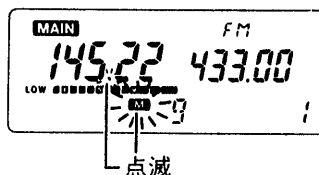


Fスイッチを押しながら△または▽キーを押すと、スキップチャンネルを飛び越えてスキャンします。

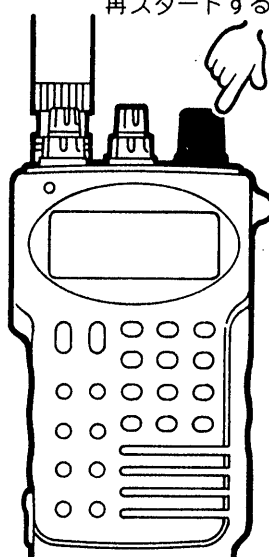
③信号を受信すると一時停止する

強制的に再スタートする

■ディスプレイ



■操作部



ダウン方向にスキャンが再スタートする

SQL

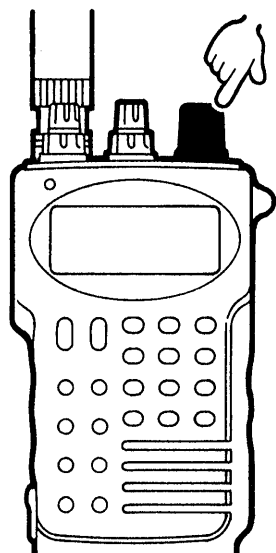
アップ方向にスキャンが再スタートする

信号が途切れると約2秒後、信号が続いているときは約5秒後に再スタート(※P50,54)します。また、DIALを回すと強制的に再スタートします。

メモリスキップスキャンの機能と操作

④ スキャンの方向を変更する

■ディスプレイ

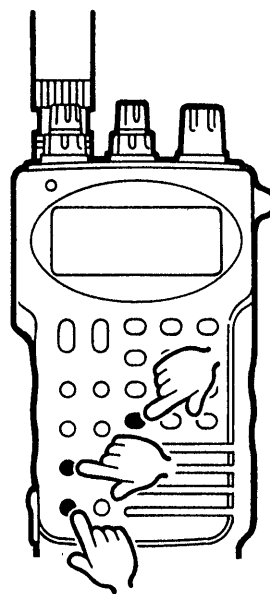


SQL
 ダウンスキャンになる アップスキャンになる

DIALを時計方向に回すとアップし、逆に回すとダウンします。

⑤ スキャンをストップする

■操作部



△/SCAN

P-SCAN

▽/SCAN

P-SCAN

または

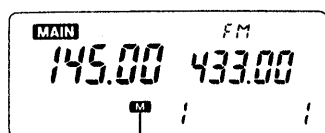
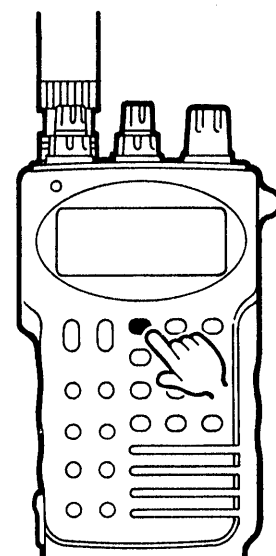
CLR/BEEP

△または▽キーを押すか、CLRキーを押します。

スキップチャンネルの登録

① メモリーモードにする

■ディスプレイ



点灯

■操作部

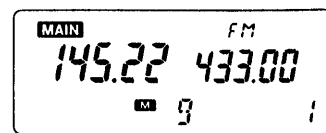
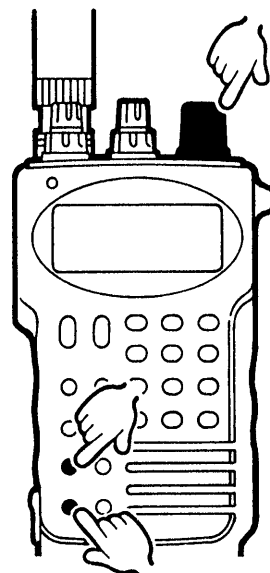
V/M MW



V/Mキーを押します。

② スキャンしなくてもよいメモリーチャンネルを選ぶ

■ディスプレイ



■操作部

△/SCAN

P-SCAN

▽/SCAN

P-SCAN

または

SQL

チャンネル
がダウンす
る

チャンネル
がアップす
る

△または▽キーを押すか、DIALを回します。

11 スキャン機能とその操作

スキップチャンネルの登録

③ 登録する



SKIPキーを押します。

登録の取り消しかた

① メモリーモードにする



V/Mキーを押します。

② 取り消したいチャンネルを呼び出す



△または▽キーを押すか、DIALを回します。

③ “SKIP”表示を取り消す



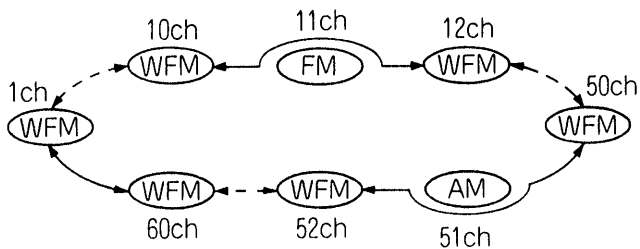
SKIPキーを押します。

モードセレクトスキャンの機能と操作

このスキャンは、受信バンド側でのみ動作します。

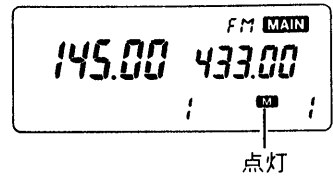
指定したモードを持つメモリーチャンネルだけを順次スキャンします。

同じモードが書き込まれたメモリーチャンネルが、2ヶ以上なければスキャンしません。



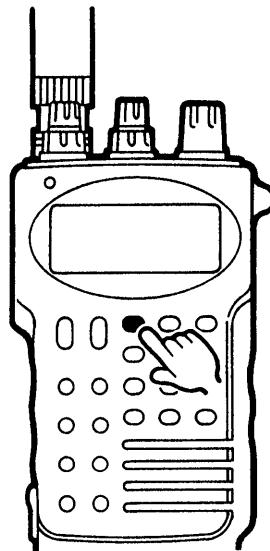
① メモリーモードにする

■ディスプレイ



点灯

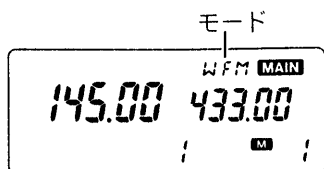
■操作部



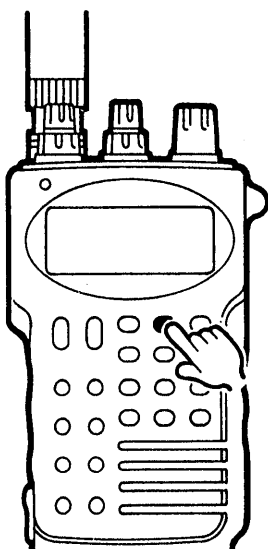
V/Mキーを押します。

② モードを指定する

■ディスプレイ



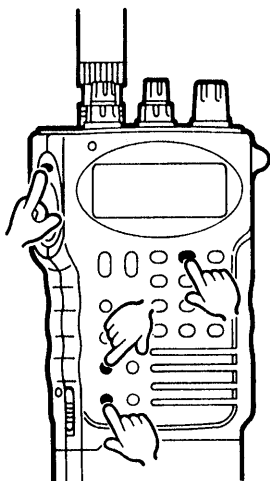
■操作部



MODEキーを押します。

③ スキャンをスタートする

■操作部



押し続けながら

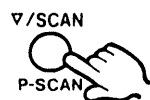


を押し

Fを押したまま



または




Fスイッチを押し続けながら、MODEキーに続けて△または▽キーを押します。

11 スキャン機能とその操作

④ 信号を受信すると一時停止する

強制的に再スタートする

■ディスプレイ



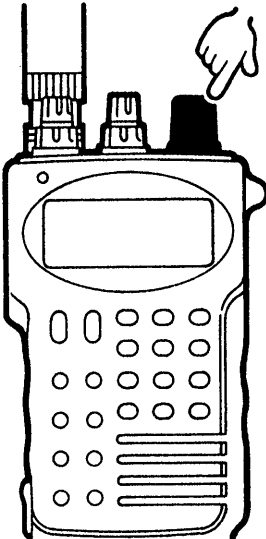
点滅

■操作部

DIAL

ダウン方向にスキャンが再スタートする

アップ方向にスキャンが再スタートする



信号が途切れると約2秒後、信号が続いているときは約5秒後に再スタート(※P50,54)します。また、DIALを回すと強制的に再スタートします。

⑤ スキャンの方向を変更する

■操作部

ダウンスキャンになる

アップスキャンになる

DIAL

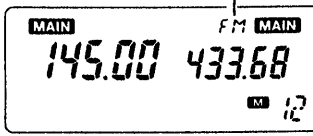


DIALを時計方向に回すとアップし、逆に回すとダウンします。

⑥ スキャン中でもモードの変更ができる

■ディスプレイ

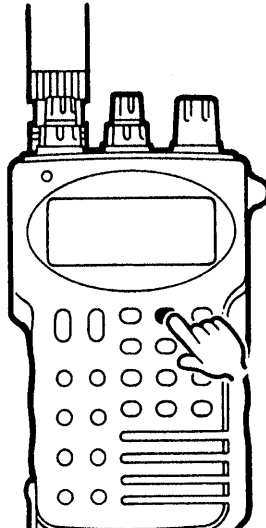
モード



■操作部

MODE

2



スキャン中にMODEキーを押すと、モードが切り換わり、そのモードでスキャンが継続されます。
※切り換えたモードのメモリーチャンネルが2ヶ以上なければ、スキャンは解除されます。

⑦ スキャンをストップする

■操作部

△/SCAN

P-SCAN

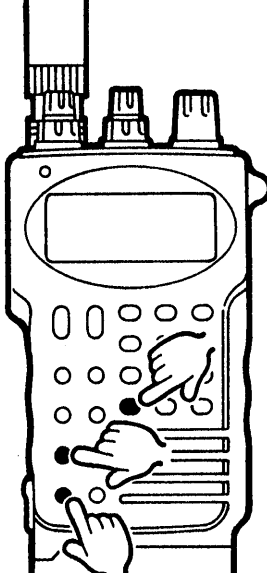
▽/SCAN

P-SCAN

または

CLR/BEEP

*

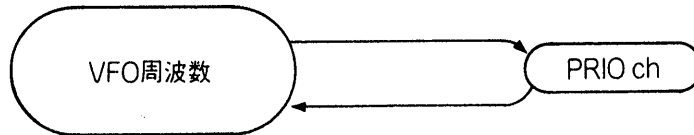


△または▽キーを押すか、CLRキーを押します。

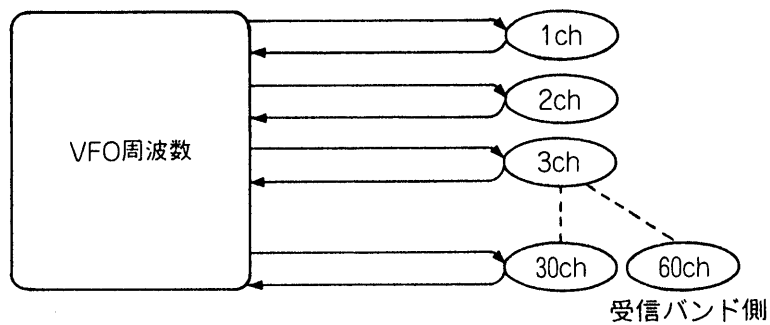
プライオリティスキャンの機能

VFO周波数を運用しながらコールチャンネルや指定のメモリーチャンネル、またはメモリーチャンネルを順番(メモリスキャン)に、約5秒に1回、短時間受信するスキャンです。

VFO周波数を運用しながら指定のコールチャンネルまたはメモリーチャンネルを受信するとき



VFO周波数を運用しながらメモリーチャンネルを順番に受信するとき



短時間受信するコールチャンネルやメモリーチャンネルをPRIO(プライオリティ)チャンネルといいます。

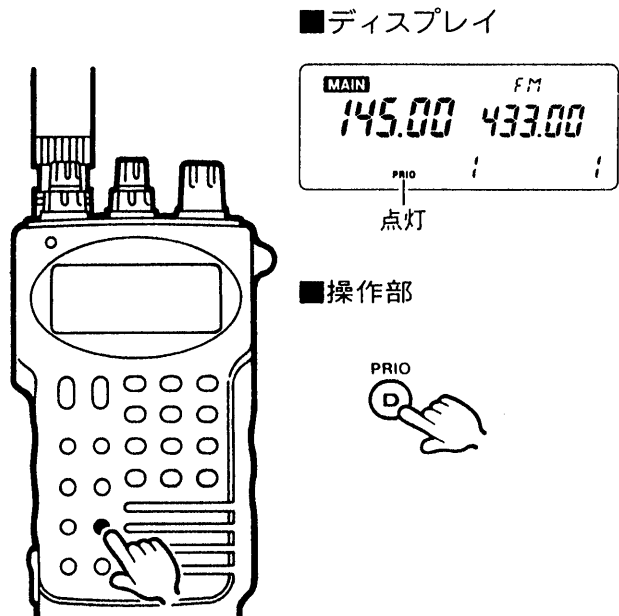
VFO周波数を運用しながらコールチャンネルを受信する

① コールチャンネルを呼び出す



CALLキーを押します。

② スキャンをスタートする



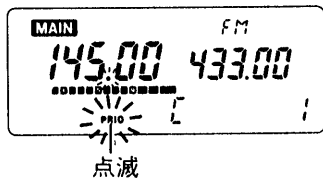
PRIOキーを押します。

11 スキャン機能とその操作

VFO周波数を運用しながらコールチャンネルを受信する

③ PRIOチャンネルで信号を受信すると一時停止する

■ディスプレイ

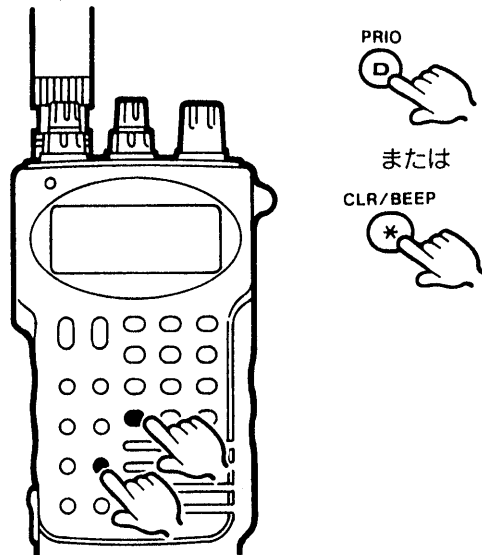


点滅

一時停止中は“PRIO”表示が点滅し、信号が途切れると約2秒後、信号が続いているときは約5秒後に再スタート(※P50,54)します。

④ スキャンをストップする

■操作部



PRIO

または

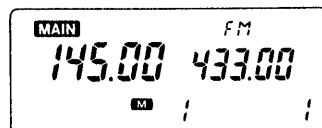
CLR/BEEP

VFO周波数を表示しているときに、PRIOキーまたはCLRキーを押します。

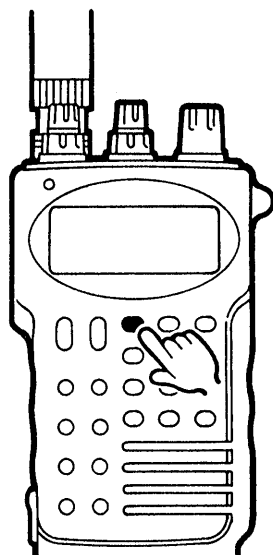
VFO周波数を運用しながら指定のメモリーチャンネルを受信する

① メモリーモードにする

■ディスプレイ



■操作部

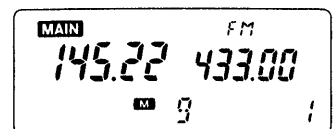


V/M MW

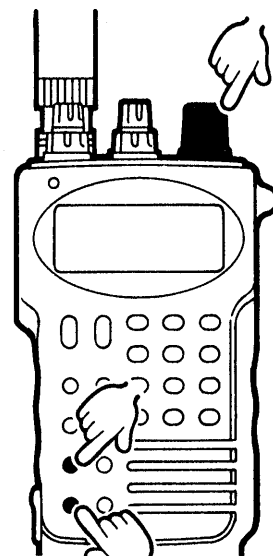
V/Mキーを押します。

② PRIOチャンネルを選ぶ

■ディスプレイ



■操作部



△/SCAN

▽/SCAN

P-SCAN

P-SCAN

または

VOL

チャンネル
がダウンす
る

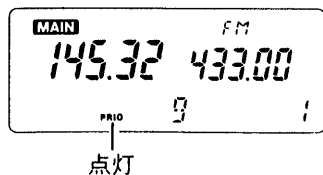
チャンネル
がアップす
る

△または▽キーを押すか、DIALを回します。

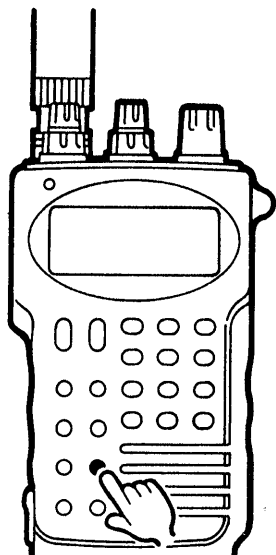
VFO周波数を運用しながら指定のメモリーチャンネルを受信する

③ スキャンをスタートする

■ディスプレイ



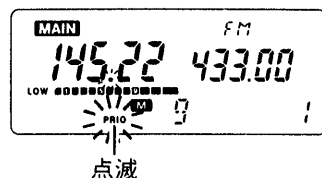
■操作部



PRIOキーを押します。

④ PRIOチャンネルで信号を受信すると一時停止する

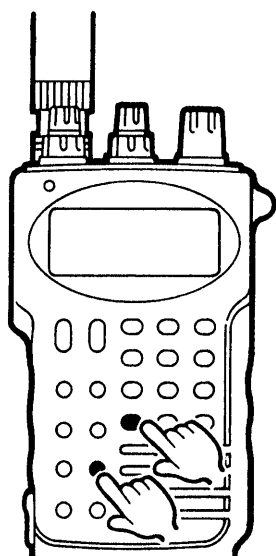
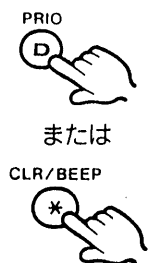
■ディスプレイ



一時停止中は“PRIO”表示が点滅し、信号が途切れると約2秒後、信号が続いているときは約5秒後に再スタート(※P50,54)します。

⑤ スキャンをストップする

■操作部



VFO周波数を表示しているときに、PRIOキーまたはCLRキーを押します。

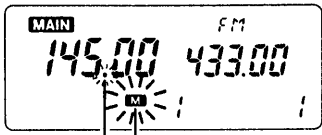
プライオリティスキャンのご注意

- ① プライオリティスキャン中に送信すると、その間、スキャンは一時停止し、受信に戻ると再スタートします。なお、送信はVFO周波数で行われます。
- ② PRIOチャンネルで一時停止しているとき(“PRIO”表示が点滅する)のPRIOキーとCLRキーは、一時停止を解除する動作になります。

VFO周波数を運用しながら全チャンネルを順番に受信する


① メモリーモードにして、メモリースキャンをスタートする

メモリースキャンのとき ■ディスプレイ

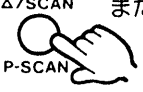


点滅


■操作部



V/M MW
押して



△/SCAN または ▽/SCAN
P-SCAN

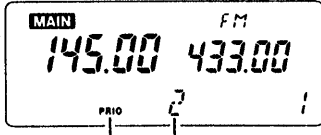


P-SCAN

メモリースキャン(※P35)をスタートします。
メモリースキップスキャン(※P37)でも動作します。

② プライオリティスキャンにする


■ディスプレイ



PRIO 2
点灯

チャンネルが順番に変化する

■操作部

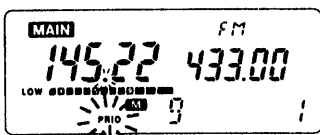


PRIO

PRIOキーを押します。

③ PRIOチャンネルで信号を受信すると一時停止する

■ディスプレイ




PRIO LOW
点滅

一時停止中は“PRIO”表示が点滅し、信号が途切れると約2秒後、信号が続いているときは約5秒後に再スタート(※P50,54)します。


④ スキャンをストップする

■操作部

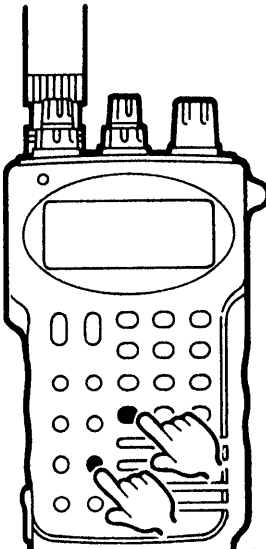


PRIO

または



CLR/BEEP



VFO周波数を表示しているときに、PRIOキーまたはCLRキーを押します。

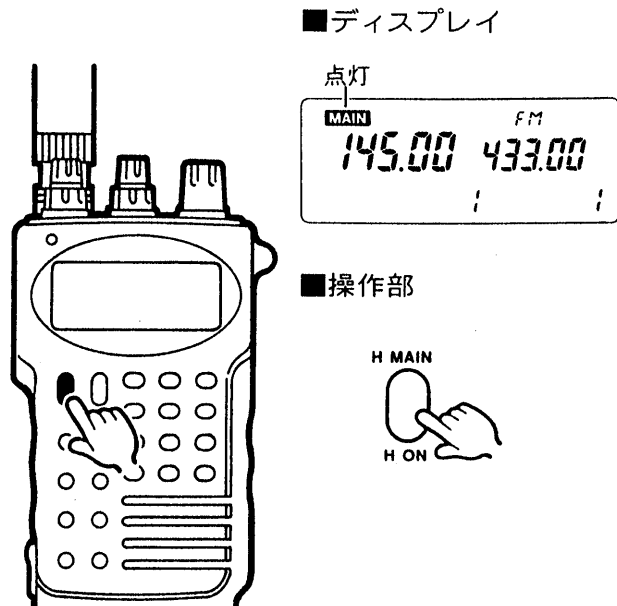
DTMF機能とは

本機のキーボードは、DTMF(Dual Tone Malti Frequency) 信号を送出する機能を備えています。〔ハムバンド側のみ〕

DTMF信号は最大15桁のコードを4チャンネル(T1~T4)メモリーできます。なお、メモリーしたDTMF信号は、15桁のコードをまとめて送することもできます。

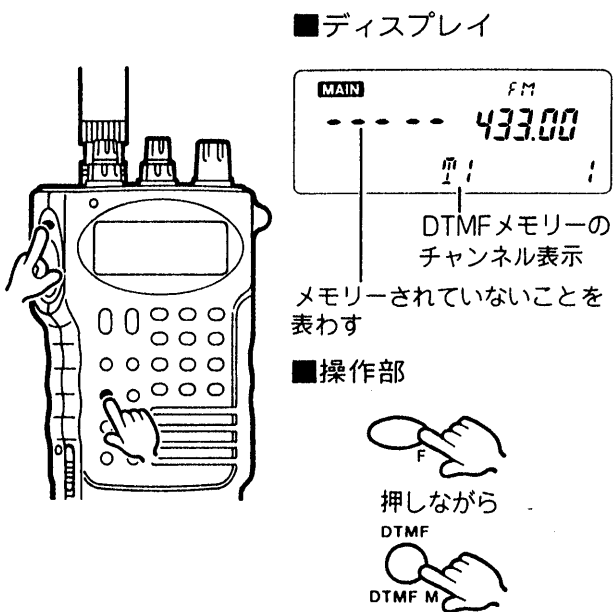
DTMFメモリーのしかた

① ハムバンドを選ぶ



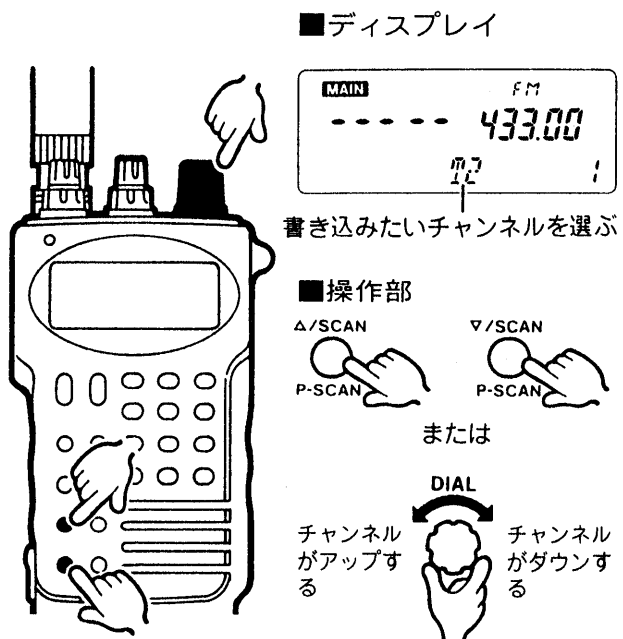
H MAINキーを押します。

② DTMFメモリーを呼び出す



Fスイッチを押しながらDTMF Mキーを押します。

③ 書き込みたいDTMFメモリーのチャンネルを選ぶ

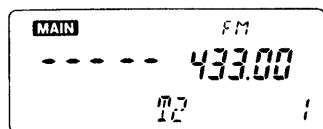


△または▽キーを押すか、DIALを回します。

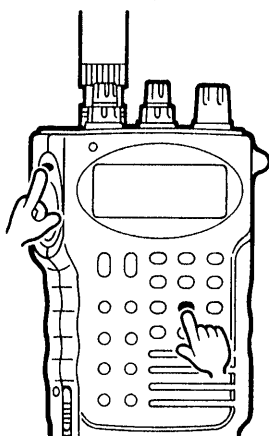
DTMFメモリーのしかた

④ コードセット状態にする

■ディスプレイ



■操作部



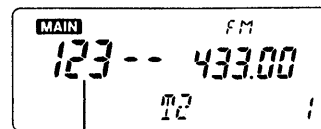
押しながら



Fスイッチを押しながらSETキーを押します。

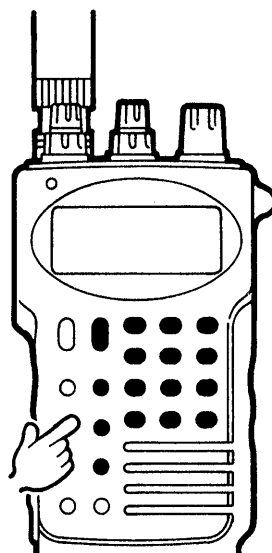
⑤ コードを入力する

■ディスプレイ



“1”“2”“3”と押したとき

■操作部

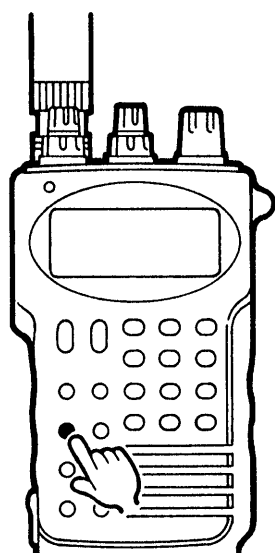


| | | | |
|--------------------------|----------------|---------------|---------------|
| R MAIN A | V/M MW 1 | MODE 2 | LIGHT 3 |
| R ON T/P/B/T SOL B | CALL/M-V 4 | TS/DSEL 5 | P.L 6 |
| DUP PGR/C SOL C | SKIP/MASK 7 | SET 8 | HI/LOW 9 |
| CODE PRIO D | CLR/BEEP * | CLOCK/AO 0 | ENT/LOCK # |

1~0、A~D、*、#キーを押します。
なお、*キーは“E”、#キーは“F”になります。
最大15桁(5桁×3表示)のコードを入力できます。

⑥ キーを押しまちがえたとき

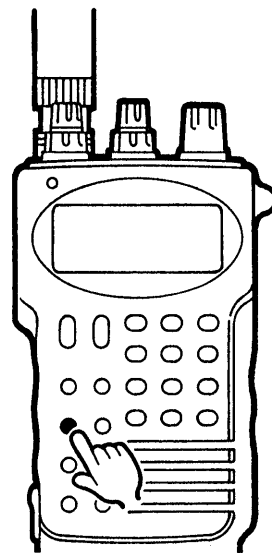
■操作部



いったんDTMFキーを押し、④の操作から行なってください。

⑦ コードセットを終了する

■操作部

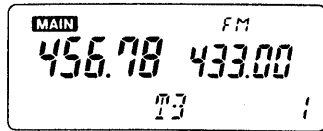


14桁以下のコードで終了するとき、DTMFキーを押すと終了します。15桁のときは自動的に終了します。

DTMFメモリーのしかた

⑧ 続けて他のDTMFメモリーチャンネルにも書き込むとき

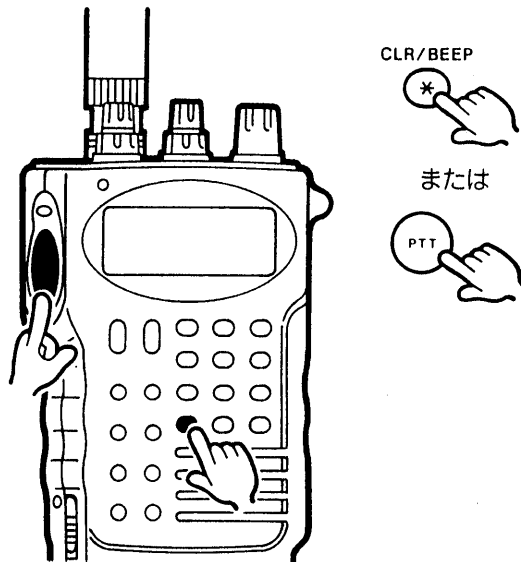
■ディスプレイ



③～⑤、⑦の操作を繰り返してください。

⑨ DTMFメモリーを終了する

■操作部



CLRキーまたはPTTスイッチを押します。

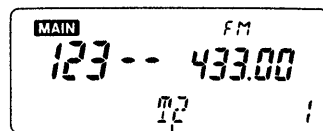
DTMFメモリーの内容チェック

DTMFメモリー終了時やDTMFコードを送出する前に、メモリーの内容をDTMFコードの信号音でチェックすることができます。

コードだけをチェックしたいときは①、現在選択しているDTMFメモリーチャンネルのチェックは②を操作してください。

① チェックしたいDTMFメモリーチャンネルを選ぶ

■ディスプレイ



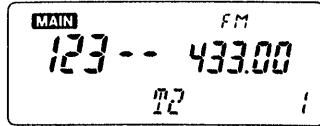
チャンネルを選ぶ

「DTMFメモリーのしかた」(P46)①～③、⑨の操作をします。

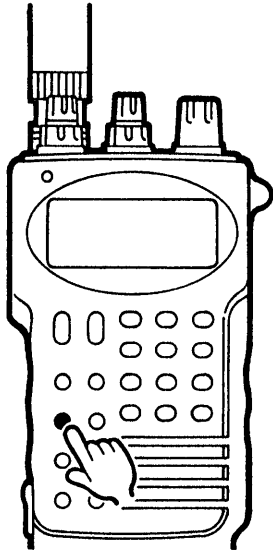
DTMFメモリーの内容チェック

② チェックする

■ディスプレイ



■操作部

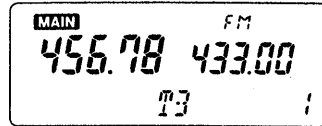


DTMFキーを押します。

DTMFコードの送出

① 送出したいDTMFメモリーのチャンネルを選ぶ

■ディスプレイ

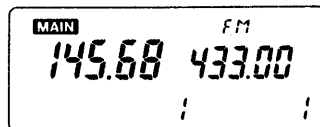


「DTMFメモリーのしかた」(P46)①~③、⑨の操作をします。

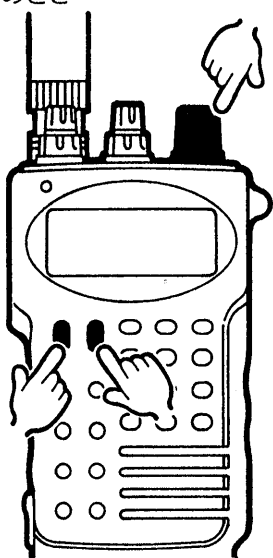
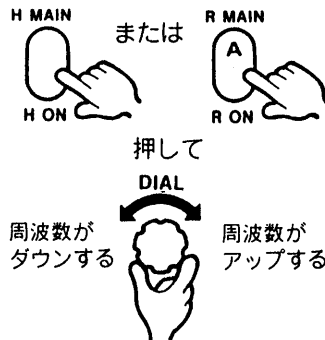
② 運用バンドと周波数を設定する

マニュアルチューニング
のとき

■ディスプレイ



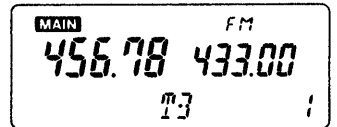
■操作部



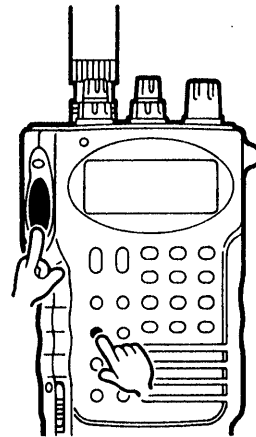
「周波数の設定」(P12)をご参照ください。

③ DTMFコードを送出する

■ディスプレイ



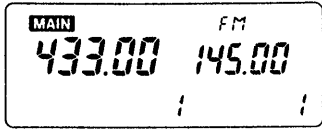
■操作部



PTTスイッチを押しながらDTMFキーを押します。以上の操作とは別に、VFOモードで送信しながら1桁ずつ送出することもできます。

SETモードの流れ

VFOモード



Fスイッチを押し
ながらSETキー ↓

↑ CLRキーまたは
PTTスイッチ

※初期設定値の状態を表示しています。

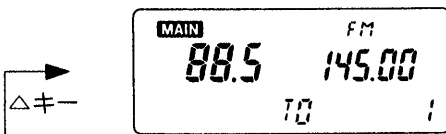
※ディスプレイの例は、IC-3SRのハムバンド側でセットしたときの状態を表示しています。

●受信バンド側は、下記の項目以外に、テンキー入力の置数位置が変更できる“PL”項目があります。(※P55)

SETモード

セットモードのディスプレイの例はIC-3SRです。

トーン周波数



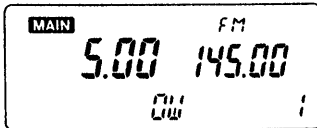
「トーン周波数のセット」を参照。
(※P53)

※UT-63装着時

△キー

△キー ↓ ↑ ▽キー

オフセット周波数

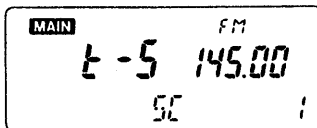


「オフセット周波数」を参照。
(※P53)

※IC-2SRはなし

△キー ↓ ↑ ▽キー

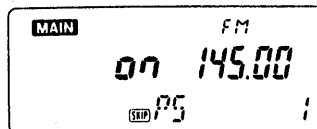
スキャンコントロール



「スキャンコントロール」を参照。
(※P54)

△キー ↓ ↑ ▽キー

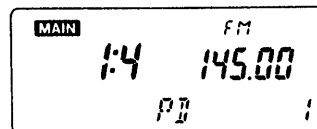
周波数スキップスキャン



「周波数スキップスキャン」を参照。
(※P54)

△キー ↓ ↑ ▽キー

パワーセーブ



「パワーセーブ」を参照。
(※P55)

▽キー

SETモードとは

レピータ運用(トーン周波数、オフセット周波数)、スキャン機能(スキャンコントロール、周波数スキップスキャン)、またはパワーセーブで初期設定されている運用条件を変更するときのモードです。

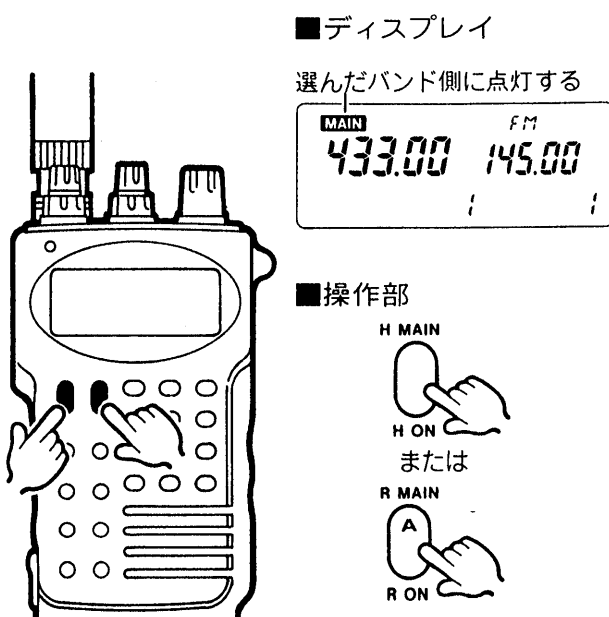
各種運用条件は、ハムバンドおよび受信バンドのそれぞれに独立して設定できます。

操作のしかた(共通操作)

各種運用条件をセットするときに、運用条件に関係なく同じ操作をする部分だけを順番に記載しています。

⑤の操作をするときは、変更したい運用条件の項目別セット方法を操作したうえで、⑥の操作に進んでください。

① 変更したいバンドを選ぶ



H MAINまたはR MAINキーを押します。

② VFOモードにする

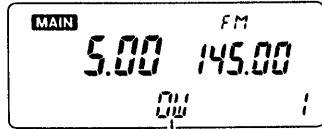


V/Mキーを押します。

操作のしかた(共通操作)

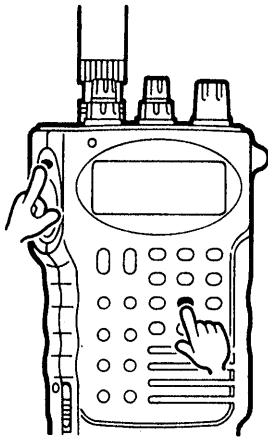
③ SETモードにする

■ディスプレイ



それぞれの項目を表示する

■操作部



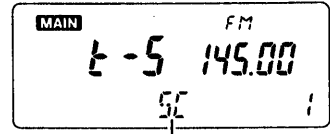
押しながら

SET

Fスイッチを押しながらSETキーを押します。

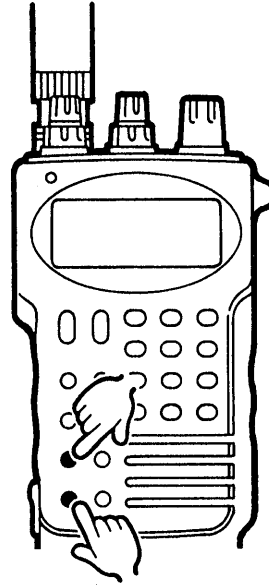
④ 変更したい項目を選ぶ

■ディスプレイ



スキャンコントロールを選んだとき

■操作部



△/SCAN

P-SCAN

または

▽/SCAN

P-SCAN

△または▽キーを押します。

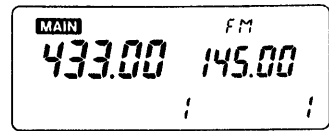
⑤ 変更したい項目の運用条件を選ぶ

それぞれの「項目別セット方法」(次ページ以降)を参照してください。

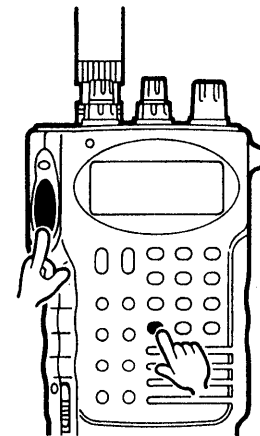
- トーン周波数 ……………(参照 P53)
- オフセット周波数 ……………(参照 P53)
- スキャンコントロール ……………(参照 P54)
- 周波数スキップスキャン ……………(参照 P54)
- パワーセーブ ……………(参照 P55)
- テンキー置数桁変更 ……………(参照 P55)

⑥ VFOモードに戻す

■ディスプレイ



■操作部



CLR/BEEP

*

または

PTT

CLRキーまたはPTTスイッチを押します。

13 SETモードについて

項目別セット(トーン周波数)

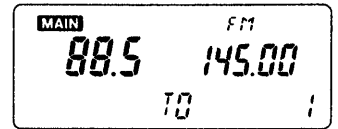
オプションのトーンスケルチユニットUT-63装着時に点灯し、トーンスケルチおよびポケットビープ機能(※P75)運用時に使用するトーン周波数を変更できます。

トーン周波数一覧表

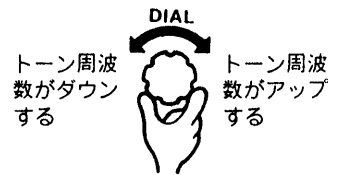
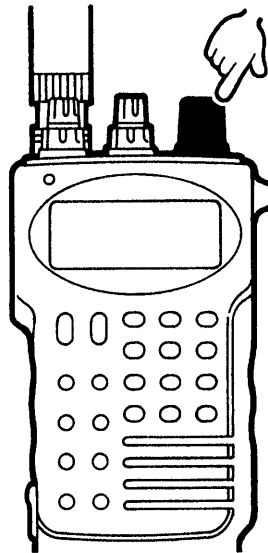
| | | |
|-------|-------|-------|
| 67.0 | 107.2 | 167.9 |
| 71.9 | 110.9 | 173.8 |
| 74.4 | 114.8 | 179.9 |
| 77.0 | 118.8 | 186.2 |
| 79.7 | 123.0 | 192.8 |
| 82.5 | 127.3 | 203.5 |
| 85.4 | 131.8 | 210.7 |
| 88.5 | 136.5 | 218.1 |
| 91.5 | 141.3 | 225.7 |
| 94.8 | 146.2 | 233.6 |
| 97.4 | 151.4 | 241.8 |
| 100.0 | 156.7 | 250.3 |
| 103.5 | 162.2 | 単位：Hz |

① トーン周波数を選ぶ

■ディスプレイ



■操作部



DIALを回します。

項目別セット方法(オフセット周波数)

レピータ運用時の送信周波数と受信周波数の差をオフセット周波数といいます。

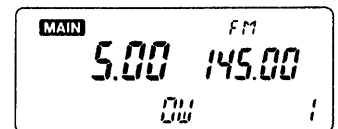
オフセット周波数は、“0MHz”から“60MHz”の間で任意にセットできます。

現在設置されているレピータ局のオフセット周波数は“5MHz”です。

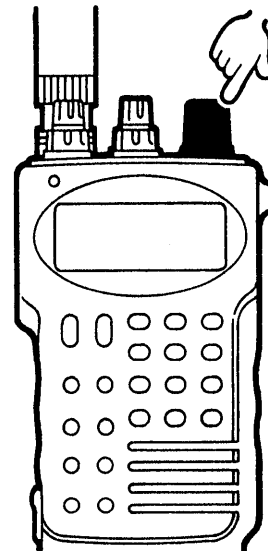
※この項目の表示は、IC-3SRのみです。

① オフセット周波数を選ぶ

■ディスプレイ



■操作部



DIALを回します。ダイヤルセレクト機能(※P14)も利用できます。

項目別セット方法(スキャンコントロール)

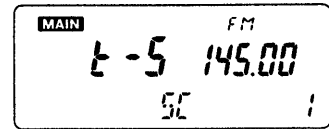
スキャンが一時停止してから5秒経過しても信号が続いているときの、スキャン再スタートの条件をセットできます。

t-5 = 信号が続いていても5秒後に再スタートする。

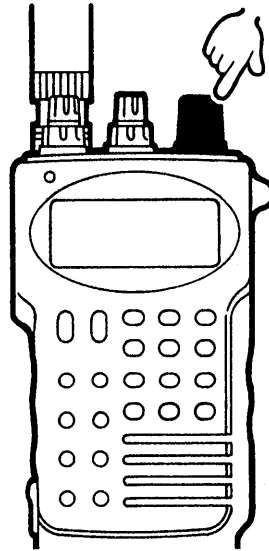
P-2 = 信号が途切れるまで一時停止し、信号が途切れてから2秒後に再スタートする。

① “t-5” または “P-2” を選ぶ

■ディスプレイ



■操作部



DIALを回します。

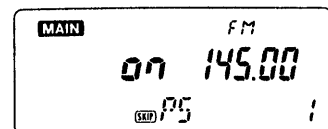
項目別セット方法(周波数スキップスキャン)

周波数スキップスキャンを“ON/OFF”できます。

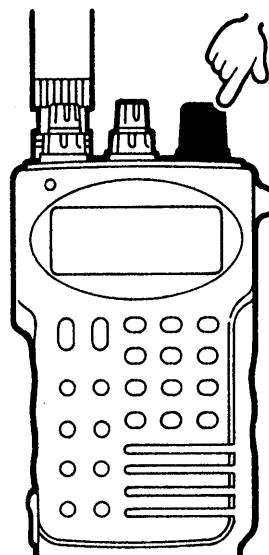
“OFF”にすると、周波数スキップスキャン(☞P32)は動作しません。

① “ON” または “OFF” を選ぶ

■ディスプレイ



■操作部



DIALを回します。

13 SETモードについて

項目別セット方法(パワーセーブ)

受信待ち受け時の消費電流を節約するパワーセーブ機能をセットできます。

何も操作しない受信待ち受け状態が5秒続くとパワーセーブ機能が動作し、受信待ち受け状態(動作時間)とパワーセーブ状態(休止時間)の比(デューティ比)を次のようにセットできます。

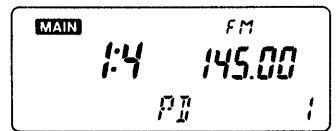
1:4 =125ms(動作時間):
500ms(休止時間)

1:16 =125ms(動作時間):
2sec (休止時間)

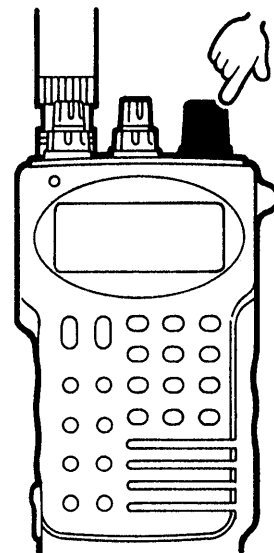
OFF=パワーセーブ機能を無効にする。

① デューティ比“1:4”“1:16”または“OFF”を選ぶ

■ディスプレイ



■操作部



DIALを回します。パワーセーブ機能を解除したいときは“OFF”を選択してください。

項目別セット方法(テンキー置数の最上位桁指定)

テンキーで入力するときに、100MHzの桁から入力するか、または10MHz/1MHzにするかを選択できます。

100 → 100MHz桁から置数

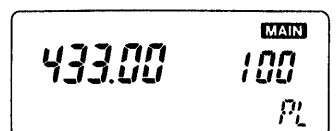
10 → 10MHz桁から置数

1 → 1MHz桁から置数

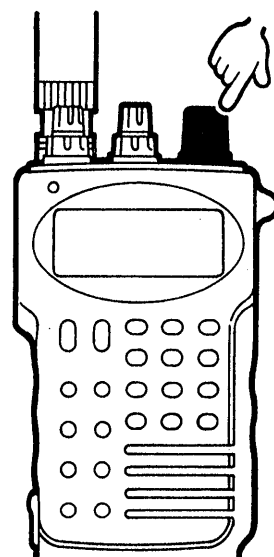
この機能は、受信バンド側のみ有効で、ハムバンド側は1MHz桁からの置数入力に固定されています。

① 入力桁“100”“10”または“1”を選ぶ

■ディスプレイ



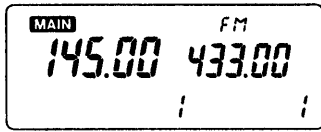
■操作部



DIALを回します。

時計モードの流れ

VFOモード

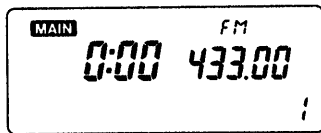


CLOCKキー ↓ ↑ CLRキーまたは PTTスイッチ

時計モード

※時計のディスプレイは、初期設定値の表示です。

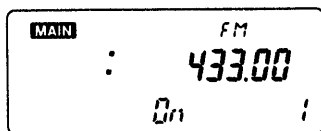
時刻表示



→ 「時計の合わせかた」を参照。
(P57,58)

△キー ↓ ↑ ▽キー

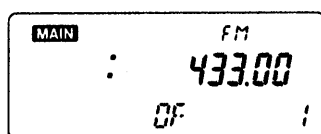
タイマーオン表示



→ 「タイマーオン/オフ機能」を参照。
(P57,60)

△キー ↓ ↑ ▽キー

タイマーオフ表示



→ 「タイマーオン/オフ機能」を参照。
(P57,60)

▽キー

時計モードとは

時刻の表示や、指定時刻による電源の“ON/OFF”をセットするモードです。

時計を合わせたあとで時刻を見たいときは、ハムバンドでも受信バンド側のどちらにでも表示させることができます。ただし、時計を合わせるときやタイマーオフ、またはタイマーオン機能の操作は、受信バンド側では操作できません。

14 時計モードについて

操作のしかた(共通操作)

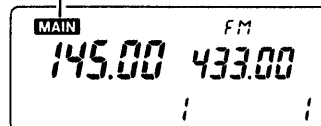
各種機能をセットするとき、機能に関係なく同じ操作をする部分だけを順番に記載しています。

④の操作をするときは、変更したい機能の項目別セット方法を操作したうえで、⑤の操作に進んでください。

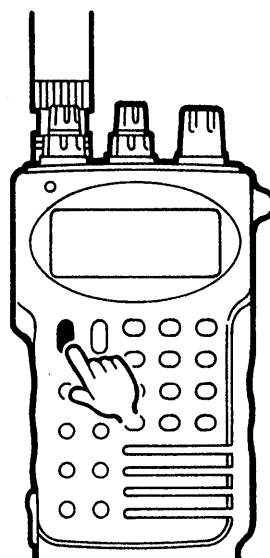
① ハムバンドを選ぶ

■ディスプレイ

ハムバンド側に点灯する



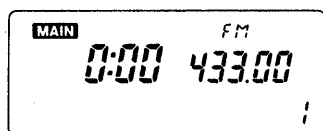
■操作部



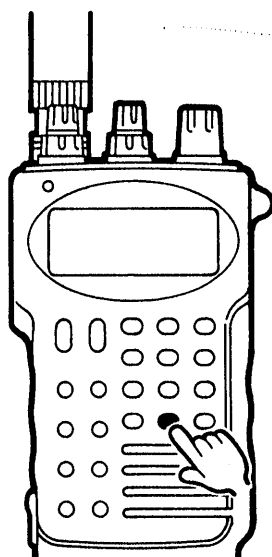
H MAINキーを押します。

② 時計モードにする

■ディスプレイ



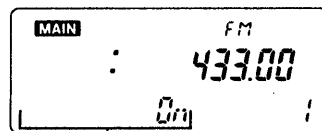
■操作部



CLOCKキーを押します。

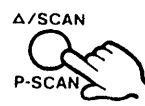
③ 変更したい項目を選ぶ

■ディスプレイ

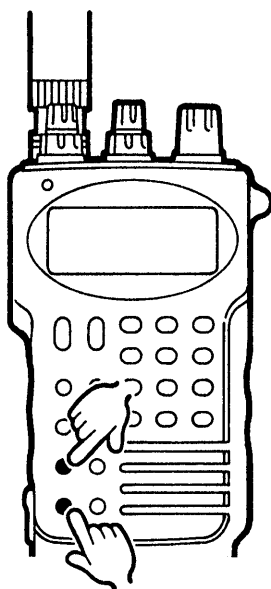
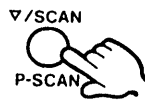


それぞれの項目を表示する

■操作部



または



△または▽キーを押します。

操作のしかた(共通操作)

④ 変更したい項目の運用条件を選ぶ

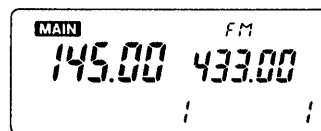
それぞれの「項目別セット方法」を参照してください。

時計の合わせかた ……………(参照 P58)

タイマーオン/オフ機能 ……(参照 P60)

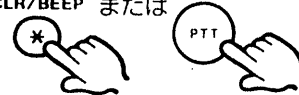
⑤ VFOモードに戻す

■ディスプレイ



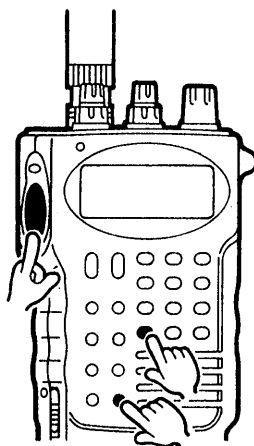
■操作部

CLR/BEEP または



タイマーオン機能を使用する
ときは続けて

POWER



CLRキーまたはPTTスイッチを押します。
タイマーオン機能を使用するときは、POWER
スイッチを約1秒押して、本機の電源を切っ
てください。

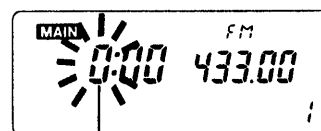
項目別セット方法(時計の合わせかた)

本機をはじめてお使いになるときや、リセ
ット操作(P80)を行なったあとなどは、
次の方法で時計を合わせてください。

この時計が、タイマーオン/オフ機能やオ
ートパワーオフ機能(P62)の基準になり、
時刻は24時間方式で表示されます。なお、
時間の誤差は1週間に約±1分です。

① 時間設定状態にする

■ディスプレイ



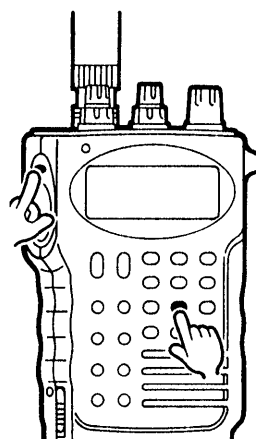
点滅

■操作部



押しながら

SET



Fスイッチを押しながらSETキーを押します。

14 時計モードについて

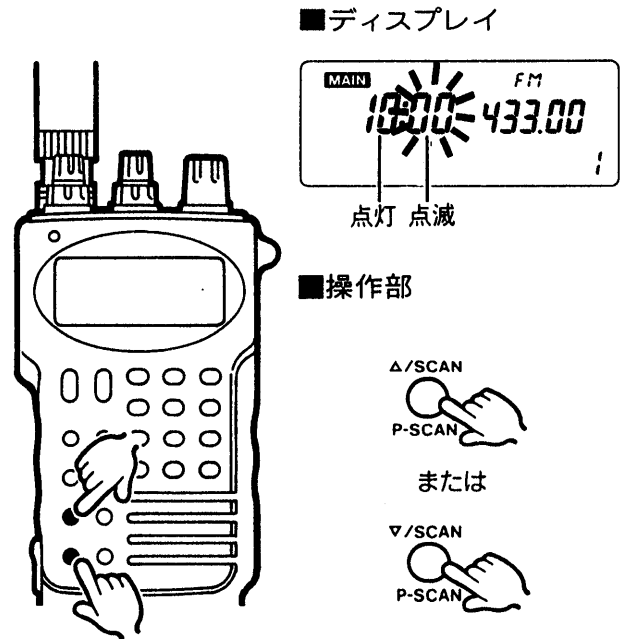
項目別セット方法(時計の合わせかた)

② 時間単位をセットする



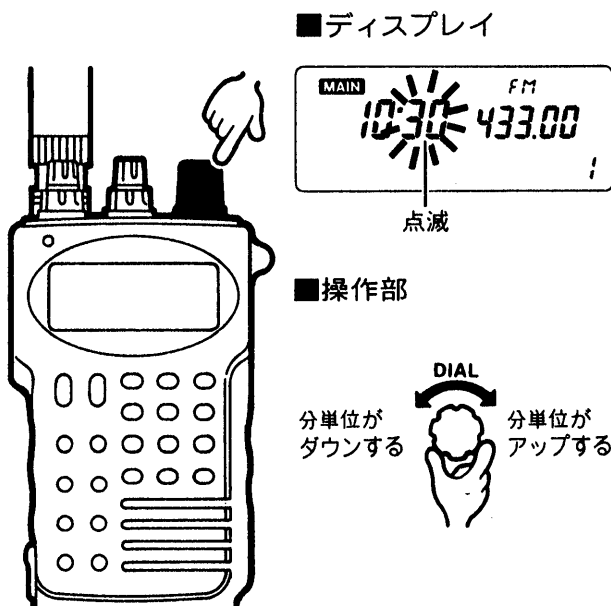
DIALを回します。

③ セット単位を「分」にする



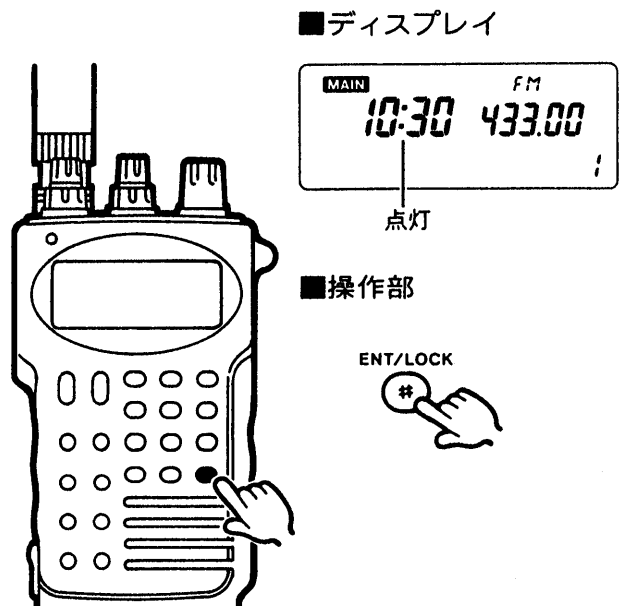
△または▽キーを押します。

④ 分単位をセットする



DIALを回します。

⑤ 時間設定を終了する



ENTキーを押します。
時報サービス電話117番の時報に合わせてENT
キーを押すと正確に合います。

項目別セット方法(タイマーオン/オフ機能)

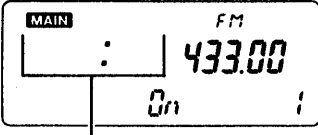
あらかじめ設定しておいた指定時刻になると、自動的に本機の電源を“ON”にするのがタイマーオン機能、“OFF”にするのがタイマーオフ機能です。

操作方法は両機能とも同じですが、次の点にご注意ください。なお、電源が“ON”または“OFF”になる直前にピープ音(※P71)が鳴ります。

- ①電池の容量が低下した場合、タイマーオン機能は動作しません。
- ②タイマーオン/オフ表示(※P56)の状態と時計を合わせている途中にあると、タイマーオフ機能は動作しません。
- ③タイマーオン/オフ機能が一度作動すると、設定した指定時刻は解除されます。
- ④タイマーオフ機能を設定したときは、ディスプレイに“⌚”表示が点灯します。


① 指定時刻が表示されていないとき

■ディスプレイ



指定時刻が表示されていない

■操作部

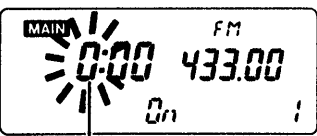


押しながら
SKIP/MASK

Fスイッチを押しながらMASKキーを押すと、前回設定した指定時刻が表示されます。

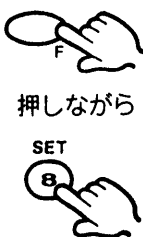
② 指定時刻設定状態にする

■ディスプレイ



点滅

■操作部



押しながら
SET

Fスイッチを押しながらSETキーを押します。

③ 時間単位をセットする

■ディスプレイ



点滅

■操作部



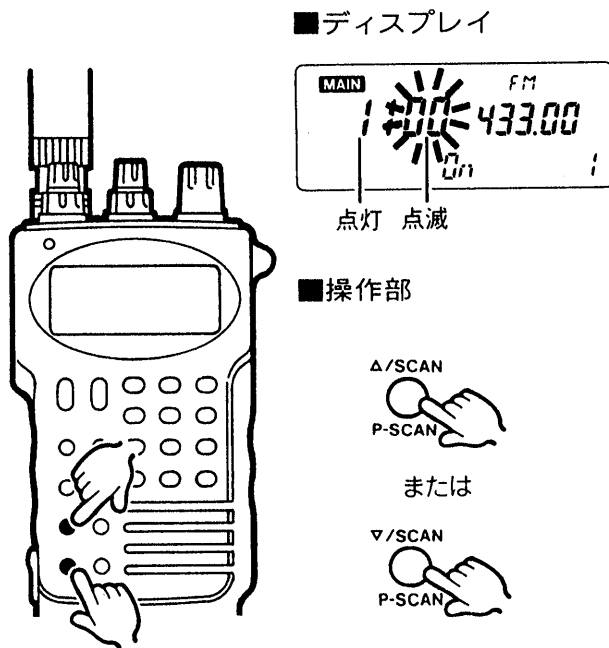
時間単位が
ダウンする

時間単位が
アップする

DIALを回します。

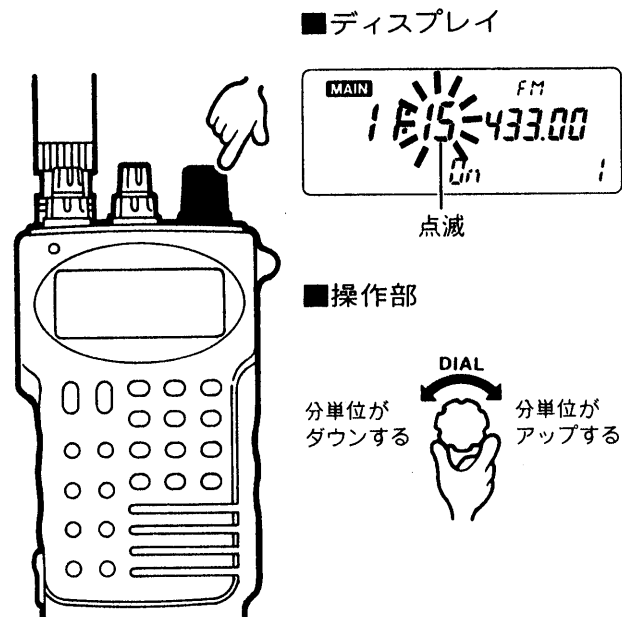
項目別セット方法(タイマーオン/オフ機能)

④ セット単位を「分」にする



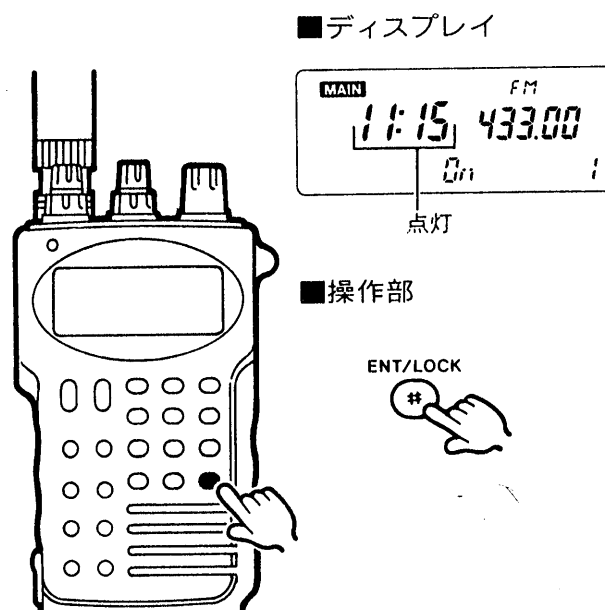
△または▽キーを押します。

⑤ 分単位をセットする



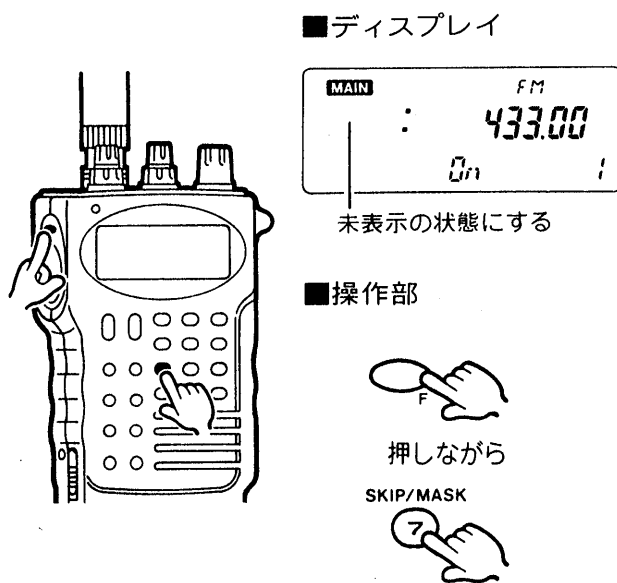
DIALを回します。

⑥ 指定時刻設定状態を終了する



ENTキーを押します。

⑦ タイマーオン/オフ機能が動作する前に解除したいとき



タイマーオン/オフ機能の指定時刻を呼び出し、Fスイッチを押しながらMASKキーを押して、指定時刻を未表示の状態にしてください。

オートパワーオフ機能とは

タイマーオフ機能とは別に、指定時間が経過すると、自動的に電源を“OFF”にする機能です。

タイマーオフ機能が指定時刻で電源を“OFF”にするのに対し、オートパワーオフ機能は指定時間の経過で電源を“OFF”にします。

OFF：オートパワーオフ機能を無効にする。

30：30分後に電源が切れる。

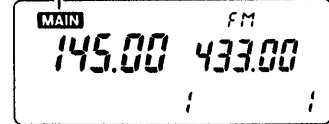
60：60分後に電源が切れる。

オートパワーオフ機能設定後、キー操作をすると時間の経過はクリアーされ、キー操作後、再度タイマーがスタートします。なお、電源が“OFF”になる直前にピープ音（※P71）が鳴ります。

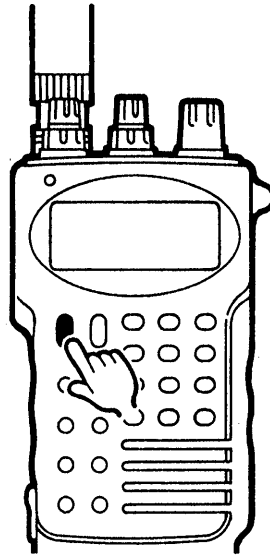
操作のしかた

① ハムバンドを選ぶ

■ディスプレイ
ハムバンド側に点灯する



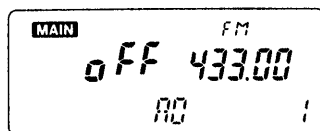
■操作部



H MAINキーを押します。

② 指定時間設定状態にする

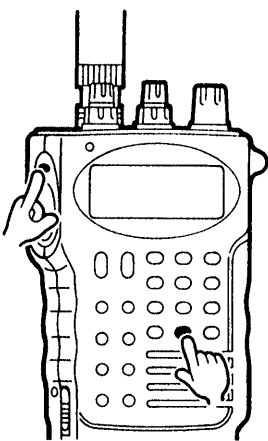
■ディスプレイ



■操作部



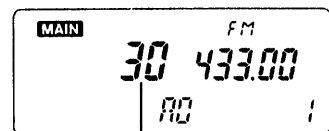
押しながら
CLOCK/AO



Fスイッチを押しながら(②～③の操作までFスイッチは押し続ける)AOキーを押します。

③ “OFF”“30”または“60”を選び、指定時間設定状態を終了する

■ディスプレイ

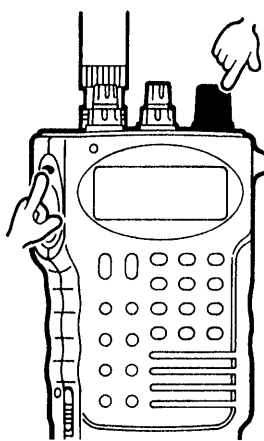
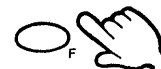


時間を選ぶ

■操作部



回して



DIALを回し、Fスイッチから指を離します。オートパワーオフ機能を解除したいときは“OFF”を選択してください。

16 ページャーとコードスケルチ機能

| ページャーおよびコードスケルチ機能とは | コードメモリーについて |
|---|--|
| <p>交信する相手局とあらかじめ個別コードやグループコードを決めておき、コードの一致した特定の相手局やグループを一斉に呼び出したり、待ち受け受信するのに便利な機能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ページャー機能は、受信バンド側では動作しません。 ● 受信バンド側ではコードスケルチの待ち受けができます。 | <p>あらかじめ決めておいた個別コードやグループコードを、書き込んでおくチャンネルをコードメモリーといいます。</p> <p>コードメモリーの内訳は、次表のようになっています。</p> |

| メモリーナンバー | 用 途 | 待ち受け動作 | コードの書き替え |
|----------|-------------------------|---------------------------------------|----------|
| C0 | 自局の個別コード | 常 時 可 能 | 可 能 |
| C1 | 相手局の個別コード またはグループコード | 待ち受け「拒否」と 待ち受け「応答」を 選択(☞P66)できる | |
| C2 | | | |
| C3 | | | |
| C4 | | | |
| C5 | | | |
| CP | 受信した相手局のコード | 動 作 し ない | 不 可 |

①メモリーナンバー[C0]

自局の個別コードを書き込むメモリーです。

このコードは、ページャーおよびコードスケルチ機能のどちらにも使用され、相手局の個別コードまたはグループコードの次に送出されます。

②メモリーナンバー[C1~5]

相手局の個別コードまたはグループコードを書き込むメモリーです。

このコードは、ページャーおよびコードスケルチ機能のどちらにも使用され、待ち受け動作を「拒否」または「応答」に設定(☞P66)できます。

拒否しているときに、書き込まれたコードと同じコードを受信しても、応答しません。

③メモリーナンバー[CP]

ページャー機能で呼び出しを受けたとき、相手局の個別コードが自動的に書き込まれるメモリーです。

コードの書き込みかた

3桁の数字を組み合わせて、コードを書き込んでください。

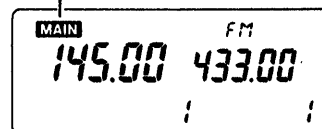
コードメモリーは、各バンドに異なるコードを書き込めます。

※受信バンド側は、コードメモリーのCPIはありません。

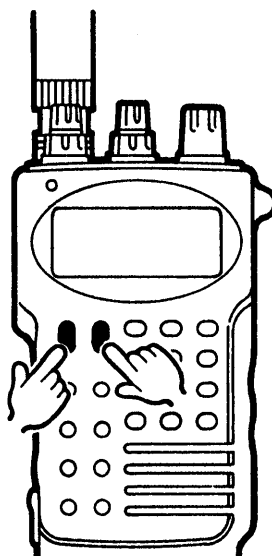
① 書き込みたいバンドを選ぶ

■ディスプレイ

選んだバンド側に点灯する



■操作部



H MAIN



H ON

または

R MAIN

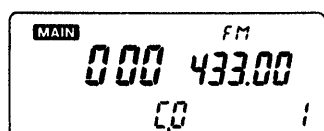


R ON

H MAINまたはR MAINキーを押します。

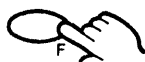
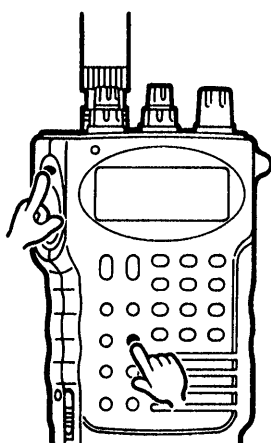
② コードメモリーを呼び出す

■ディスプレイ



メモリーナンバーを表示する

■操作部



押しながら

PGR/CSQL

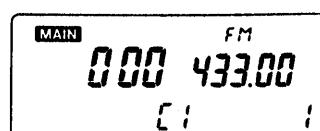


CODE

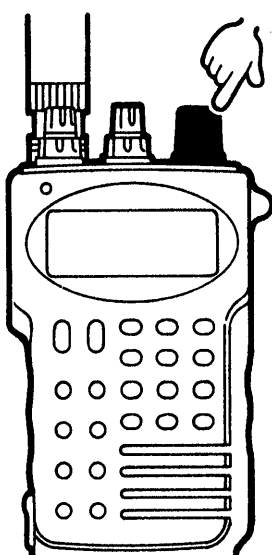
Fスイッチを押しながらCODEキーを押します。

③ 書き込みたいメモリーナンバーを選ぶ

■ディスプレイ



■操作部



DIAL

ナンバーが
ダウンする

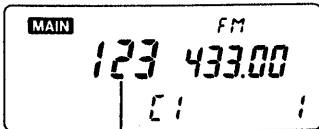
ナンバーが
アップする

DIALを回します。(前ページの内訳表を参照)

コードの書き込みかた

④ コードを入力する

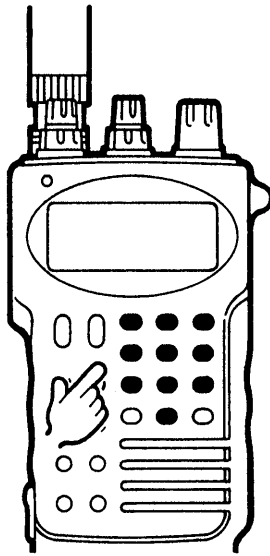
■ディスプレイ



“1”“2”“3”と押したとき

■操作部

| | | |
|-----------|---------|--------|
| V/M MW | MODE | LIGHT |
| ① | ② | ③ |
| CALL/M-V | TS/DSEL | PL |
| ④ | ⑤ | ⑥ |
| SKIP/MASK | SET | HI/LOW |
| ⑦ | ⑧ | ⑨ |
| CLOCK/AO | | |
| ⑩ | | |



1~0キーを押して、3桁のコードを入力します。

⑤ 入力の途中でキーを押しまちがえたとき

■ディスプレイ



入力前の表示に戻る

■操作部




CLR/BEEP

CLRキーを押して、もう一度④の操作を繰り返してください。

⑥ 続けて他のコードメモリーにも書き込むとき

■ディスプレイ

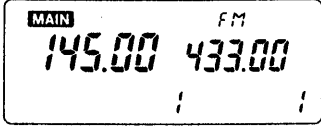


他のコードメモリーにする

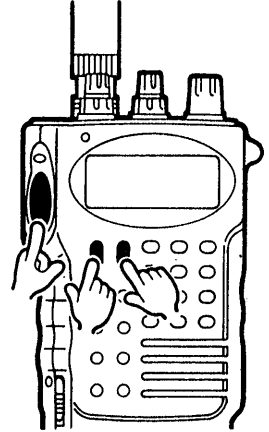
④に続けて③と④の操作を繰り返します。

⑦ コードメモリーへの書き込みを終了する

■ディスプレイ




■操作部



H MAIN

H ON



R MAIN

R ON

または



PTT

H MAINまたはR MAINキーを押すか、PTTスイッチを押します。

待ち受け動作の選択

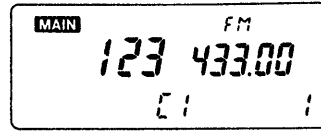
コードメモリの「C1～C5」に書き込んだ相手局の個別コードまたはグループコードと同じコードで受信しても、待ち受け動作を「拒否」または「応答」に設定できます。

拒否: **SKIP** 表示が点灯する。

応答: **SKIP** 表示が消灯する。

① 待ち受け動作を選択するコードメモリーを呼び出す

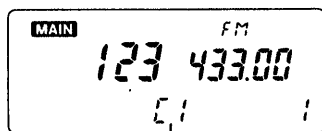
■ディスプレイ



「コードの書き込みかた」(※P64)①～③の操作をします。

② 待ち受け動作を選ぶ

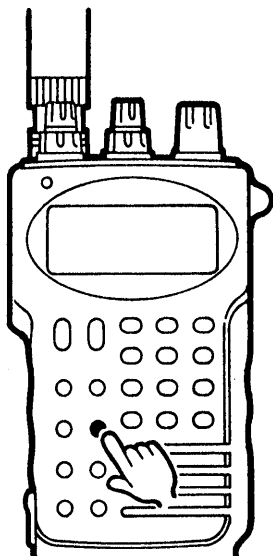
■ディスプレイ



点灯

■操作部

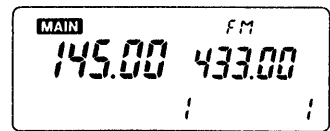
PGR/CSQL



PGRキーを押します。

③ 待ち受け動作の選択を終了する

■ディスプレイ



■操作部

H MAIN



R MAIN



または

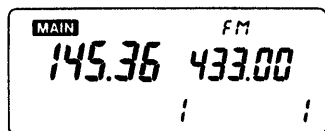


H MAINまたはR MAINキーを押すか、PTTスイッチを押します。

ページャーまたはコードスケルチ機能による送信(ハムバンド側)

① 運用周波数を設定する

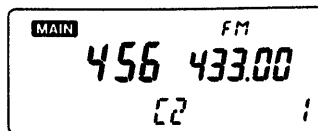
■ディスプレイ



あらかじめ交信相手と運用周波数を決めてセットします。

② 相手局の個別コードまたはグループコードを呼び出す

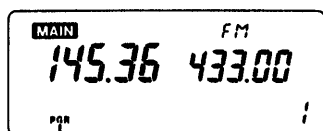
■ディスプレイ



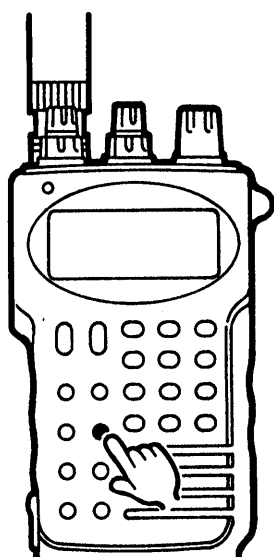
「コードの書き込みかた」(P64)②、③、⑦の操作をします。

③ ページャーまたはコードスケルチ機能を“ON”にする

■ディスプレイ



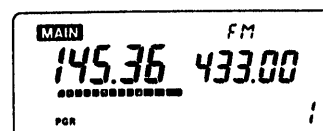
■操作部



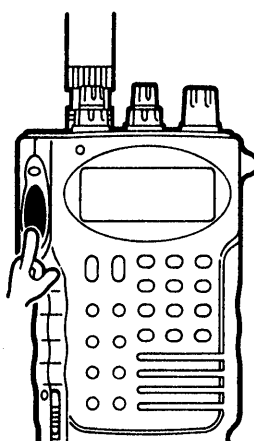
PGRキーを押すと、“PGR”(ページャー)、または“C SQL”(コードスケルチ)の表示が点灯します。(受信バンド側は“PGR”の表示なし)

④ コードを送信する

■ディスプレイ



■操作部



PTTスイッチを1回押すと、相手局と自局(ページャーのみ)のコードを表わすDTMF信号が送出されます。

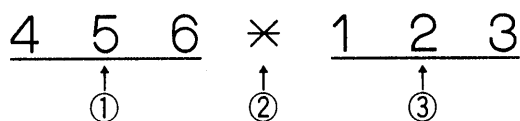
ページャーまたはコードスケルチ機能による送信(ハムバンド側)

⑤ ページャーまたはコードスケルチ機能を解除する



相手局からの応答を確認してPGRキーを押し、通常の交信をします。

DTMF信号の構成

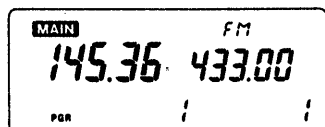


- ① 相手局の個別コードまたはグループコード
(コードメモリーの“C1~C5”)
- ② *キーのコード“E”
(ページャー機能運用時のみ、自動的に送出される)
- ③ 自局の個別コード
(コードメモリーの“C0”、ページャー機能運用時のみ送出される)

ページャー機能による待ち受け受信(ハムバンド側)

① 待ち受け受信をする

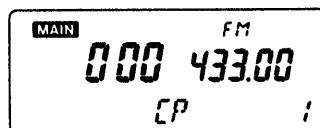
■ディスプレイ



「ページャーまたはコードスケルチ機能による送信」(P67)①~③の操作をします。

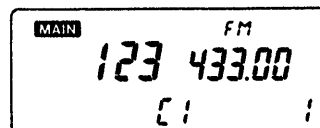
② 相手局から呼び出しを受ける

- 自局の個別コードで呼び出されたとき



受信した相手局の個別コードと“CP”を表示します。

- グループコードで呼び出されたとき



呼び出されたグループコードと、そのコードを書き込んでいるコードメモリー“C1~C5”を表示します。

呼び出し音(ピロピロピロ)が3回鳴ります。

ページャー機能による待ち受け受信(ハムバンド側)

③ 相手局の個別コードが完全に受信できなかつたとき

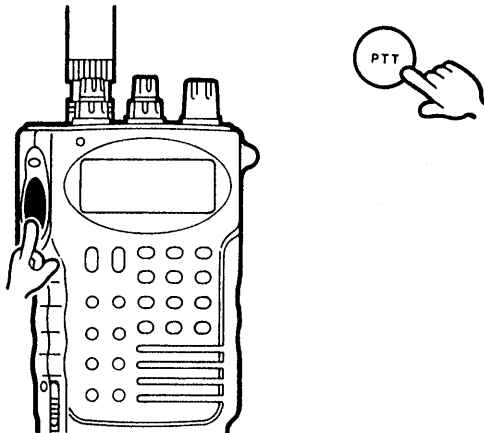
■ディスプレイ



コードナンバーの1桁目がエラー表示“E”になり、前回のコードが表示されます。

④ 応答する

■操作部

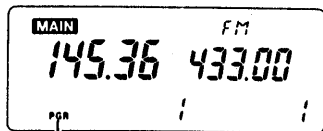


PTTスイッチを押すと、自局の個別コードを送出し、元の周波数表示に戻ります。

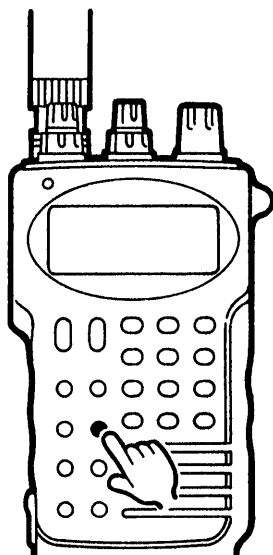
ページャー機能による待ち受け受信

⑤ ページャー機能を解除する

■ディスプレイ



■操作部



相手局との接続を確認してPGRキーを押し、通常の交信をします。

コードスケルチ機能による待ち受け受信

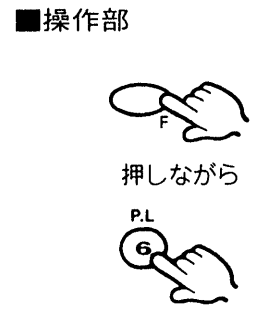
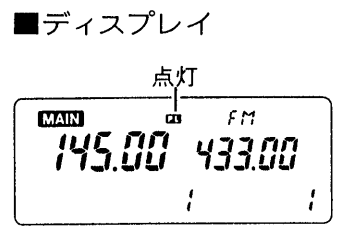
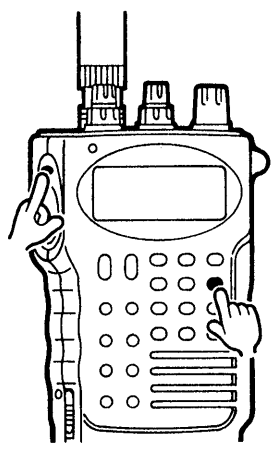
相手局とコードが一致すれば、コードスケルチが開き、コードスケルチ機能による交信が可能になります。

PTTロック機能

PTTロックとは、他局の交信を受信しているときや受信しながら移動するときに、まちがって送信しないようにする機能です。この機能を使用すると、PTTスイッチを押しても、送信状態になりません。

※PTTロック中、PTTスイッチで解除する機能(SET/時計モード、チューニングステップ、DTMFメモリー、コードの書き込み、待ち受け動作の選択)を使用したときは、他のキーで解除してください。

① PTTロック機能を“ON”にする



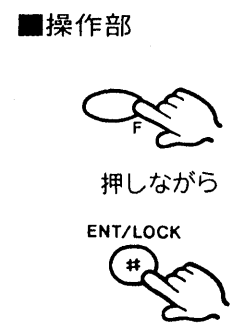
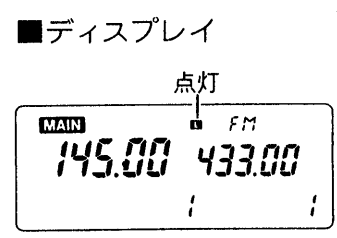
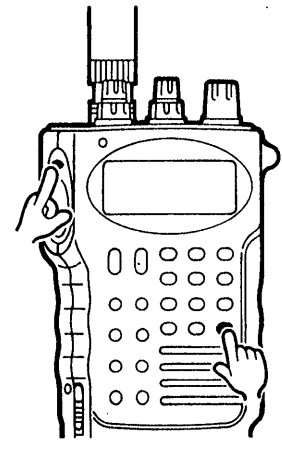
Fスイッチを押しながらP.Lキーを押します。“OFF”にするときも同じです。

周波数ロック機能

周波数ロック機能とは、長時間同じ周波数で運用するときや送信しているときに、まちがって周波数や機能が変わらないようにする機能です。

この機能を使用すると、PTTスイッチおよびMONI、DTMF、LIGHT、HI/LOWキー、Fスイッチを押しながら操作するP.L、LOCKキー以外の操作は使用できなくなります。

① 周波数ロック機能を“ON”にする



Fスイッチを押しながらLOCKキーを押します。“OFF”にするときも同じです。

ビープ音について

■ビープ音の種類とその内容

- ①ピッ音.....電源が入ったとき。
キーが正しく操作されたとき。
- ②ブー音.....キーが正しく操作されなかったとき。
無効のキーを押したとき。
- ③ピー音.....ダイレクトチューニングで周波数を設定し終わったとき。
時間を設定し終わったとき。
- ④ピピッ音.....時計モードにしたとき。
- ⑤ピッピッ音.....メモリーへの書き込みを完了したとき。
メモリーチャンネルまたはコールチャンネルの内容をVFO
に移し(M▶V)終わったとき。
- ⑥ピーピーピーピーピー音.....タイマーオン機能、タイマーオフ機能、オートパワーオフ
機能が動作したとき。
- ⑦ピロピロ音.....ポケットビープ機能で呼び出されたとき。
ページャー機能で呼び出されたとき。

※ビープ音を“OFF”にしても、⑥～⑦のビープ音は鳴ります。

ビープ音の操作

① ビープ音を“OFF”にする

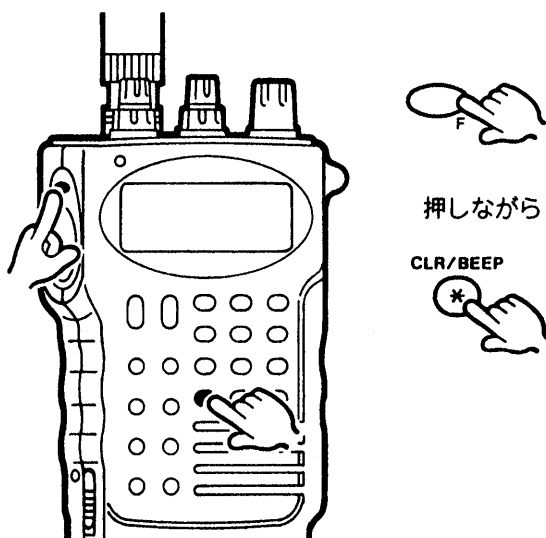
■操作部



Fスイッチを押しながらBEEPキーを押します。

② ビープ音を“ON”にする

■操作部

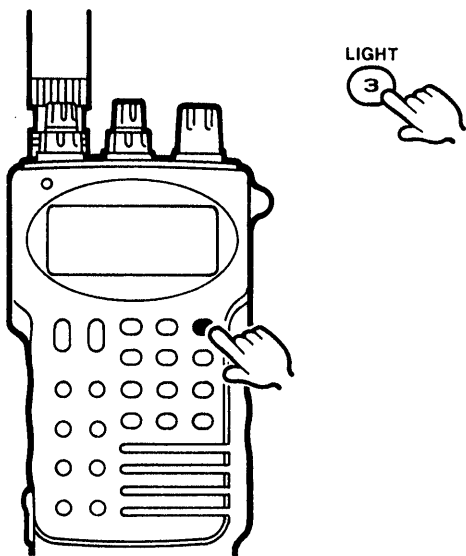


もう一度、Fスイッチを押しながらBEEPキーを押します。

照明の切り替えかた

① 照明を“ON/OFF”する

■操作部



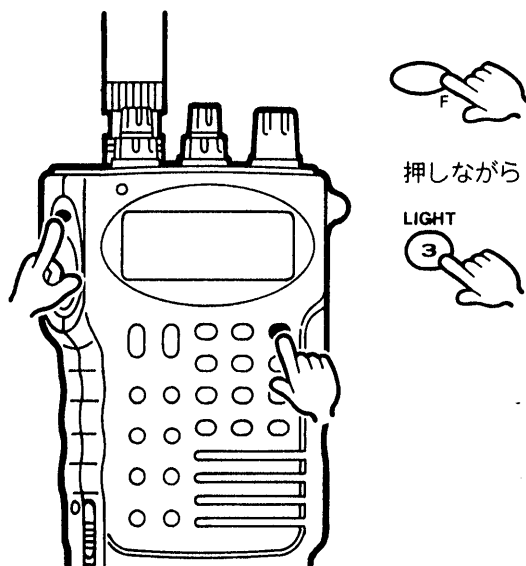
LIGHTキーを押すごとに、照明が“ON/OFF”します。(OFFにしなくても約5秒後に消灯)

- 照明を“ON”にして、もう一度LIGHTキーを押さないかぎり、照明は約5秒後に自動消灯します。
- 照明を“ON”にしてからキー操作(LIGHTとMONIキー以外)をしている間は、自動消灯遅延機能が動作し、キー操作が終るまで消灯しません。

連続点灯機能

① 照明を“ON”にする

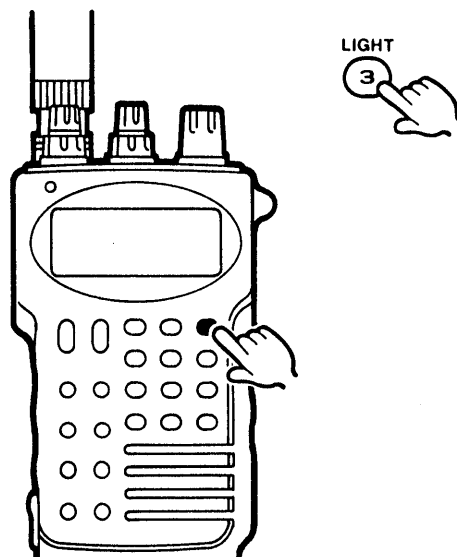
■操作部



Fスイッチを押しながらLIGHTキーを押します。

② 照明を“OFF”にする

■操作部



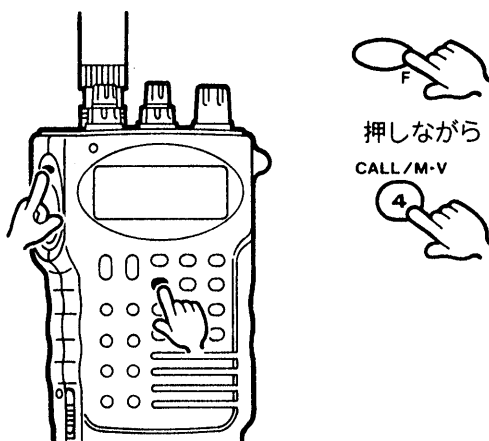
LIGHTキーを押します。
(OFF操作をしないと消灯しない)

M▶VFO転送機能

呼び出しているメモリーチャンネルまたはコールチャンネルに書き込まれている内容を、そのままVFOモードで運用したいときに便利な機能です。

① メモリーモードまたはコールチャンネルで転送する

■操作部



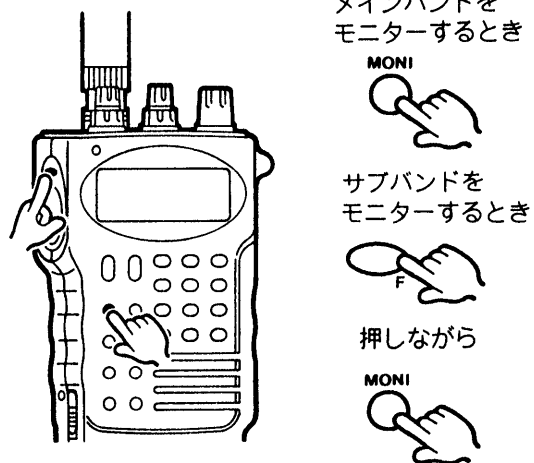
ビープ音が“ピッピ”と鳴るまで、Fスイッチを押しながらM▶VFOキーを押します。

受信モニター機能

交信している間に相手局の電波が急に弱くなったときに、スケルチを強制的に開く機能です。

① 受信モニターする

■操作部



メインバンドをモニターするときはMONIキーを押し、サブバンドをモニターするときはFスイッチを押しながらMONIキーを押します。

トーンスケルチユニットについて

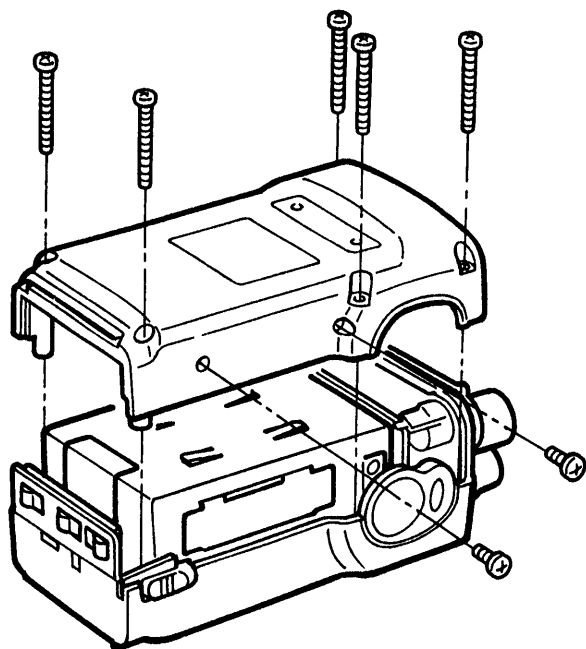
オプションのトーンスケルチユニットUT-63を装着すると、特定相手局との交信に便利なトーンスケルチおよびポケットビープ機能が動作します。

また、UT-63の装着により、トーン周波数を38波に増設できます。

ユニットの取り付けかた

ユニットを取り付ける前に、電源を切り、バッテリーケースまたは外部電源、アンテナなどを外してから取りかかってください。

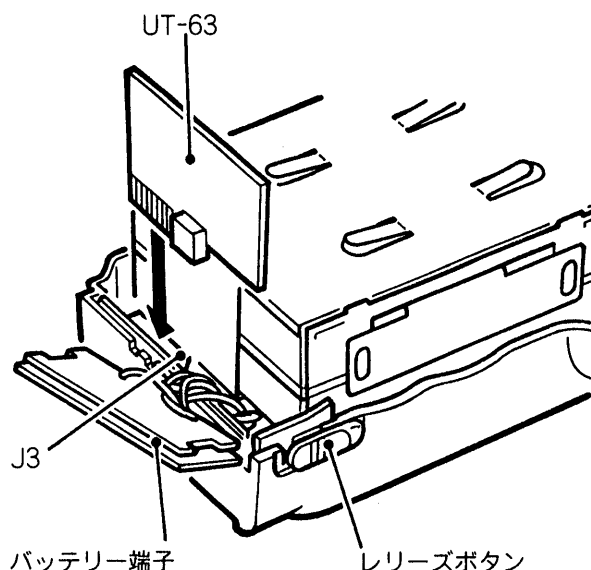
① 図の位置にある7本のビスと後面部のケースを外します。



※使用するドライバーは、ネジ山がつぶれないように、ネジ山によく合ったプラスドライバーを用いてください。

※ケースを外すときに、バッテリーケースを固定するリリースボタンが外れますので、なくさないようにご注意ください。

② UT-63をJ3のコネクターに差し込み、元通りに組み立てます。



※組み立てるときに、リリースボタンやバッテリー端子の勘合にご注意ください。

トーンスケルチ機能の動作

特定局(同じトーン周波数を含んだ信号)の待ち受け受信中に呼び出しを受けると、トーンスケルチが開いて通話内容が聞えますので、快適な待ち受け受信が行なえます。

ポケットビープ機能の動作

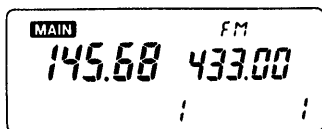
特定局(同じトーン周波数を含んだ信号)の待ち受け受信中に呼び出しを受けると、30秒間ビープ音("ピロピロピロ"の連続音)が鳴り続け、同時に“(101)”を点滅して知らせますので、聞き逃すことはありません。呼び出しを受けたら、30秒以内にPTTスイッチを押して通話するか、P.BまたはCLRキーを押してポケットビープ機能を解除(“(101)”が消灯する)して、トーンスケルチ機能にします。また、30秒経過しても何も操作しなかった場合、ビープ音は自動停止しますが、ディスプレイの“(101)”は点滅状態を続け、呼び出しの受けたことを知らせます。

トーンスケルチおよびポケットビープ機能の操作

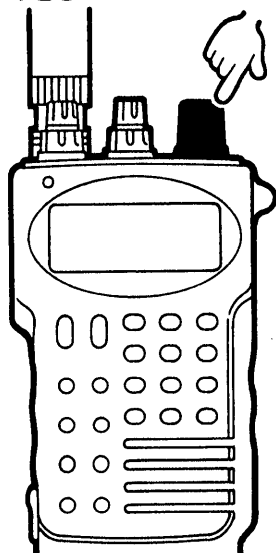
① 運用周波数を設定する

マニュアルチューニング
のとき

■ディスプレイ



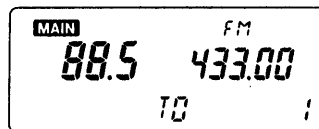
■操作部



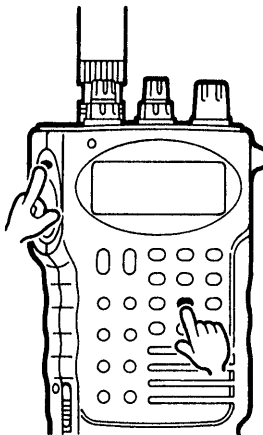
あらかじめ交信相手と運用周波数を決めてセットします。

② SETモードでトーン周波数をセットする

■ディスプレイ



■操作部
(SETモードのしかた)

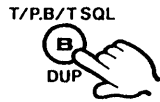
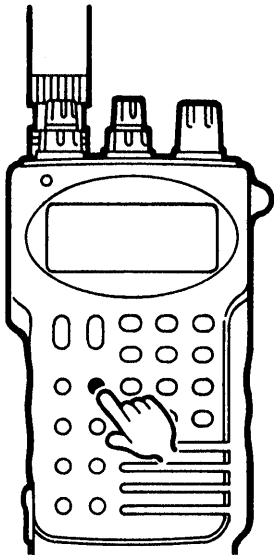


あらかじめ交信相手とトーン周波数を決め、「SETモードについて」(P50,53)にしたがって、トーン周波数をセットします。

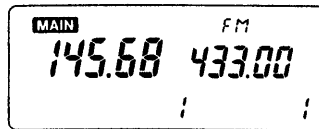
トーンスケルチおよびポケットビープ機能の操作

③ トーンスケルチまたはポケットビープ機能を“ON”にする

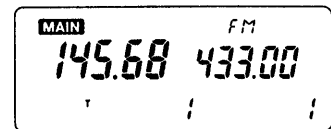
■操作部



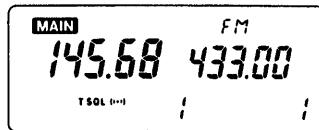
① 全消灯
各機能を“OFF”にする



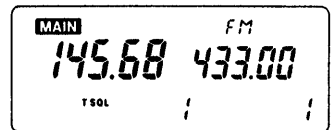
② “T”点灯
トーンエンコーダーを“ON”にする



③ “T SQL (●●)”点灯
ポケットビープ機能を“ON”にする



④ “T SQL”点灯
トーンスケルチ機能を“ON”にする



T/P.B/T SQLキーを押すと、上記①～④のように表示が変化します。

ページャーまたはコードスケルチ機能との併用

ページャーまたはコードスケルチ機能(☞P63)と、トーンスケルチ機能を同時に設定することもできます。

併用する場合、ページャーまたはコードスケルチ機能のコードと、トーンスケルチ機能のトーン周波数が、交信相手と一致するように設定してください。

電池の入れ替え時期

電池の容量が低下しますと、本機の性能を十分に発揮することができません。

ディスプレイ全体が点滅するときは、受信できるだけの電池容量が残っていないことを表わしています。また、送信したときにディスプレイの表示が消灯するときは、送信できるだけの電池容量は残っていないが、もう少し受信できることを表わしています。上記のような症状が発生したときは、早めに電池を交換または充電してください。なお、電池を交換するときは、すべて新しい電池と交換してください。古い電池を混用すると、使用時間が短くなります。

運用できる時間の目安

ハムバンドで運用する条件で、1分間送信、1分間受信、8分間待ち受け状態を繰り返した場合の消費時間は、表のようになります。表に示した消費時間は、HIGHパワーで送信したときの時間です。

電池寿命を長くするためには、次の点にご留意ください。

- ①送信出力をできるだけLOWパワーにする。
- ②送信時間をできるだけ短くする。
- ③受信音量を小さくする。
- ④使用しないときは、必ず電源を切っておく。
- ⑤連続使用をさける。

| バッテリー の名称 | 電圧 (V) | 消費時間(H) | |
|--------------|-----------|---------|--------|
| | | IC-2SR | IC-3SR |
| BP-81 | 7.2 | 1 | 1 |
| BP-82 | 7.2 | 2.5 | 2.5 |
| BP-83 | 7.2 | 5.4 | 5.4 |
| BP-84 | 7.2 | 9.3 | 9.3 |
| BP-85 | 12 | 2.3 | 1.5 |

本機は高出力タイプですから、なるべく高容量のアルカリ電池またはNiCdバッテリーパック(オプション:BP-81~85)のご使用をおすすめします。

乾電池取り扱い上のご注意

気温が低下するほど、電池容量の減少は著しくなります。

通常、乾電池の使用可能な下限温度は、-10℃とされていますから、寒冷地でご使用になる場合は、電池の部分を暖かくして(十分保温する)ご使用になるか、ニッカド電池のご使用をおすすめします。

ニッカド電池取り扱い上のご注意

オプションのニッカドバッテリーパックを使用できます。

バッテリーパックには、BP-81～85などの種類がありますのでご利用ください。

ニッカド電池の満充電後、または短時間運用後に再充電を繰り返したあとは、みかけ上容量が低下した状態(メモリー効果)となります。このときは、完全に放電したあとで再充電すると、電池容量は復帰します。

外部電源と充電器について

オプションの外部電源と充電器関係は、次のような種類があります。

BC-72: 卓上型急速充電用

バッテリーチャージャー

BC-77: BP-81～84/BP-90用

バッテリーチャージャー

CP-13: ノイズフィルター付きシガレット

ライターケーブル

AD-20: BP-81～84/BP-90用

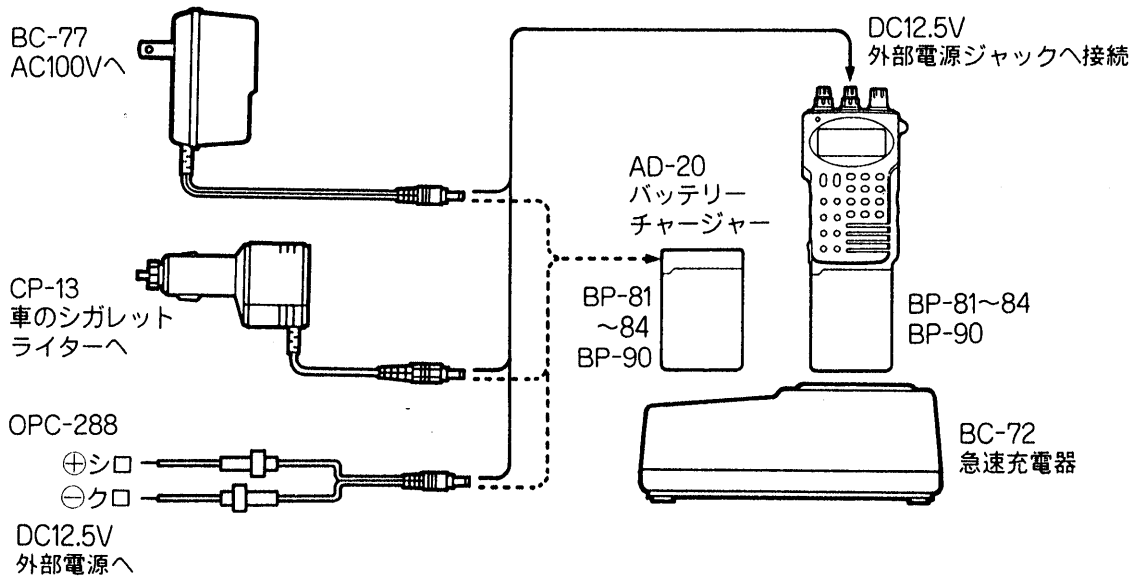
バッテリーチャージャー

アダプター

OPC-288

: 外部電源接続用ケーブル

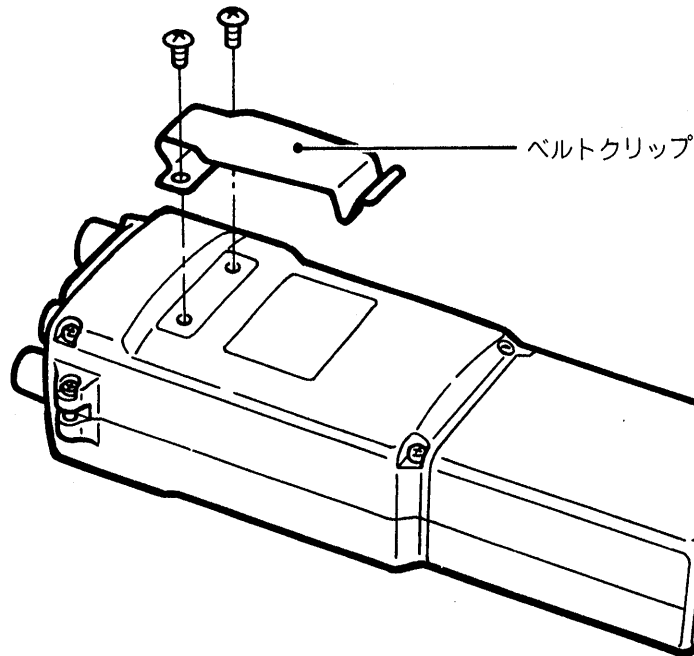
充電器関係接続図



20 付属品の取り扱いについて

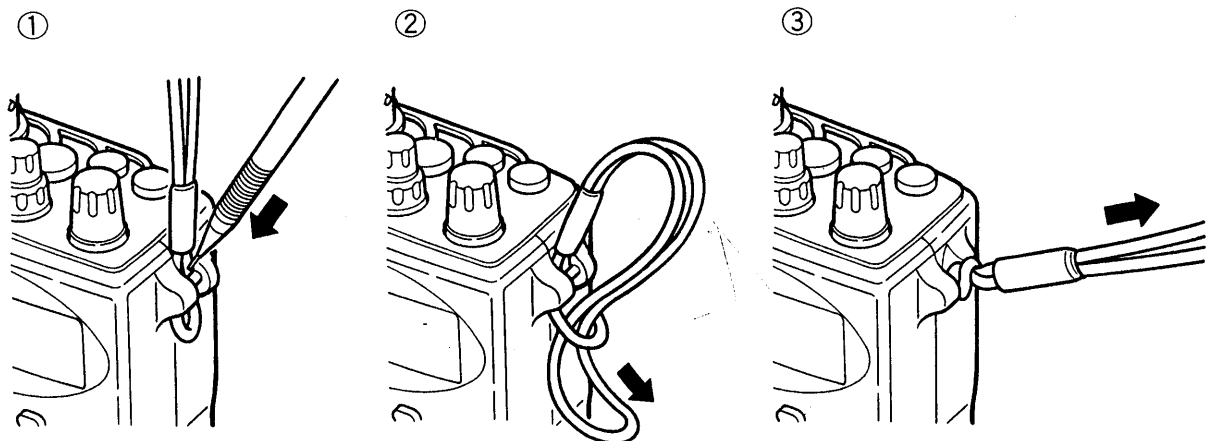
ベルトクリップの取り付けかた

ベルトクリップ取り付け部に付いているホールブッシュ(プラスチックネジ)を外して、ベルトクリップを付属品のネジで取り付けてください。



ハンドストラップの取り付けかた

図のように、先のとがったものでストラップ取り付け部にハンドストラップを通してご使用ください。



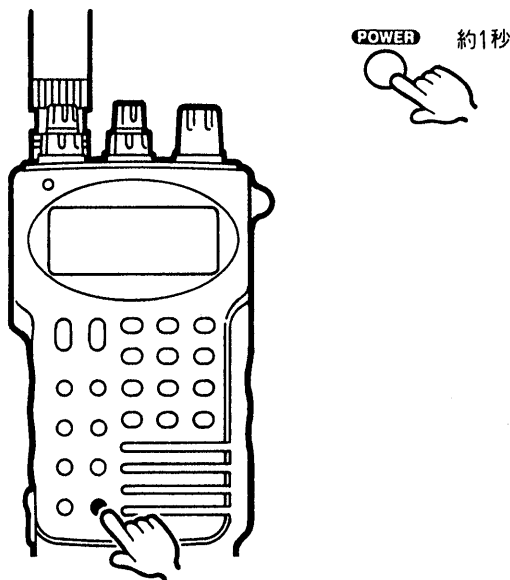
表示がおかしくなったら

本機を運用しているときに、ディスプレイの表示内容がおかしくなった場合は、静電気などの外部要因によるCPUの誤動作が考えられます。

このようなときは、いったん電源を切り、数秒後に電源を入れなおしてください。それでも異常があれば、次のようにリセット操作を行ってください。リセット操作を行うと、メモリーチャンネルの内容やSETモード、時計モードなど、すべて初期設定値に戻りますのでご注意ください。

① 電源をいったん切る

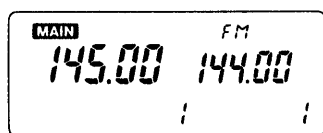
■操作部



POWERキーを約1秒押します。

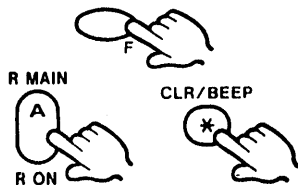
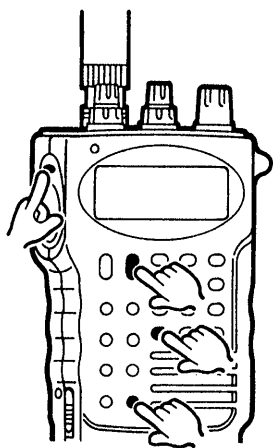
② リセット操作をする

■ディスプレイ



初期設定値(出荷時の状態)に戻る

■操作部



押しながら

POWER 約1秒

Fスイッチ、R MAIN、CLRキーを同時に押しながらPOWERキーを約1秒押します。

③ 運用に必要な諸情報を再セットする

- メモリーチャンネル ……………(参照 P21)
- コールチャンネル ……………(参照 P19)
- SETモード ……………(参照 P50)
- 時計モード ……………(参照 P56)
- DTMFメモリー ……………(参照 P46)
- コードメモリー ……………(参照 P63)

21 保守と運用上のご注意

CPUのバックアップ電池

電源を切ってもメモリーの内容が消えないように、メモリーバックアップ用のリチウム電池を内蔵しています。

本機のリチウム電池は充電式を採用していますので、バッテリーケースの乾電池や外部電源により、常に充電されています。

乾電池の容量が完全になくなった状態で1週間以上放置すると、リチウム電池の容量も消耗し、メモリーの内容も消えてしまいます。このようなときは、乾電池を交換してリセット操作(※P80)を行ってください。

電波を発射する前に

ハムバンドの近くには、多くの業務用無線局の周波数があり、運用されています。

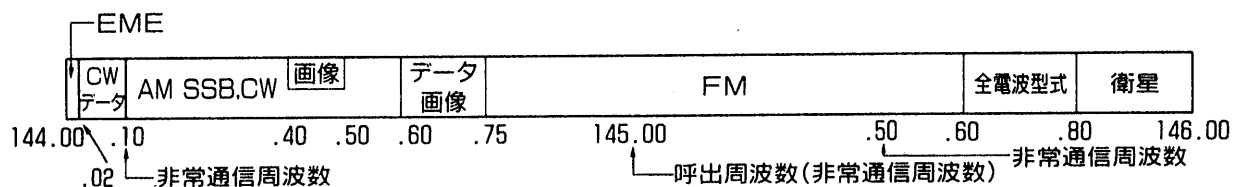
これらの無線局の至近距離で電波を発射すると、アマチュア局が電波法令を満足していても、不測の電波障害が発生することもありますので、十分ご注意ください。

特に次の場所での運用は原則として行わず、必要な場所は管理者の承認を得てください。民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、業務用無線局および中継局周辺など。

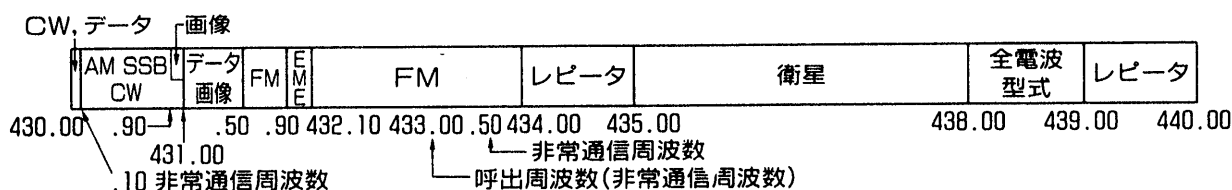
JARL 制定の使用区分

JARL(日本アマチュア無線連盟)制定のバンド使用区分にそって運用してください。

144MHz帯



430MHz帯



トラブルシューティング 22

本機の品質には万全を期しています。下表にあげた状態は故障ではありませんので、修理に出す前にもう一度点検をしてください。

下表にしたがって処置しても、トラブルが起きるときや他の状態になるときは、弊社営業所のサービス係まで、その状態を具体的にご連絡ください。

| 状 態 | 原 因 | 処 置 | 参 照 |
|----------------------------------|--|--|---------------------------------------|
| ●電源が入らない | ◎バッテリーケースの接触不良 ◎電池の極性まちがい ◎電池の消耗 | ○バッテリーケースの極性端子が汚れていないか確認する ○極性を確認して、電池を入れなおす ○乾電池を入れ替える | P3 P3 P3, 77 |
| ●スピーカーから音が出ない | ◎VOLツマミが反時計方向になっている ◎SQLツマミが時計方向になっている ◎MIC/SPジャックに外部スピーカーを接続している ◎ページャーまたはコードスケルチ機能がセットされている ◎電池の消耗 | ○VOLツマミを時計方向に回し、聞きやすい音量にする ○SQLツマミを反時計方向に回し、雑音が消える直前にする ○外部スピーカープラグが正常に接続されているか、ケーブルが断線していないかを点検する ○MONIキーを押して受信モニターするか、PGRキーを押してページャーまたはコードスケルチ機能を解除する ○乾電池を入れ替える | P10 P10 P4 P73, 69 P3, 77 |
| ●感度が悪く、強い局しか聞こえない (外部アンテナ使用時) | ◎同軸ケーブルの断線またはショート | ○同軸ケーブルを点検し、正常にする | |
| ●電波が出ないか、電波が弱い | ◎LOWパワーになっている ◎PTTロック状態になっている ◎電池の消耗 | ○HI/LOWキーを押して、HIGHパワーにする ○Fスイッチを押しながらP.Lキーを押して、PTTロック機能を解除する ○乾電池を入れ替える | P16 P70 P3, 77 |
| ●送信しても応答がない 〔IC-3SRのみ〕 | ◎レピータ運用になっていて、送受信の周波数が違っている | ○レピータ運用を解除して、送受信の周波数を同じにする | P25 |
| ●レピータ運用ができない 〔IC-3SRのみ〕 | ◎トーン周波数(UT-63装着時のみ)が違っている ◎レピータ運用になっていない ◎オフセット周波数が違っている | ○トーン周波数を“88.5Hz”にする ○Fスイッチを押しながらDUPキーを押して“-DUP T”を点灯する ○SETモードにしてオフセット周波数を“5.00MHz”にする | P49, 53 P25 P49, 53 |
| ●DIALを回しても周波数が変化しない | ◎周波数ロック状態になっている ◎メモリーモードになっている ◎コールチャンネルになっている ◎SETまたは時計モードになっている | ○Fスイッチを押しながらLOCKキーを押して、ロック状態を解除する ○V/Mキーを押して、VFOモードにする ○CALLキーを押して、VFOモードにする ○CLRキーを押して、VFOモードにする | P70 P10 P19 P50, 56 |
| ●周波数表示が異常な表示になる | ◎CPUが誤動作している | ○CPUリセットを行う | P80 |
| ●メモリーチャンネルの内容が変わっている | ◎CPUリセットを行った ◎バッテリーを長期間外していたため、リチウム電池の容量が消耗している | ○CPUリセットしたあとは、メモリーをなおす ○バッテリーを付け、約1時間動作状態にすると、充電される(充電後、メモリーをなおしてください) | P21 P81 |
| ●スキャンが動作しない | ◎スケルチが開いている ◎プログラムスキャン時、エッジ周波数のPAとPBに同じ周波数がメモリーされている ◎メモリースキップスキャン時、すべてのメモリーチャンネルがスキップチャンネルに登録されている ◎1チャンネルしかメモリーされていない | ○SQLツマミを雑音の消える位置にセットする ○PAとPBにそれぞれ違う周波数をメモリーする ○スキップチャンネルの登録を取り消す ○2チャンネル以上メモリーする | P28 P30, 21 P39 P30 |
| ●受信バンド側で、うまく受信ができない | ◎MODEの設定がまちがっている ◎TSの設定がまちがっている | ○MODEを設定しなおす ○TSを設定しなおす | P13, 87 P11, 87 |

23 免許の申請について

IC-2SR/IC-3SRは送信出力が10W以下ですから、アマチュア無線技士の資格をお持ちになっていれば、どなたでも申請できます。

空中線電力10W以下のアマチュア局の免許または変更(送信機の取り替え、増設)の申請をする場合、JARL(日本アマチュア無線連盟)の保証認定を受けると電気通信管理局で行う落成検査(または変更検査)が省略され、簡単に免許されます。

免許申請書類のうち「無線局事項書及び工事設計書」と「アマチュア局免許申請の保証願」は下記の要領で記入してください。免許申請に必要な申請書類はJARL事務局、アマチュア無線機器販売店、有名書店などで販売しています。その他、アマチュア無線について不明な点は、JARL事務局にお問い合わせください。

A 無線局事項書

21 希望する周波数の範囲、空中線電力、電波の型式

| 周波数帯 | 空中線電力 (W) | 電波の型式 |
|------|-----------|-------|
| ① | ② | ③ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

B 工事設計書

| 22工事設計 | | 第1送信機 | |
|-------------------|-------|------------|-----|
| 発射可能な電波の型式、周波数の範囲 | ④ | | |
| | 変調の方式 | | |
| 終段管 | 名称個数 | ⑥ | × |
| | 電圧・入力 | ⑦ | V W |
| 送信空中線の型式 | | | |
| その他工事設計 | | 電波法第3章に規定す | |

C アマチュア局免許申請の保証願

| 11 無線設備等 | | 12 保証認定料 | |
|---|-----------------|-----------------------|--------------|
| | 登録機種の登録番号もしくは名称 | 3,000円 | |
| 送信機 | 第1送信機 | ⑧ | 標準交付手数料 300円 |
| | 第2送信機 | | 標準交付手数料 円 |
| | 第3送信機 | | 標準交付手数料 円 |
| | 第4送信機 | | 標準交付手数料 円 |
| | 第5送信機 | | 標準交付手数料 円 |
| | 第6送信機 | | 標準交付手数料 円 |
| 13 添付図面 <input type="checkbox"/> 送信機系統図 (附属装置の諸元の記載を含む) | | 合計 円 | |
| 14 安全施設及びその他の工事設計 | | 電波法第3章に定められた条件に適合している | |
| 15 送信空中線の型式 | | | |

■○数字のところに下記の表から該当する事項を記入してください。

| | IC-2SR | IC-3SR |
|---|------------|------------|
| ① | 144M | 430M |
| ② | 10 | 10 |
| ③ | F3 | F3 |
| ④ | F3,144MHz帯 | F3,430MHz帯 |
| ⑤ | リアクタンス変調 | リアクタンス変調 |
| ⑥ | SC-1142×1 | SC-1143×1 |
| ⑦ | 9V 7W | 9V 10W |
| ⑧ | A081S | A082S |

| ■IC-2SR ハムバンド | | |
|------------------|---------------------------|--|
| 一 般 仕 様 | 周 波 数 範 囲 | 144.00MHz~146.00MHz |
| | 電 波 型 式 | FM(F3) |
| | ア ン テ ナ イ ン ピ ー ダ ン ス | 50Ω 不平衡 |
| | 使 用 温 度 範 囲 | -10°C~+60°C |
| | 周 波 数 安 定 度 | ±5ppm(0°C~+50°C) |
| | 電 源 電 圧 | DC9V(標準)、DC6V~16V(接続可) |
| | 接 地 方 式 | マイナス接地 |
| | 消 費 電 流 | 送信時(13.5V時) 最大出力時……………1.3A TYP. 最小出力時……………0.5A TYP. 受信時(12.5V時) 最大出力時……………150mA TYP. パワーセーブ時………20mA TYP. ハムバンド、受信バンド同時受信時(12.5V時) 最大出力時……………250mA TYP. パワーセーブ時………40mA TYP. |
| | 外 形 寸 法(突起物を除く) | 54(W)×154(H)×36(D)mm |
| | 重 量(BP-90、乾電池、アンテナを含む) | 約450g |
| 受 信 部 | 受 信 感 度 | 12dB SINAD -16dBμ(0.16μV)以下 |
| | 受 信 方 式 | ダブルスーパーヘテロダイン |
| | 中 間 周 波 数 | 第一：30.850MHz 第二：455kHz |
| | 選 択 度 | 15kHz/-6dB以下、30kHz/-60dB以上 |
| | ス プ リ ア ス 妨 害 比 | 60dB以上 |
| | 低 周 波 出 力 | 0.18W以上(DC12.5V 8Ω負荷 10%歪時) |
| | 低 周 波 負 荷 イ ン ピ ー ダ ン ス | 8Ω |
| 送 信 部 | 送 信 出 力(DC13.5V時) | HIGH ……………5.0W以上 LOW1……………0.5W TYP. LOW2……………1.5W TYP. LOW3……………3.5W TYP. |
| | 変 調 方 式 | リアクタンス変調 |
| | 最 大 周 波 数 偏 移 | ±5.0kHz |
| | ス プ リ ア ス 発 射 強 度 | -60dB以下 |
| | マ イ ク ロ ホ ン イ ン ピ ー ダ ン ス | 2kΩ |

※測定値は、JAIA(日本アマチュア無線機器工業会)で定めた測定法によります。

※定格、外観、仕様などは、改良のため予告なしに変更することがあります。

24 定 格

| ■IC-3SR ハムバンド | | |
|------------------|---------------------------|--|
| 一 般 仕 様 | 周 波 数 範 囲 | 430.00MHz~440.00MHz |
| | 電 波 型 式 | FM(F3) |
| | ア ン テ ナ イ ン ピ ー ダ ン ス | 50Ω 不平衡 |
| | 使 用 温 度 範 囲 | -10°C~+60°C |
| | 周 波 数 安 定 度 | ±5ppm(0°C~+50°C) |
| | 電 源 電 圧 | DC9V(標準)、DC6V~16V(接続可) |
| | 接 地 方 式 | マイナス接地 |
| | 消 費 電 流 | 送信時(13.5V時) 最大出力時……………1.6A TYP. 最小出力時……………0.7A TYP. 受信時(12.5V時) 最大出力時……………150mA TYP. パワーセーブ時………20mA TYP. ハムバンド、受信バンド同時受信時(12.5V時) 最大出力時……………250mA TYP. パワーセーブ時………40mA TYP. |
| | 外 形 寸 法(突起物を除く) | 54(W)×154(H)×36(D)mm |
| | 重 量(BP-90、乾電池、アンテナを含む) | 約450g |
| 受 信 部 | 受 信 感 度 | 12dB SINAD -16dBμ(0.16μV)以下 |
| | 受 信 方 式 | ダブルスーパーヘテロダイン |
| | 中 間 周 波 数 | 第一：35.800MHz 第二：455kHz |
| | 選 択 度 | 15kHz/-6dB以下、30kHz/-60dB以上 |
| | ス プ リ ア ス 妨 害 比 | 60dB以上 |
| | 低 周 波 出 力 | 0.18W以上(DC12.5V 8Ω負荷 10%歪時) |
| | 低 周 波 負 荷 イ ン ピ ー ダ ン ス | 8Ω |
| 送 信 部 | 送 信 出 力(DC13.5V時) | HIGH ……………5.0W以上 LOW1……………0.5W TYP. LOW2……………1.5W TYP. LOW3……………3.5W TYP. |
| | 変 調 方 式 | リアクタンス変調 |
| | 最 大 周 波 数 偏 移 | ±5.0kHz |
| | ス プ リ ア ス 発 射 強 度 | -60dB以下 |
| | マ イ ク ロ ホ ン イ ン ピ ー ダ ン ス | 2kΩ |

※測定値は、JAIA(日本アマチュア無線機器工業会)で定めた測定法によります。

※定格、外観、仕様などは、改良のため予告なしに変更することがあります。

| ■受信バンド〔IC-2SR/IC-3SR共通〕 | | |
|-------------------------|---------------------------|--|
| 一 般 仕 様 | 保 証 周 波 数 範 囲 | 50~905MHz |
| | 動 作 周 波 数 範 囲 | 25~914.9MHz ※詳細は欄外に |
| | 電 波 型 式 | FM/WFM/AM |
| | ア ン テ ナ イ ン ピ ー ダ ン ス | 50Ω不平衡 |
| | 使 用 温 度 範 囲 | -10℃~+60℃ |
| | 電 源 電 圧 | DC9V(標準)、DC6V~16V(接続可) |
| | 接 地 方 式 | マイナス接地 |
| | 消 費 電 流 | 受信時(12.5V時) 最大出力時……………200mA TYP. パワーセーブ時………20mA TYP. |
| 受 信 部 仕 様 | 受 信 方 式 | トリプルスーパーヘテロダイナ |
| | 中 間 周 波 数 | 第一：266.700MHz 第二：10.700MHz 第三：455kHz |
| | 受 信 感 度 (スプリアスポイントは除く) | AM : 10dB S/N +5dBμ FM : 12dB SINAD -5dBμ WFM : 12dB SINAD +5dBμ |
| | ス ケ ル チ 感 度 | 上記、受信感度と同じ |
| | 選 択 度 | AM : 15kHz以上/-6dB FM : 15kHz以上/-6dB WFM : 150kHz以上/-6dB |
| | 低 周 波 出 力 | 0.18W以上(12.5V 8Ω 10%歪時) |
| | 低 周 波 負 荷 イ ン ピ ー ダ ン ス | 8Ω |

※動作周波数

25.0MHz~252.9MHz 255.1MHz~261.9MHz 266.1MHz~270.9MHz
 275.1MHz~379.9MHz 382.1MHz~411.9MHz 415.1MHz~809.9MHz
 834.1MHz~859.9MHz 889.1MHz~914.9MHz

※測定値は、JAIA(日本アマチュア無線機器工業会)で定めた測定法によります。

※定格、外観、仕様などは、改良のため予告なしに変更することがあります。

受信周波数について

| おもな周波数帯域、電波型式、チューニングステップ | | | |
|--------------------------|------|------------|--------------|
| 周波数帯域 | 電波型式 | チューニングステップ | 通信用途 |
| 28.00MHz～29.70MHz | FM | 20kHz | アマチュア無線 |
| 50.00MHz～54.00MHz | FM | 20kHz | アマチュア無線 |
| | AM | 20kHz | |
| 76.10MHz～89.90MHz | WFM | 100kHz | FMラジオ放送 |
| 118.00MHz～136.00MHz | AM | 10kHz | エアバンド |
| 144.00MHz～146.00MHz | FM | 20kHz | アマチュア無線 |
| 156.00MHz～162.00MHz | FM | 5kHz | マリンバンド |
| 430.00MHz～440.00MHz | FM | 20kHz | アマチュア無線 |
| 903.00MHz～905.00MHz | FM | 12.5kHz | パーソナル無線 |
| 95.75MHz～221.75MHz | WFM | 6(4)MHz | VHFテレビ放送(音声) |
| 475.75MHz～769.75MHz | | | UHFテレビ放送(音声) |

上記の周波数帯域は、本機の受信バンド側で受信できる周波数(※P17)の中から、通信用途別にMODE, TSを一覧表にしています。

MODEおよびTSの設定をまちがえますと、うまく電波を受信することができません。

なお、スキャンの周波数範囲を設定するときにも、上記表を参考にしてください。

| テレビ放送(音声)の周波数(MHz, MODE:WFM) | | | | | |
|------------------------------|---------|----------|---------|----------|---------|
| チャンネル | 音声周波数 | チャンネル | 音声周波数 | チャンネル | 音声周波数 |
| VHF 1CH | 95.750 | UHF 22CH | 529.750 | UHF 43CH | 655.750 |
| // 2CH | 101.750 | // 23CH | 535.750 | // 44CH | 661.750 |
| // 3CH | 107.750 | // 24CH | 541.750 | // 45CH | 667.750 |
| // 4CH | 175.750 | // 25CH | 547.750 | // 46CH | 673.750 |
| // 5CH | 181.750 | // 26CH | 553.750 | // 47CH | 679.750 |
| // 6CH | 187.750 | // 27CH | 559.750 | // 48CH | 685.750 |
| // 7CH | 193.750 | // 28CH | 565.750 | // 49CH | 691.750 |
| // 8CH | 197.750 | // 29CH | 571.750 | // 50CH | 697.750 |
| // 9CH | 203.750 | // 30CH | 577.750 | // 51CH | 703.750 |
| // 10CH | 209.750 | // 31CH | 583.750 | // 52CH | 709.750 |
| // 11CH | 215.750 | // 32CH | 589.750 | // 53CH | 715.750 |
| // 12CH | 221.750 | // 33CH | 595.750 | // 54CH | 721.750 |
| UHF 13CH | 475.750 | // 34CH | 601.750 | // 55CH | 727.750 |
| // 14CH | 481.750 | // 35CH | 607.750 | // 56CH | 733.750 |
| // 15CH | 487.750 | // 36CH | 613.750 | // 57CH | 739.750 |
| // 16CH | 493.750 | // 37CH | 619.750 | // 58CH | 745.750 |
| // 17CH | 499.750 | // 38CH | 625.750 | // 59CH | 751.750 |
| // 18CH | 505.750 | // 39CH | 631.750 | // 60CH | 757.750 |
| // 19CH | 511.750 | // 40CH | 637.750 | // 61CH | 763.750 |
| // 20CH | 517.750 | // 41CH | 643.750 | // 62CH | 769.750 |
| // 21CH | 523.750 | // 42CH | 649.750 | | |

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

| | | |
|--------|-----------------------|--------------------|
| 本社 | 547 大阪市平野区加美東6丁目9-16 | |
| 北海道営業所 | 060 札幌市中央区大通東9丁目14 | TEL (011)251-3888 |
| 仙台営業所 | 982 仙台市若林区若林1丁目13-48 | TEL (022)285-7785 |
| 東京営業所 | 130 東京都墨田区亀沢1丁目4-18 | TEL (03)3621-8649 |
| 名古屋営業所 | 466 名古屋市昭和区長戸町2丁目16-3 | TEL (052)842-2288 |
| 金沢出張所 | 921 金沢市高島1丁目335 | TEL (0762) 91-8881 |
| 大阪営業所 | 547 大阪市平野区加美南1丁目8-35 | TEL (06)793-0331 |
| 広島営業所 | 733 広島市西区観音本町2丁目10-25 | TEL (082)295-0331 |
| 四国営業所 | 760 高松市塩上町2丁目1-5 | TEL (0878) 35-3723 |
| 九州営業所 | 815 福岡市南区塩原4丁目5-48 | TEL (092)541-0211 |

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします